

大洗町文化財調査報告書 第 30 集

茨城県東茨城郡大洗町

飛城遺跡（第 2 次）

大洗町消防本部改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

2 0 2 5

大 洗 町 消 防 総 務 課

大 洗 町 教 育 委 員 会

株式会社日本窯業史研究所

大洗町文化財調査報告書 第 30 集

茨城県東茨城郡大洗町
ひ じょう い せき だい に じ
飛城遺跡 (第 2 次)

大洗町消防本部改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

2 0 2 5

大 洗 町 消 防 総 務 課
大 洗 町 教 育 委 員 会
株式会社日本窯業史研究所

序

大洗町は、茨城県太平洋岸のほぼ中央に位置し、東は鹿島灘、北は那須茶臼岳を源とする那珂川、西は笠間市国見山を源とする涸沼川や、平成27年にラムサール条約に登録された涸沼を臨む、自然環境に恵まれた地であります。

自然の恵みを享受したこの地では、原始古代より人々の生活が営まれ、彼らが残してきた遺跡が多く発見されております。これらの遺跡の一つ一つは大洗町の歩んできた歴史を伝える大切な文化遺産であり、町の誇り、財産でもあります。我々はこれらの遺跡を大切に保護し、後世へ伝えていかなければなりません。

その一つである飛城遺跡は、町消防本部庁舎の建設事業に伴って、令和6年3～8月に発掘調査が実施されました。調査からは、縄文時代晩期に帰属する土坑や焼土ピット、平安時代の竪穴建物跡1棟のほか、中世の地下式坑4基や方形竪穴3基などを検出し、断続的ではあるにせよ、複数の時代に及ぶ生活の痕跡が発見されました。

特に、中世に帰属する出土遺物の内耳土鍋、小皿、天目茶碗、銭貨などは、西側に隣接する登城館跡と並行する15世紀後半から16世紀前半頃に位置づけることができ、谷を挟んだ館の内外の関係性が注視されるところです。

この度、明らかとなった町の重要な歴史が、この本を基礎として、将来を担う子どもたちや一般町民に広く周知され、学校教育や生涯学習の場で、普及活用されていくことを期待しております。

最後になりますが、発掘調査に際しご協力くださいました町消防本部の皆様、発掘調査及び整理報告書作成作業を担当されました株式会社勾玉工房、株式会社日本窯業史研究所の担当者や調査員、作業に参加された方々、指導助言を受けた茨城県教育庁総務企画部文化課の方々に、心から感謝申し上げます。

令和7年10月

大洗町教育委員会
教育長 長谷川 馨

例 言

1. 本書は、大洗町消防本部改築工事に伴う飛城遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は大洗町教育委員会の指導のもと、株式会社勾玉工房が実施した。
3. 調査概要及び発掘調査体制は下記の通りである。

所在地 東茨城郡大洗町大貫町字飛城1441番外地内

調査面積 1,060m²

調査期間 令和6年3月25日 から 令和6年8月5日

調査指導 蓼沼香未由（大洗町教育委員会生涯学習課文化財係長）

調査担当者 山室 敦（株式会社勾玉工房）

調査員 大賀庸平（株式会社勾玉工房）

調査参加者 長峰和行 菅谷末吉 山田 仁 斎藤隆夫 高岡 徹 小野健治 大里行弘 照沼博幸
川上保正 関澤昌宏

4. 本報告書の作成は、大洗町教育委員会の指導のもと、株式会社日本窯業史研究所が実施した。

整理作業期間 令和6年12月18日 から 令和7年10月31日

整理担当者 水野順敏（株式会社日本窯業史研究所）

調査員 三輪孝幸（株式会社日本窯業史研究所）

新井 潔（株式会社日本窯業史研究所）

5. 本書の執筆は、第1章第1節を蓼沼香未由、第1章第2節を山室 敦、その他は水野順敏、新井 潔が行った。遺構・遺物のトレース、編集においては三輪孝幸、菅間智子の協力を得た。
6. 本調査に係る出土遺物及び実測図・写真などの記録類は、大洗町教育委員会が保管している。
7. 調査及び整理・報告書作成において、下記の諸機関及び各位よりご指導とご協力を賜った。芳名を記して謝意を表する次第である。

茨城県教育庁総務企画部文化課 新光重機株式会社 有限会社トキワ 那珂川町なす風土記の丘資料館
山下守昭 (敬称略・順不同)

凡 例

1. 本書に記載の座標値は世界測地系（第IX系）を用いている。挿図のうち平面図の方位記号は座標北を、土層断面図の水準線の数値は、海拔標高をそれぞれ示す（単位：m）。
2. グリッドは上記座標に基づく10m方眼を設定し、X軸をアラビア数字、Y軸をアルファベットで表示し、「A1」、「B2」のように示す。
3. 土層及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 編・著 農林水産省農林水産技術会議事務局 監修（財）日本色彩研究所 色票監修 2008年度版）に準拠する。
4. 掲載した挿図類の縮尺は次の通りである。

飛城遺跡の第1・2次調査区位置図：1/1,000

飛城遺跡の位置と周辺遺跡分布図：1/25,000

飛城遺跡の範囲と大貫台地における飛城遺跡を取り巻く遺跡群：1/5,000

遺構配置図：1/300

遺構：1/50を基本とし、カマドは1/25、溝跡及び性格不明遺構の平面図は1/100、土層断面図は1/50、各図にスケールを示した。

遺物：1/3を基本とし、墨書、緑釉陶器、石器（石匙、刃器）、鉄・銅製品、土製品は2/3、各図にスケールを示した。

5. 遺物写真の縮尺は実測図の縮尺に準ずる。

6. 遺物観察表の左端の番号は遺物の掲載番号で、本文、遺構・遺物実測図、写真図版とも共通する。「出土位置・取り上げ番号」は遺物の注記番号である。





7. 全体図、遺構実測図、遺物観察表及び遺物注記で使用した略号は次の通りである。

遺跡略号：ヒジョウ2次 堅穴建物跡：SI 地下式坑・方形堅穴・土坑：SK 溝跡：SD

性格不明遺構：SX 焼土ピット：FP ピット：P（付属ピットは明朝体、単独ピットはゴシック）

攪乱：K ローム塊：LB グリッド：Gr

8. 挿図中の塗り、網掛け等は以下に示す通りである。

遺構：  カマド構築材  焼土・焼面  床面硬化面  攪乱

●土器 ★金属製品

遺物：  須恵器断面  灰釉陶器・緑釉陶器・炆器・陶器断面  黒色処理

 墨書土器文字

拓本は1葉の場合断面図の左に外面（例：第6図1・2）、2葉の場合断面図の右に外面、左に内面（例：第10図8）、底部の場合は実測の下に外面（例：第11図1）を配置した。

9. A区の各遺構の番号は遺構確認時に付したものであり、調査の進捗に伴い別種の遺構及び攪乱と判されたものもある。攪乱はそのまま欠番とし、別種の遺構と判されたものは略号、番号はそのままに遺構名称を付した。例「SK13」＝「第13号地下式坑」、「SK15」＝「第15号方形堅穴」、それぞれ変更のあったものを以下に表記する。B区も同様であるが、確認された遺構数が少なくSKの欠番が2基生じたのみであり、BSK01、BP01としてA区の遺構と合わせ掲載した。

遺構番号対照表

略号	遺構名称	略号	遺構名称	略号	遺構名称
SK13	第13号地下式坑	SK16	第16号方形堅穴	SK51	第51号地下式坑
SK14	第14号地下式坑	SK18	第18号方形堅穴	BSK01	第B1号土坑
SK15	第15号方形堅穴	SK19	第19号地下式坑	BP01	ピットB1

※攪乱の為欠番＝A区：SK22～32・34～37・39～41・43～45・50・53～60、SD07、B区：SK02・03
なお、欠番となった部分の出土遺物は、該当するグリッド遺物として第16表に集計した。

目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過と方法	2
1 調査の経過	2
2 調査の方法	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	8
第1節 調査の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 検出された遺構と遺物	11
1 縄文時代	11
(1) 土坑	11
(2) 焼土ピット	11
(3) 性格不明遺構	12
2 古代	13
(1) 竪穴建物跡	13
(2) 土坑	16
(3) ピット	17
3 中世	17
(1) 地下式坑	17
(2) 方形竪穴	24
(3) 性格不明遺構	26
4 時期不明	28
(1) 土坑	28
(2) 溝跡	34
(3) ピット	37
5 遺構外出土遺物	41
第4章 総括	45
第1節 土地利用の変遷	45
第2節 特徴ある遺構について	46
引用・参考文献	
写真図版	
抄録・奥付	

挿 図 目 次

- | | | | |
|------|------------------------------|------|-----------------------|
| 第1図 | 飛城遺跡の第1・2次調査区位置図 | 第20図 | 第15号方形竪穴 |
| 第2図 | 飛城遺跡の位置と周辺遺跡分布図 | 第21図 | 第16号方形竪穴 |
| 第3図 | 飛城遺跡の範囲と大貫台地における飛城遺跡を取り巻く遺跡群 | 第22図 | 第18号方形竪穴 |
| 第4図 | 基本層序 | 第23図 | 方形竪穴出土遺物 |
| 第5図 | 遺構配置図 | 第24図 | 第2号性格不明遺構・出土遺物 |
| 第6図 | 第4号土坑・出土遺物 | 第25図 | 第1～3・5～8号土坑、ピット8 |
| 第7図 | 焼土ピット1・出土遺物 | 第26図 | 第9・12・17・20・21・33号土坑 |
| 第8図 | 第1号性格不明遺構・出土遺物 | 第27図 | 第38・42・46～49・52・61号土坑 |
| 第9図 | 第1号竪穴建物跡・第1号土坑、第11号土坑 | 第28図 | 第1号溝跡 |
| 第10図 | 第1号竪穴建物跡カマド・出土遺物(1) | 第29図 | 第2号溝跡 |
| 第11図 | 第1号竪穴建物跡(2)・第1号土坑出土遺物 | 第30図 | 第3号溝跡 |
| 第12図 | 第10号土坑・出土遺物 | 第31図 | 第4号溝跡 |
| 第13図 | 第B1号土坑・出土遺物 | 第32図 | 第5号溝跡 |
| 第14図 | ピット13・出土遺物 | 第33図 | 第6号溝跡 |
| 第15図 | 第13号地下式坑 | 第34図 | 第8号溝跡 |
| 第16図 | 第14号地下式坑 | 第35図 | 溝跡出土遺物 |
| 第17図 | 第19号地下式坑 | 第36図 | ピット1～6 |
| 第18図 | 第51号地下式坑 | 第37図 | ピット7・9～12・14～25 |
| 第19図 | 地下式坑出土遺物 | 第38図 | ピット26～48 |
| | | 第39図 | ピット49～61・B1 |
| | | 第40図 | 遺構外出土遺物(1) |
| | | 第41図 | 遺構外出土遺物(2) |

表 目 次

- 第1表 周辺遺跡一覧表
- 第2表 第4号土坑出土遺物観察表
- 第3表 焼土ピット1出土遺物観察表
- 第4表 第1号性格不明遺構出土遺物観察表
- 第5表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表
- 第6表 第1号竪穴建物跡第1号土坑出土遺物観察表
- 第7表 第10号土坑出土遺物観察表
- 第8表 第B1号土坑出土遺物観察表
- 第9表 ピット13出土遺物観察表
- 第10表 地下式坑出土遺物観察表
- 第11表 方形竪穴出土遺物観察表
- 第12表 第2号性格不明遺構出土遺物観察表
- 第13表 溝跡出土遺物観察表
- 第14表 ピット計測表
- 第15表 遺構外出土遺物観察表
- 第16表 出土遺物集計表

写真図版目次

- 写真図版 1 A. A・B区全景（垂直、上が東） B. 遺跡全景（北西から） C. A区全景（垂直、上が北西）
D. A区基本層序（南西から） E. B区基本層序（北西から）
- 写真図版 2 A. 第4号土坑完掘（南西から） B. 焼土ピット1土層断面B-B'（南西から） C. 第1号性格不明遺構完掘（南西から） D. 第1号竪穴建物跡完掘（東から） E. 第1号竪穴建物跡遺物出土状況（南から） F. 第1号竪穴建物跡カマド完掘（東から） G. 第1号竪穴建物跡カマド確認状況（東から） H. 第1号竪穴建物跡第1号土坑完掘（東から）
- 写真図版 3 A. 第10号土坑完掘（南西から） B. 第B1号土坑完掘（南西から） C. 第13号地下式坑完掘（南東から） D. 第13号地下式坑完掘（南西から） E. 第14号地下式坑完掘（西から）
F. 第14号地下式坑完掘（東から） G. 第19号地下式坑完掘（南から） H. 第19号地下式坑完掘（北から）
- 写真図版 4 A. 第51号地下式坑完掘（東から） B. 第51号地下式坑完掘（北から） C. 第15号方形竪穴完掘（南東から） D. 第15号方形竪穴ピット1～4完掘（北西から） E. 第16号方形竪穴完掘・土層断面（南東から） F. 第18号方形竪穴完掘・土層断面（東から） G. 地下式坑群完掘（北から） H. 第2号性格不明遺構完掘（北から）
- 写真図版 5 A. 第1号土坑完掘（西から） B. 第2号土坑完掘（北西から） C. 第3号土坑完掘（西から）
D. 第6号土坑完掘（南から） E. 第7号土坑完掘（南から） F. 第8号土坑完掘（北から）
G. 第9号土坑完掘（南西から） H. 第12号土坑完掘（北から） I. 第17号土坑完掘（南東から）
J. 第20号土坑完掘（西から） K. 第21号土坑完掘（南西から） L. 第33号土坑完掘（南から）
M. 第38号土坑完掘・土層断面（東から） N. 第42号土坑完掘（南から） O. 第46号土坑完掘（南から）
P. 第47号土坑完掘（南西から） Q. 第52号土坑完掘（南から） R. 第61号土坑完掘（南から）
- 写真図版 6 A. 第1号溝跡完掘（東から） B. 第2号溝跡完掘（西から） C. 第3号溝跡完掘（南西から）
D. 第4号溝跡東側完掘（東から） E. 第4号溝跡西側完掘（南から） F. 第5号溝跡完掘（北東から）
G. 第6号溝跡完掘（西から） H. 第8号溝跡完掘（南から）
- 写真図版 7 出土遺物（1）
- 写真図版 8 出土遺物（2）

第1章 調査に至る経緯と経過

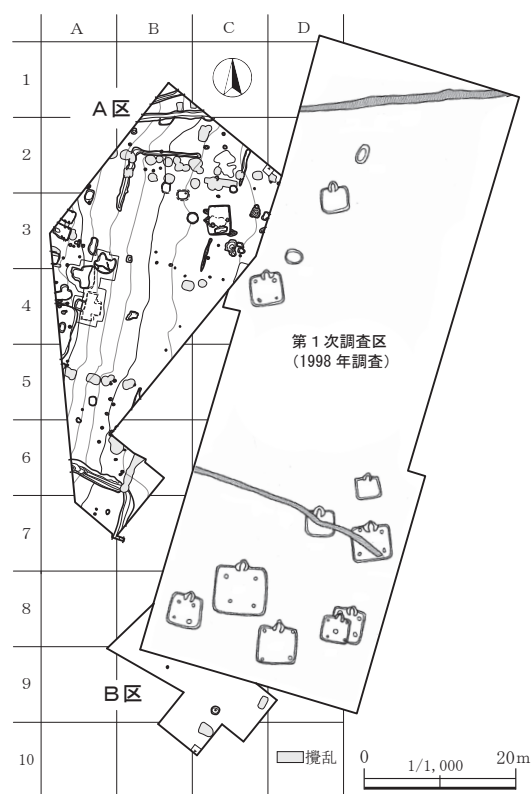
第1節 調査に至る経緯

飛城遺跡は、昭和48年2月の大洗町の分布調査時には古代に帰属する遺跡として周知されていた（熊川編 1973）。平成10年の大貫台の開発事業に伴い、大貫落神北貝塚・大貫落神南貝塚・常福寺遺跡・登城遺跡・落神遺跡とともに、第1次発掘調査が実施された（井上編 2000）。第1次発掘調査地点は、標高約34.6mの台地上平坦面で、南北83m×東西幅28mの総面積は2,430㎡である。閑散とした集落展開をする北竈を持つ古代の竪穴建物跡10棟を中心に、土坑2基、東西に走る溝跡2条から構成された、主に奈良時代から平安時代前期に帰属する集落跡である。

令和4年度に入ると、第1次発掘調査区域を含めその西側に隣接して町消防本部庁舎の建設事業の計画が持ち上がった。令和4年12月12日～12月27日の9日間、大洗町生涯学習課が主体となって試掘調査を実施した。試掘調査は、開発区域内に平行する4本の調査区（第1～4号トレンチ）を設定して行い、地山の関東ローム層の上面まで重機により掘り下げた。北西側の谷を埋め立てた車庫予定地からは遺構が検出されなかったため除外した。北東側の消防庁舎・非常用発電・屋外トイレの建設予定地からは、5棟の建物跡（後の発掘調査でほとんどが土坑であることが判明）と1条の溝跡を検出した。

開発予定地は、飛城遺跡内に含まれたため、文化財保護法第94条の規定に従い、大洗町長國井豊（町消防総務課所管）より茨城県教育委員会教育長宛に、令和5年7月14日付で「埋蔵文化財発掘の通知について」が提出された。同年8月7日付で、去る12月の試掘調査成果を意見書として取りまとめ、県教育庁総務企画部文化課長宛に提出した。その結果、令和5年8月10日付、文第1609号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」により、第1次発掘調査区域を除いた、遺構の埋没が予想される範囲（消防庁舎の北東半分・非常用発電・屋外トイレ・訓練棟の一部・防火水槽）に限って、発掘調査を実施することとなった。

業務は民間の発掘調査会社を導入するものとし、町消防本部発注による指名競争入札の結果、令和6年2月に株式会社勾玉工房が受託し、同年3月25日から発掘調査を開始した。年度繰り越しで事業を進め、ほぼ調査の終了した同年6月1日の午後には、現地説明会も開催した（大洗町教育委員会生涯学習課・株式会社勾玉工房 2024）。



第1図 飛城遺跡の第1・2次調査区位置図

第2節 調査の経過と方法

1 調査の経過

- 3月25日 機材・重機搬入、B区の表土掘削開始。
- 3月27日 B区の表土掘削終了、A区の表土掘削開始。
- 4月1日 トイレ搬入、安全対策の実施。
- 4月5日 A区の表土掘削終了、A・B区遺構検出作業開始。
- 4月11日 A・B区の遺構検出作業終了、調査区グリッド設定。
- 4月12日 A区の調査を行う（～5月30日）。
- 5月30日 現地説明会準備。
- 6月1日 現地説明会実施。
- 6月3日 A・B区の調査を継続する（～7月22日）。
- 7月23日 大洗町教育委員会による調査終了確認を受ける。
- 7月24日 空中写真による全景写真撮影を行う。
- 8月5日 残務処理・機材撤収を行い、全ての野外調査を終了した。

2 調査の方法

調査区北側930㎡をA区、南側130㎡をB区と設定し、1,060㎡の調査を実施した。表土掘削は0.45㎡級バックホウにて行い、残土は4tキャリアダンプを用いて開発予定地の谷下に仮置きした。遺構確認作業は鋤簾にて人力で行った。確認された遺構は記号・番号を付し、土層観察用ベルトを設定し、移植ゴテなどを用い掘り下げを行った。調査では、天井部の遺存が認められる地下式坑を検出したため、大洗町教育委員会と協議を行い、天井部を除去し、1.5m以上の深度のある遺構は、周辺の地山を段掘状に削平し、安全性に留意しながら調査を行った。遺物は可能な限り出土位置を記録した。帰属する遺構が明らかでない遺物、耕作によるトレンチャー痕から出土した遺物はグリッド単位で一括して取り上げた。グリッドは世界測地系(第IX系)に基づき北西隅を基点とする10mの方眼を設定し、X軸をアラビア数字、Y軸をアルファベットで示した。トータルステーションを用いて記録した。縮尺は全体図1/200、遺構平面図・遺物出土状況図・土層断面図などは1/20、カマドは1/10で作図した。写真撮影は小型カメラ及び2,620万画素のデジタルカメラを用いて調査状況、遺構状況、遺物出土状況などを記録し、調査区全景はドローンを用いて空中写真撮影を行った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

飛城遺跡は、茨城県東茨城郡大洗町大貫町字飛城地内に所在する。

茨城県は関東平野の北東部に位置し、大洗町はその東端、太平洋岸の中央部に所在する。町域は東西2.5km、南北9.0kmの海岸線に沿って細長い形状で、面積は23.89km²である。

東は太平洋の鹿島灘に面し、北は栃木県那須郡茶臼岳を源とする那珂川を境にひたちなか市、北西は笠間市国見山を源とする涸沼川を境に水戸市、南西は涸沼を隔てて東茨城郡茨城町、南は鉾田市と隣接する。町域の北西を限る涸沼川は北東流して那珂川に合流し、太平洋へと注ぐ。

市街地は海岸線に沿う低地部に形成され、その西側には標高25～35m程の台地を背負う。台地は鹿島台地の北部にあたる洪積台地で、基盤層の大洗層の上に見和層、常総粘土層、関東ローム層などが堆積する。台地は小支谷によって樹枝状に開析されている。また、涸沼川などによって河岸段丘が形成され、涸沼及び涸沼川沿いには沖積地が見られる。

本遺跡は、鹿島臨海鉄道大洗鹿島線大洗駅の南西約2km、標高33～35m程の大貫台地に立地する。遺跡の北西側の地域は工業団地として開発されて旧地形が失われているが、その縁辺部にあたる調査区付近は旧地形が残り、東と西に小支谷が嵌入し、馬の背状を呈する。当該地も当時は開発予定地に含まれていて、一部発掘調査が実施されたものの、除外された為荒蕪地となっていた。

第2節 歴史的環境 (第2・3図、第1表)

飛城遺跡は大洗町の中程に所在する。本町では僅か23.89km²の範囲内に計107か所(令和5年4月現在)の遺跡が確認されており、県下において遺跡の分布密度の高い地域である。遺跡は旧石器時代から江戸時代にわたる集落跡、貝塚、古墳、城館跡などがあり、このうち「磯浜古墳群」がその重要性から近年国指定史跡となった(大洗町教育委員会編 2023)。本遺跡周辺の遺跡を第2・3図、第1表に示した。

旧石器時代 該期の遺跡は町域の北端部で2か所確認されているのみで、本遺跡周辺では確認されていないものの、今後台地上の遺跡で出土する可能性が高い。

縄文時代 該期の遺跡は、大貫落神北貝塚(46)、大貫落神南貝塚(47)、千天遺跡(75)などが所在する。早・前期の遺跡は周辺では確認されていない。中期では千天遺跡(75)で中期中葉から後期初頭の竪穴建物跡や土坑が多数確認され、土坑から外海岩礁域に生息する貝類がブロック状に遺存していた(井上・植田・松橋 1982)。後期前葉から中葉の大貫落神北・南貝塚(46・47)では7地点の斜面貝塚及び包含層から構成され、外海に生息する貝類も含まれる。貝塚直上に立地する常福寺遺跡(45)では該期の集落跡が確認されている(井上・蓼沼 2001)。生産活動における魚労の占める割合が高かったことを示している。

弥生時代 該期の遺跡は、周辺では髭釜遺跡(26)、長峯遺跡(38)、天子遺跡(52)などが知られる。髭釜遺跡(26)は約7.2haに及ぶ広大な遺跡で、数次にわたり発掘調査が実施されているものの、鉄道敷設や土地区画整理事業などによって破壊を受けた部分も多い。既往の調査において後期後半十王台式期の貝塚が確認され、後期の竪穴建物跡から貝類、魚類、獣類の遺体が出土している(井上・宮田・杉浦・福田 1975・1976、井上 1977・1980、藤本(武) 1991、井上・宮田 1999)。長峯遺跡(38)では後期前半の竪穴建物跡が17軒確認されている(井上 1973)。この時代においても漁労に深く係っていたことが知られる。

古墳時代 周辺の該期の遺跡は髭釜遺跡(26)、常福寺遺跡(45)、長峯遺跡(38)、落神遺跡(41)、千天遺跡(75)等が所在する。古墳は前述の磯浜古墳群(1)を筆頭に、寺家上古墳(23)、行人塚古墳(27)、花池古墳(29)、富士山古墳(30)、神ノ下古墳(66)、宮久保古墳(68)、塩見塚古墳(71)、下宿古墳(76)などが所在する。髭釜遺跡(26)では前期、後期を中心とした竪穴建物跡が確認されている。常福寺遺跡(45)でも前期・後期を中心とする竪穴建物跡が44軒調査された(井上編 2000)。また、長峯遺跡(井上 1973)、落神遺跡(井上 2001)、千天遺跡(村田編 1980)などで複数の竪穴建物跡が確認されており、町域の広範囲に集落が形成されていたことが知られる。磯浜古墳群(1)は、前方後方墳1基、前方後円墳2基、円墳1基、墳形不明2基の計6基で構成され、前期前葉から中期初頭にかけての当地の首長層の奥津城であったと考えられる。前方後方墳の姫塚古墳は全長29.42m、前方後円墳の日下塚古墳は総長128.2m、坊主山古墳は現存長60.0m、円墳の車塚古墳は周溝を含めると直径128.0mの大円墳である(大洗町教育委員会編 2023)。



第2図 飛城遺跡の位置と周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

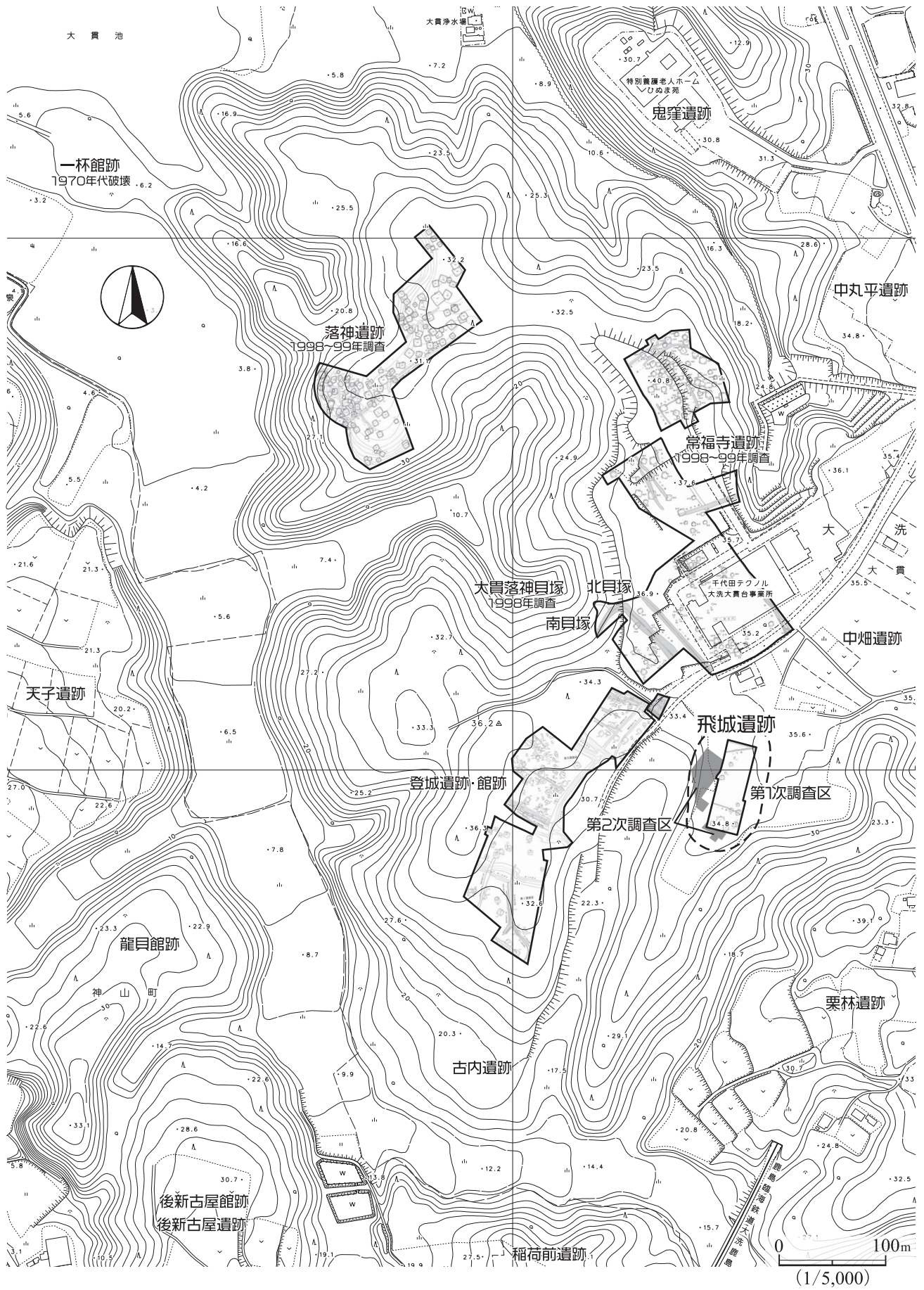
番号	遺跡名	所在地	種別	現況	時代											
					縄文	弥生		古墳			奈・平	中世	近世			
						前期	後期	前期	中期	後期						
1	磯浜古墳群	磯浜町2865-8 外24筆	古墳群	山林					○	○						
22	釜堀遺跡	磯浜町6694	貝塚	畑地	○	○										
23	寺家上古墳	磯浜町5311	古墳	校地・山林				○								
25	望洋館・磯浜海防陣屋跡	磯浜町2865外	城館跡	山林												○
26	髭釜遺跡	桜道301	集落跡	宅地		○	○	○		○						
27	行人塚古墳	磯浜町1113-1	古墳	山林							○					
28	勘十堀貝塚	桜道28	貝塚	宅地	○											
29	花池古墳	大貫町字花池481	古墳	畑地							○					
30	富士山古墳	大貫町1817	古墳	山林							○					
31	ウツギ崎岩跡	大貫町2004-1	城館跡	山林											○	
32	船渡遺跡	大貫町2284	集落跡	畑			○	○	○	○						
33	官女平遺跡	大貫町2186	集落跡	畑			○			○	○					
34	へ口内遺跡	大貫町2562	集落跡	畑			○	○	○	○	○					
35	権現坂横穴墓	大貫町745-16	横穴墓	山林						○						
36	富士ノ腰遺跡	大貫町1770	集落跡	畑			○				○					
37	寺ノ上遺跡	大貫町1735	集落跡	畑			○	○	○	○	○					
38	長峯遺跡	大貫町2908	集落跡	校地			○	○		○	○					
39	中丸平遺跡	大貫町3303	集落跡	畑	○		○	○	○	○	○					
40	鬼窪遺跡	大貫町3295	集落跡	畑			○	○	○	○	○					
41	落神遺跡	大貫町3446	集落跡	荒地	○		○	○	○	○	○		○	○		
42	一杯館跡	大貫町4238	城館跡	荒地											○	
43	椿山遺跡	神山町1998-6	集落跡	畑	○		○									
44	中畑遺跡	大貫町1572	集落跡	畑	○								○			
45	常福寺遺跡	大貫町3507	集落跡	荒地	○		○	○	○	○	○		○	○		
46	大貫落神北貝塚	大貫町3800	貝塚	荒地	○											
47	大貫落神南貝塚	大貫町3777	貝塚	荒地	○											
48	蜂内遺跡	神山町1982	集落跡	畑	○		○	○		○						
49	飛城遺跡	大貫町1448	集落跡	荒地				○	○	○	○					
50	登城館跡	大貫町3738	城館跡	山林											○	
51	登城遺跡	大貫町3744	集落跡	荒地	○		○		○	○	○		○	○		
52	天子遺跡	神山町1899	集落跡	畑	○	○	○		○		○					○
53	前峯遺跡	神山町2009	集落跡	畑			○									
54	長町遺跡	神山町2039	集落跡	畑			○									
55	龍貝館跡	神山町1685	城館跡	山林											○	
56	神山塙遺跡	神山町2030	集落跡	畑	○											
57	栗林遺跡	大貫町1349	集落跡	畑	○				○	○	○		○			
58	古内遺跡	大貫町3667	集落跡	荒地	○											
59	後新古屋遺跡	神山町1694	集落跡	畑・山林			○	○	○	○	○					
60	後新古屋館跡	神山町1697-1	城館跡	山林・畑地											○	
61	御中山遺跡	大貫町1194-3	集落跡	畑・宅地	○				○	○	○					
62	稲荷前遺跡	神山町1103	集落跡	畑	○		○				○	○				
63	矢場久保遺跡	大貫町1208-5	集落跡	畑											○	
64	清瀬遺跡	神山町1528	集落跡	畑			○	○	○	○	○					
65	天神西遺跡	神山町1034-1	集落跡	畑	○		○				○	○	○			
66	神ノ下古墳	神山町1741	古墳	山林												
67	神ノ前遺跡	神山町734	集落跡	畑											○	
68	宮久保古墳	神山町1047-1	古墳	山林							○					
69	夏海浜欠台場跡	成田町4356-3外	台場跡	道路												○
70	今神遺跡	神山町1331	集落跡	畑				○	○	○						
71	塩見塚古墳	神山町1314-3	古墳	山林							○					
72	蒲沼遺跡	神山町1362	集落跡	畑	○				○							
73	田神遺跡	神山町942	集落跡	畑	○			○					○			
74	保地畑遺跡	神山町882	集落跡	畑・墓地			○	○	○	○					○	
75	千天遺跡	神山町461	集落跡	畑	○		○	○			○	○				
76	下宿古墳	成田町109	古墳	神社				○								
77	四反遺跡	成田町399	集落跡	畑	○		○	○		○	○					
78	南藤太郎遺跡	神山町339	集落跡	畑	○		○	○		○	○					
79	與吾遺跡	神山町110	集落跡	畑	○		○	○		○	○					
80	旧陣屋遺跡	神山町4391	集落跡	畑		○	○	○	○	○				○	○	
81	松川陣屋跡	神山町4393	城館跡	畑												○
82	明後内遺跡	成田町642	集落跡	畑			○						○			
83	日中内遺跡	成田町578	集落跡	畑	○		○						○	○		
84	大峯遺跡	成田町1395	集落跡	畑				○	○	○	○					
85	旧陣屋古墳	神山町4337-3	古墳	畑地					○							

奈良・平安時代 律令制下においては、当地は常陸国鹿島郡に属し、町域の中程から北側が宮田郷、南側から鉾田市にかけて大屋郷に比定され、本遺跡は宮田郷に属していたと推定される。該期の遺跡は非常に多く確認されており、現在知られている遺跡の半数近くを占める。したがって、第2図に示した範囲内でも27か所が該期の遺跡である。また、遺跡数や確認される遺構数とも平安時代の占める割合が高く、人口増加の実態を示している。周辺の調査事例では髭釜遺跡（26）、長峯遺跡（38）、落神遺跡（41）、常福寺遺跡（45）、飛城遺跡（第1次）（49）、登城遺跡（51）などが挙げられる。落神遺跡（41）で28軒、常福寺遺跡（45）で74軒、飛城遺跡（第1次）（49）で10軒の竪穴建物跡が確認されており、台地の平坦部に広く集落が展開している（井上編 2000、井上 2001）。また、登城遺跡（51）からは奈良時代の魚網用の土錘、鉄製農具や平安時代の籾状態の稲が出土し、生産活動の多面性を示している（井上・蓼沼 2001）。

中世 近隣の該期の遺跡としてはウツギ崎砦跡（31）、一杯館跡（42）、登城館跡（50）、龍貝館跡（55）、後新古屋館跡（60）などが所在する。本遺跡の北西に隣接する登城館跡（50）は2次にわたる調査で複数の郭を持ち、郭内に掘立柱建物跡、地下式坑、竪穴状遺構などを配置した、15世紀後半を中心とする城館跡と確認された（井上・蓼沼 2001）。落神遺跡（41）からは堀跡、溝跡、土坑などが確認され、15世紀中葉から16世紀中葉の土師質土器が出土し、未調査で消滅した一杯館跡（42）との関係が推定されている（井上 2001）。

近世 周辺の該期の遺跡としては望洋館・磯浜海防陣屋跡（25）、常福寺遺跡（45）、松川陣屋跡（81）が所在する。望洋館・磯浜海防陣屋跡（25）は、天保年間に水戸藩第9代藩主徳川斉昭により水戸藩沿岸を異国船から防衛する為に設けられた施設である。海の眺望が良い場所を選地した結果、磯浜古墳群（1）と同じ場所となった（大洗町教育委員会編 2023）。常福寺遺跡（45）では円形・楕円形の粘土貼り土坑が10基確認され、いずれも墓坑（墳）と判断された。そのうち1基は17世紀以降と考えられ、人骨とともに38枚の銭貨が副葬されていた（井上・蓼沼 2001）。松川陣屋跡（81）は守山藩の陣屋跡で、元禄15（1702）年から明治4（1871）年の廃藩置県まで存続した。御殿跡に礎石の一部が残る（中根 1986）。

以上のように本遺跡周辺には各時代の遺跡が多数所在し、土地利用の変遷を知ることが出来る。



第3図 飛城遺跡の範囲と大貴台地における飛城遺跡を取り巻く遺跡群

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

今次調査区は開発予定地の西側部分にあたり、東側部分は既に平成10年に発掘調査が実施されている。開発予定地の未調査部分に対して大洗町教育委員会が実施した確認調査の結果にもとづき調査範囲が決定された。この為調査区は2か所に分かれ、A区が930㎡、B区が130㎡の計1,060㎡を調査対象とした。

第1次調査では約2,400㎡の範囲で古墳時代から奈良・平安時代の竪穴建物跡が10軒確認されており、今次調査区にも集落の広がりが見込まれた。

調査の結果、A区では縄文時代の土坑1基、焼土ピット1基、性格不明遺構1基、古代の竪穴建物跡1軒、土坑1基、ピット1基、中世の地下式坑4基、方形竪穴3基、性格不明遺構1基、時期不明の土坑22基、溝跡7条、ピット61基が確認された。B区では古代の土坑1基、時期不明のピット1基のみであり、A区と合わせて報告する。出土遺物は、縄文土器（浅鉢、深鉢、注口土器）、石器（石匙、刃器、石皿）、古代の土師器（坏、埴、高台付埴、高坏、鉢、小形甕、甕、甑）、須恵器（坏、高台付坏、蓋、瓶、長頸壺、壺蓋、甕）、灰釉陶器（碗）、緑釉陶器（蓋）、鉄製品（釘）、土製品（土玉）、中世の炆器（捏鉢、甕）、土師質土器（小皿、内耳土鍋）、陶器（天目茶碗、瓶）、銭貨（北宋銭、明銭）、近世以降の陶器（碗、菊皿、皿、瓶）、磁器（小坏、皿）などが出土した。

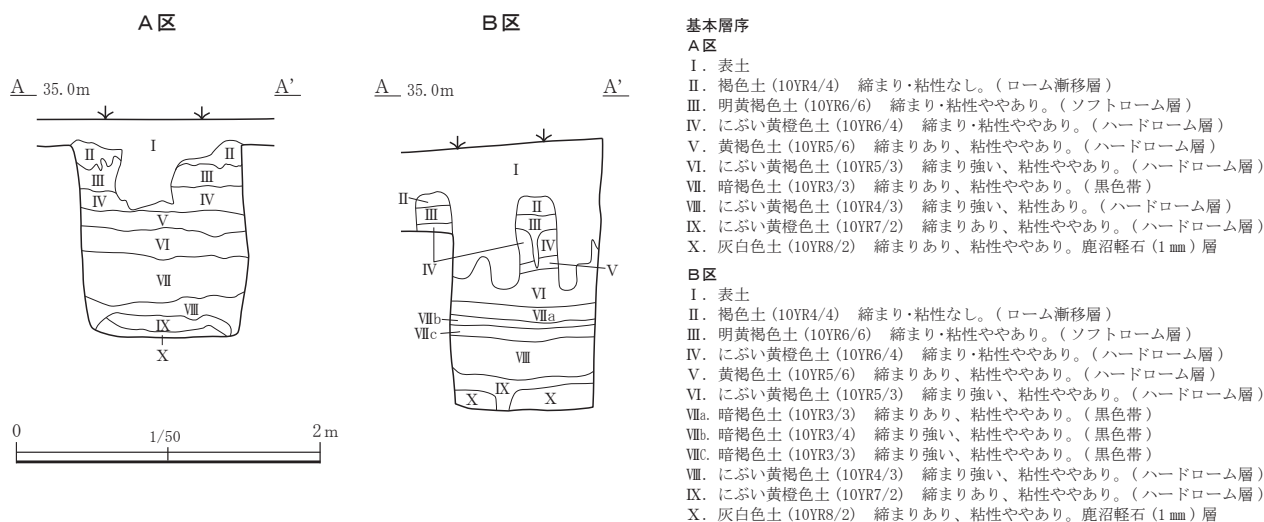
当初予想された古代の集落の広がりにはなかったものの、A区西寄りに中世の遺構がまとまって確認されたことが今次調査の最大の成果である。

第2節 基本層序（第4図、写真図版1）

A区北東部のC・D2グリッドと、B区南端のB・C10グリッドにテストピットを設け、観察・記録を行った。当該地は鹿島台地の北部にあたる洪積台地で関東ローム層が堆積している。耕作等の影響を受け、表土層直下がローム漸移層となっていた。立川層下位の鹿沼軽石層を目安に掘削した。

A区では現地表面下1.40mで鹿沼軽石層に至る。この間現地表面下0.90mに黒色帯が見られ、厚さは0.25～0.30mで細分はできなかった。

B区では現地表面下1.60mで鹿沼軽石層に至り、厚さは0.12～0.20mである。この間現地表面下1.10m程で黒色帯に至り、厚さは0.20m程でa～cの3層に細分される。



第4図 基本層序

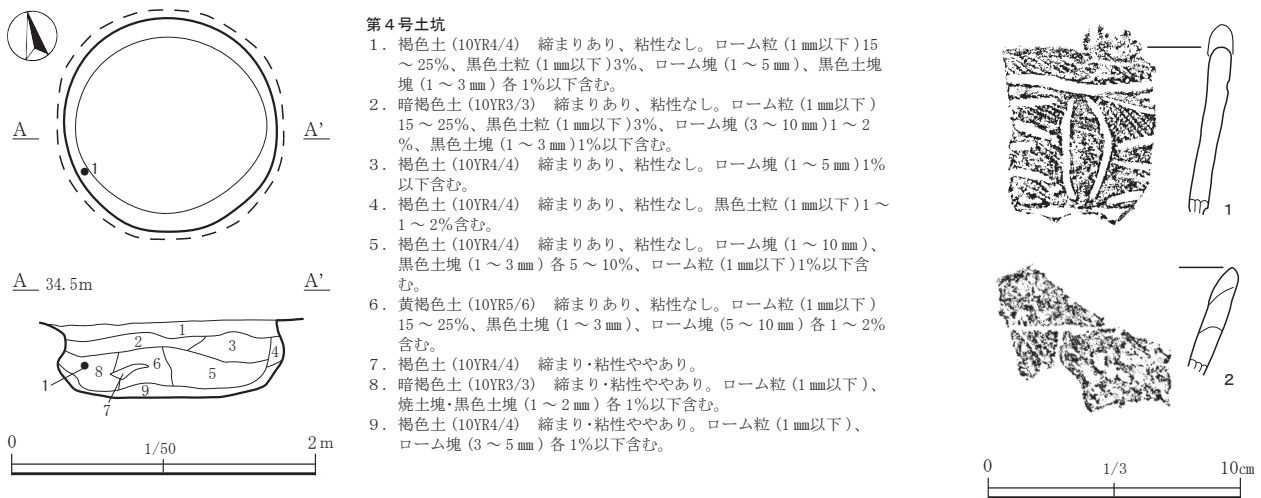
第3節 検出された遺構と遺物

1 縄文時代

(1) 土坑

第4号土坑 (第6図、第2・16表、写真図版2・7)

位置 B・C 3 グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は径1.40mの円形。深さ0.51mで、壁は内湾する。底面は径1.25mの円形で、ほぼ平坦であった。**覆土** 9層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 縄文土器(深鉢)が出土した。**所見** 帰属時期は、出土遺物から後期加曾利B式期と考えられる。



第6図 第4号土坑・出土遺物

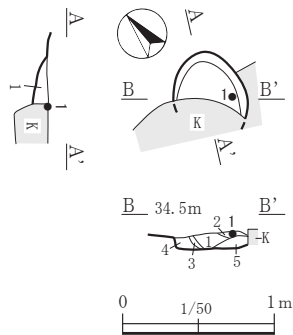
第2表 第4号土坑出土遺物観察表

番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	縄文土器 深鉢	—	—	—	長石、石英	内:黒褐色(10YR3/1) 外:淡黄色(2.5Y8/3)	良好	口縁部に横位の沈線を巡らし、 縄文を充填、口唇部に刻みのあ る瘤を貼り付ける	No.1	加曾利B
2	縄文土器 深鉢	—	—	—	長石、石英	内:黒色(10YR2/1) 外:褐灰色(7.5YR4/1)	良好	口縁部内外面ナデ仕上げ	覆土	後期

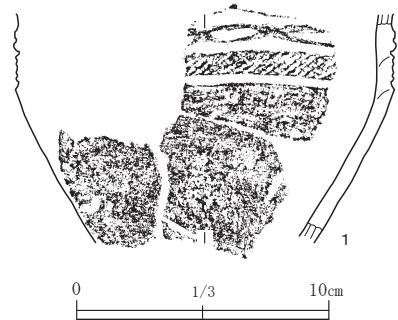
(2) 焼土ピット

焼土ピット1 (第7図、第3・16表、写真図版2・7)

位置 C 2 グリッドに位置する。**重複関係** 重複していないが、複数の攪乱に切られ、遺存状態が悪い。**規模と形状** 前記の状況から本来の規模・形状は明確にし難いが、現存の長径0.45m、短径0.48mで、長径0.80m程の楕円形と推定される。長軸方向はN-30°-Eを示す。深さ0.05～0.08mで、壁はやや外傾する。底面は北東から南東に向かって緩やかに下降する。**覆土** 5層に分層され、焼土及び焼土を多く含む層が充満していた。**出土遺物** 縄文土器(深鉢)が出土した。**所見** 焼土及び二次被熱を受けた土器の存在から屋外炉的な性格が推察される。帰属時期は、出土遺物から晩期安行3 a～b 式期と考えられる。



- 焼土ピット1**
1. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 締まりあり、粘性なし。焼土粒 (1mm以下) 5～10%含む。
 2. 赤褐色土 (5YR4/8) 締まりあり、粘性なし。(焼土)
 3. にぶい赤褐色土 (5YR4/4) 締まりあり、粘性なし。焼土粒 (1mm以下) 5～10%、ローム粒 (1mm以下) 1～2%含む。
 4. にぶい赤褐色土 (5YR4/4) 締まり・粘性ややあり。焼土粒 (1mm以下) 15～25%含む。
 5. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 締まりあり、粘性ややあり。焼土粒 (1mm以下) 15～25%、ローム粒 (1mm以下) 3%含む。



第7図 焼土ピット1・出土遺物

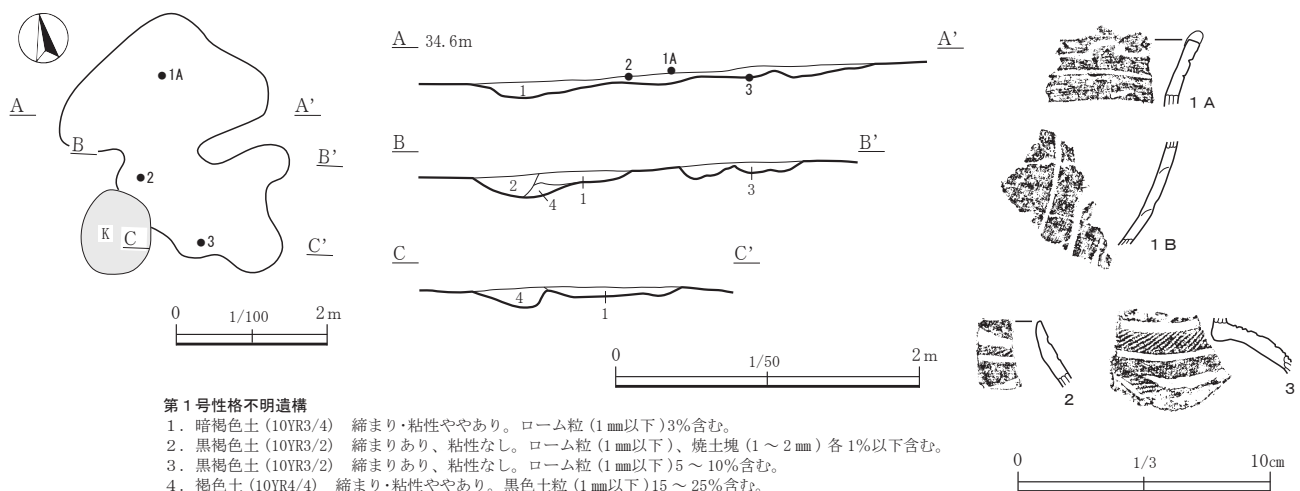
第3表 焼土ピット1出土遺物観察表

番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	縄文土器 深鉢	—	[9.1]	—	長石、石英、小礫	内: にぶい橙色 (7.5YR6/4) 外: 橙色 (5YR6/6)、にぶい黄 橙色 (10YR7/4)	普通 (二次被熱)	体部上半にメガネ状付帯文が 横位に巡り、沈線による区画内 に縄文を充填	No.1、覆土	内外面器面荒 れる 安行3a～b

(3) 性格不明遺構

第1号性格不明遺構 (第8図、第4・16表、写真図版2・7)

位置 C2グリッドに位置する。**重複関係** 重複していないが、一部攪乱に切られる。**規模と形状** 長軸3.50m、短軸0.80～2.30mの不整形。深さ0.05～0.15mの浅い凹みから後・晩期の土器片が出土した。堅穴建物跡等の存在を想定して調査を進めたが、不規則な浅い凹みは認められたものの、明確な遺構は確認されなかった。**覆土** 4層に分層され、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 縄文土器 (浅鉢、深鉢、注口土器) が出土した。**所見** 後期加曾利B式期及び晩期安行3c～d式期の土器片が10点程出土したが、石器類は認められず、人為的な遺構ではなく、自然の凹みに遺物が埋没した遺物包含層的なものと推察される。



- 第1号性格不明遺構**
1. 暗褐色土 (10YR3/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下)、焼土塊 (1～2mm) 各1%以下含む。
 3. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下) 5～10%含む。
 4. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 15～25%含む。

第8図 第1号性格不明遺構・出土遺物

第4表 第1号性格不明遺構出土遺物観察表

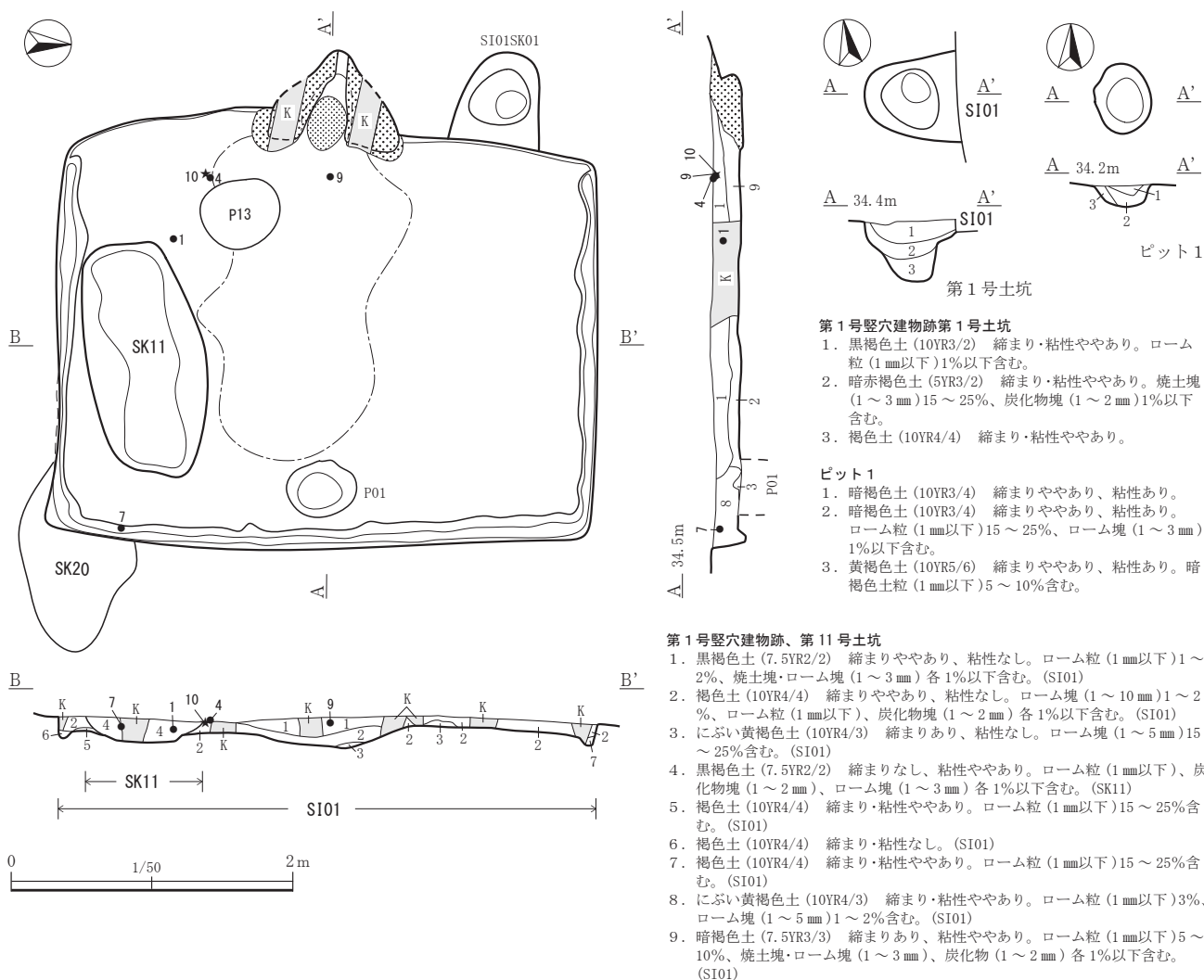
番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1A・B	縄文土器 浅鉢	—	—	—	長石、石英、小 礫(2mm)	内:にぶい橙色(5YR7/4) 外:淡橙色(5YR8/3)	普通 (二次被熱)	口縁部に陽刻的な雲形文が施 され、口唇部にC字状の貼り付 け文	No.5、トレン チャー内	内外面器面荒 れる 安行3c~d
2	縄文土器 深鉢	—	—	—	長石、石英	内外:明赤褐色(5YR5/8)、黒 褐色(5YR3/1)	良好	口縁部の平行沈線内に縄文を 充填	No.4	晩期
3	縄文土器 注口土器	—	—	—	長石、石英	内外:明赤褐色(5YR5/6)、黒 褐色(5YR3/1)	良好	体部に平行沈線や沈線による 三叉文が横位に巡り、一部の沈 線間に縄文を充填	No.1	加曾利B

2 古代

(1) 竪穴建物跡

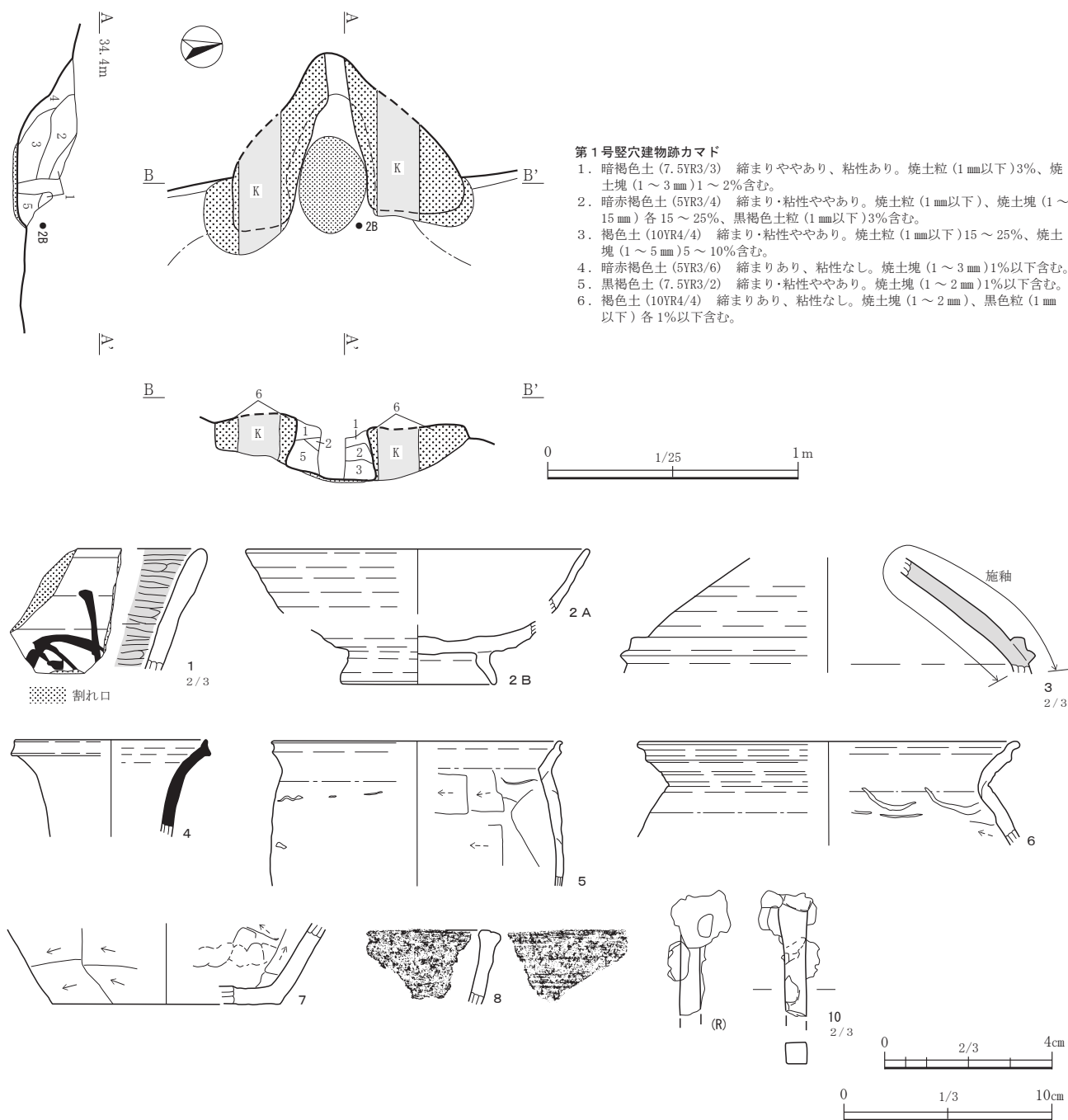
第1号竪穴建物跡(第9~11図、第5・6・16表、写真図版2・7)

位置 C3グリッドに位置する。**重複関係** 第20号土坑を切り、第11号土坑に切られていた。ピット13と重複するが、新旧関係は不明。**規模と形状** 長軸3.86m、短軸2.70~3.10mの不整長方形。カマドを通る主軸方向はN-89°-Wを示す。壁は現存高0.10~0.15mで、ほぼ直立する。**壁溝** 西壁を除く三方の壁下に確認され、幅0.08~0.15m、深さ0.07mであった。**床面・掘方** 直床で、中央部が堅く締まっていたが、主軸に沿って幅1.00m程(硬化面部分)が帯状に中央に向かって凹んでいた。**ピット** ピット1は

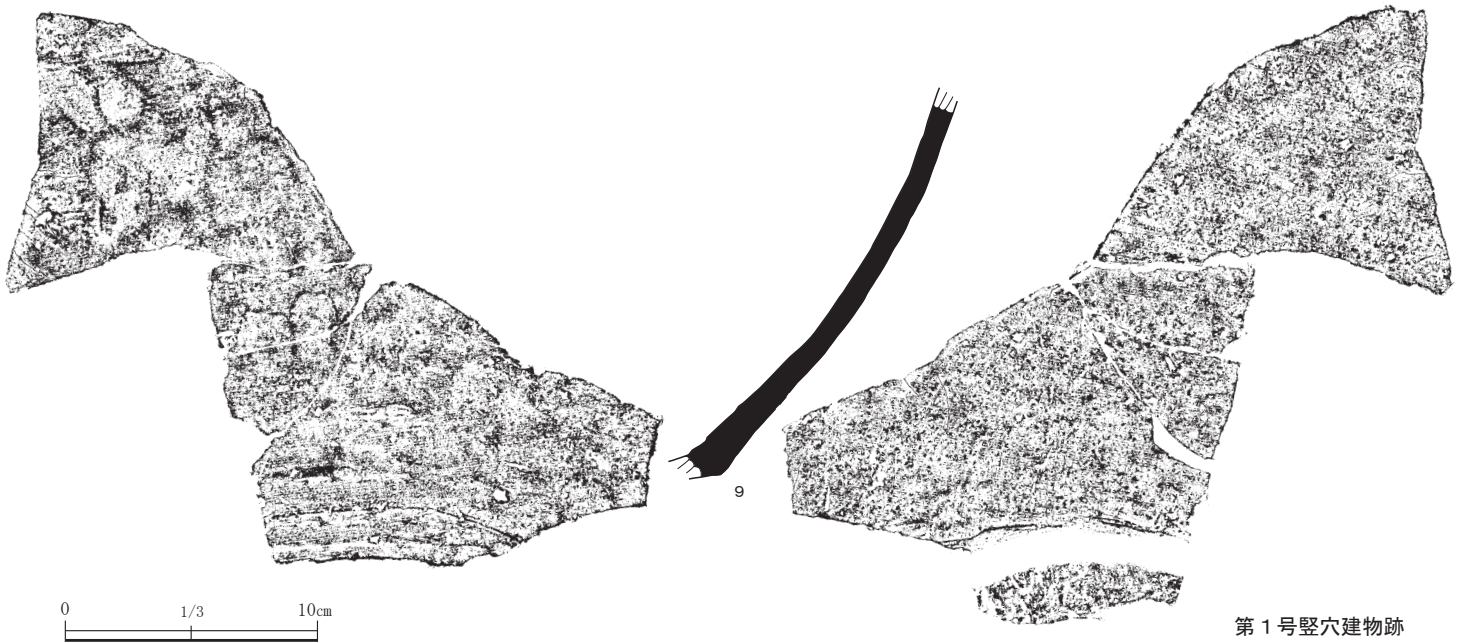


第9図 第1号竪穴建物跡・第1号土坑、第11号土坑

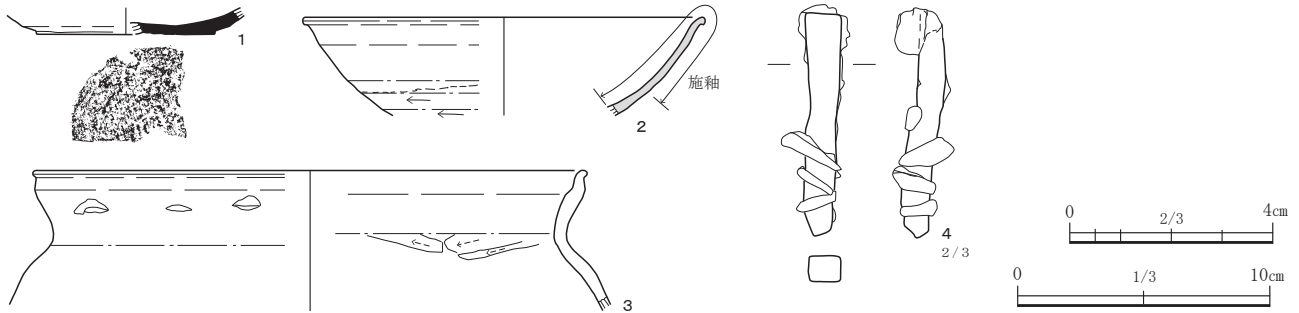
径0.50×0.38mの楕円形で、深さ0.14m。位置的に出入り口施設と考えられる。ピット13は位置的に本跡に伴う施設ではないと思われる。また、西壁北寄りに接して堅穴外に設けられた第1号堅穴建物跡第1号土坑としたものは、本跡との新旧関係が明確でない。長径0.66m、短径0.40～0.60mの不整楕円形で、深さ0.40m。壁は外傾し、底面はほぼ平坦であった。本跡出土の遺物と接合する遺物が出土しており、同時併存が推定され、付属施設の可能性がある。 **カマド** 西壁の中央に壁を切り込み、褐色土で構築されていた。火床面は床面より僅かに低く、径0.40×0.25mの楕円形で、赤変硬化していた。 **覆土** 9層に分層され、第4層は第11号土坑の覆土である。自然堆積と考えられる。 **出土遺物** 土師器（坏、高台付瓿、小形甕、甕、鉢）、須恵器（長頸壺、甕）、緑釉陶器（蓋）、鉄製品（釘）が出土した。また、第1号堅穴建物跡第1号土坑からは、土師器（甕）、須恵器（坏）、灰釉陶器（碗）、鉄製品（釘）が出土した。 **所見** 帰属時期は、出土遺物から10世紀前半と推測される。



第10図 第1号堅穴建物跡カマド・出土遺物 (1)



第1号竖穴建物跡



第1号竖穴建物跡第1号土坑

第11図 第1号竖穴建物跡(2)・第1号土坑出土遺物

第5表 第1号竖穴建物跡出土遺物観察表

単位 cm・g ()推定値 []現存値

番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	土師器 坏	—	—	—	長石、石英	内: 黒色(10YR2/1) 外: 浅黄橙色(7.5YR8/4)	良好	ロクロ整形、口縁・体部内面ミ ガキ後黒色処理	No.25	体部外面に墨 書、釈読不明
2A・B	土師器 高台付埴	(16.4)	—	7.6	長石、石英	内外: にぶい橙色(7.5YR7/4)	良好 (二次被熱)	ロクロ整形、底部ヘラ削り後付 高台	カマドNo.01・ 煙道	
3	緑釉陶器 蓋	—	[2.8]	—	精良、砂粒微量	胎: 浅黄橙色(10YR8/4) 釉: 淡緑色(-)	良好	ロクロ整形、甲の内側回転ヘラ 削り、同外面に凸帯を廻らす、 内外面全体に施釉	トレンチャー 内	内面の釉一部 剥離 京都産?
4	須恵器 長頸壺	(7.2)	[4.7]	—	長石、石英、小 礫(3~4mm)	内: 灰色(N4/0) 外: 暗灰色(N3/0)	良好	ロクロ整形、口縁部内面に降灰	No.26	
5	土師器 小形甕	(14.0)	[7.0]	—	長石、石英、雲 母、小礫(2~4 mm)	内外: 暗灰黄色(2.5Y5/2)、 橙色(5YR6/6)	良好 (二次被熱)	口縁部内外面横ナデ仕上げ、体 部内面斜めのナデ、同外面粗い ナデ	カマド掘方・ 煙道	内外面各一部 器面荒れる 新治産
6	土師器 甕	(18.0)	[5.0]	—	長石、石英、雲 母、小礫(2 mm)	内外: にぶい橙色 (7.5YR7/4)、灰黄褐色 (10YR5/2)	良好	口縁部内外面横ナデ仕上げ、体 部外面粗いナデ、同内面斜め のヘラナデ	No.3、カマド煙 道・覆土	口縁部外面に 一部焼土焼付 く
7	土師器 甕	—	[3.9]	(11.0)	長石、石英、小 礫(2~3mm)	内外: にぶい橙色(5YR6/4)	良好	体部外面下端横のヘラ削り、同 内面ナデ	No.21	
8	土師器 鉢	—	—	—	長石、石英、小 礫(2~3mm)	内外: にぶい褐色(7.5YR6/3)	良好	口縁部内外面横ナデ	カマド覆土	
9	須恵器 甕	—	[14.3]	—	長石、石英、小 礫(2~5mm)	内外: 褐灰色(10YR6/1)	良好	輪積み、ロクロ整形、体部内面 無文当具痕、同下端横ナデ、体 部外面横ナデ、同下端ヘラ削り、 底部外面布目状圧痕	No.35	

番号	種別 器種	長さ	幅	厚さ	重量	特 徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
10	鉄製品 釘	[2.9]	0.5	0.5	[2.8]	先端部を欠損し、頭部は錆で形状不明	No.33	

第6表 第1号竖穴建物跡第1号土坑出土遺物観察表

単位 cm・g ()推定値 []現存値

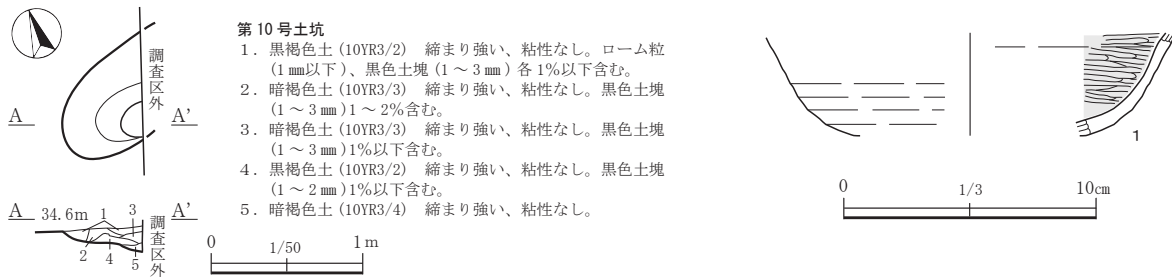
番号	種別器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置・取り上げ番号	備考
1	須恵器 坏	—	[1.1]	(7.0)	長石、石英	内外:にぶい橙色(7.5YR7/3)	不良(二次被熱)	ロクロ整形、底部ヘラ起し	覆土	内外面器面荒れる
2	灰釉陶器 碗	(15.6)	[3.9]	—	長石、石英	胎:灰黄色(2.5Y7/2) 釉:灰白色(10YR8/1)	良好	ロクロ整形、体部外面下位回転ヘラ削り、内面全体と体部外面上位に灰釉施釉	覆土、SI01-1区上層、4区トレンチャー内	東海産
3	土師器 甕	(22.0)	[5.4]	—	長石、石英、雲母	内:赤灰色(2.5YR4/1)、にぶい赤褐色(2.5YR5/4) 外:にぶい橙色(7.5YR6/4)	良好	口縁部内外面横ナデ仕上げ、体部内面斜めのヘラナデ、同外面粗いナデ	覆土	

番号	種別器種	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置・取り上げ番号	備考
4	鉄製品 釘	[4.6]	0.5~0.7	0.5	[3.9]	先端部を欠損し、頭部は錆で形状不明	覆土	

(2) 土坑

第10号土坑 (第12図、第7・16表、写真図版3・7)

位置 C3グリッドに位置し、東側は調査区外となる。重複関係 重複していない。規模と形状 上面は長径現存0.80m、短径0.55mで、楕円形と推定される。深さ0.05~0.16mで、壁は外傾する。底面は中央に向かって下降する。覆土 5層に分層され、自然堆積と考えられる。出土遺物 土師器(埴)が出土した。所見 帰属時期は、出土遺物から10世紀代と推測される。



- 第10号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 締まり強い、粘性なし。ローム粒(1mm以下)、黒色土塊(1~3mm)各1%以下含む。
 2. 暗褐色土(10YR3/3) 締まり強い、粘性なし。黒色土塊(1~3mm)1~2%含む。
 3. 暗褐色土(10YR3/3) 締まり強い、粘性なし。黒色土塊(1~3mm)1%以下含む。
 4. 黒褐色土(10YR3/2) 締まり強い、粘性なし。黒色土塊(1~2mm)1%以下含む。
 5. 暗褐色土(10YR3/4) 締まり強い、粘性なし。

第12図 第10号土坑・出土遺物

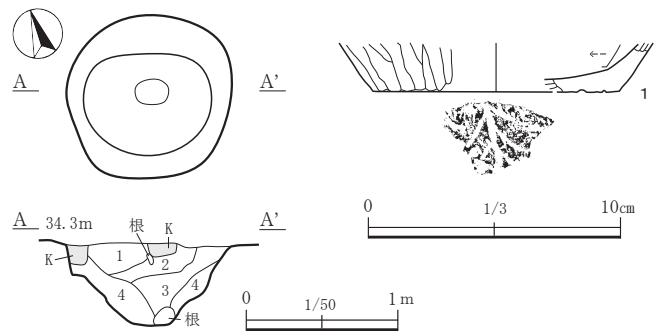
第7表 第10号土坑出土遺物観察表

単位 cm []現存値

番号	種別器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置・取り上げ番号	備考
1	土師器 埴	—	[4.0]	—	長石、石英	内:黒色(10YR2/1) 外:橙色(7.5YR7/6)	不良(二次被熱)	ロクロ整形、内面全体黒色処理	覆土	内外面器面荒れる

第B1号土坑 (第13図、第8・16表、写真図版3・7)

位置 B区C9グリッドに位置する。重複関係 重複していない。規模と形状 上面は長径1.10m、短径1.08mのほぼ円形。深さ0.53mで、壁は外傾する。底面は長径0.20m、短径0.16mの楕円形。覆土 4層に分層され、人為的埋没と考えられる。出土遺物 土師器(甕)が出土した。所見 帰属時期は、出土遺物から8世紀後半と考えられる。



- 第B1号土坑
1. 暗褐色土(10YR3/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒(1mm以下)15~25%含む。
 2. 暗褐色土(10YR3/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒(1mm以下)1%以下含む。
 3. 暗褐色土(10YR3/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒(1mm以下)5~10%含む。
 4. 暗褐色土(10YR3/4) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒(1mm以下)1%以下含む。

第13図 第B1号土坑・出土遺物

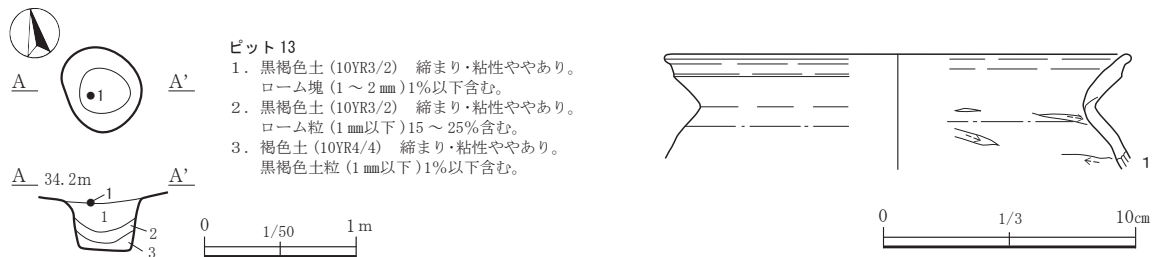
第8表 第B1号土坑出土遺物観察表

単位 cm ()推定値										
番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	土師器 甕	—	—	(9.8)	長石、石英	内:灰白色(7.5YR8/2) 外:黒褐色(5YR3/1)	良好	体部外面下端斜めのミガキ、同 内面横のヘラナデ、底部外面木 葉痕、同内面ナデ	トレンチャー 内	

(3) ピット

ピット13 (第14図、第9・14・16表、写真図版7)

位置 C3グリッドに位置する。 **重複関係** 第1号竪穴建物跡と重複するが新旧関係は不明。 **規模と形状** 径0.57×0.48mの楕円形。深さ0.34mで、壁は外傾する。底面はほぼ平坦であった。 **覆土** 3層に分層され、自然堆積と考えられる。 **出土遺物** 土師器(甕)が出土した。 **所見** 帰属時期は、出土遺物から10世紀前半代と推測される。なお、第1号竪穴建物跡と重複していることから、第1号跡の遺物の可能性も全は否めない。



第14図 ピット13・出土遺物

第9表 ピット13出土遺物観察表

単位 cm []現存値										
番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	土師器 甕	—	[4.6]	—	長石、石英、雲 母	内外:にぶい橙色(7.5YR7/4)	良好	口縁部内外面横ナデ仕上げ、体 部外面粗いナデ、同内面横・斜 めのヘラナデ	No.1	

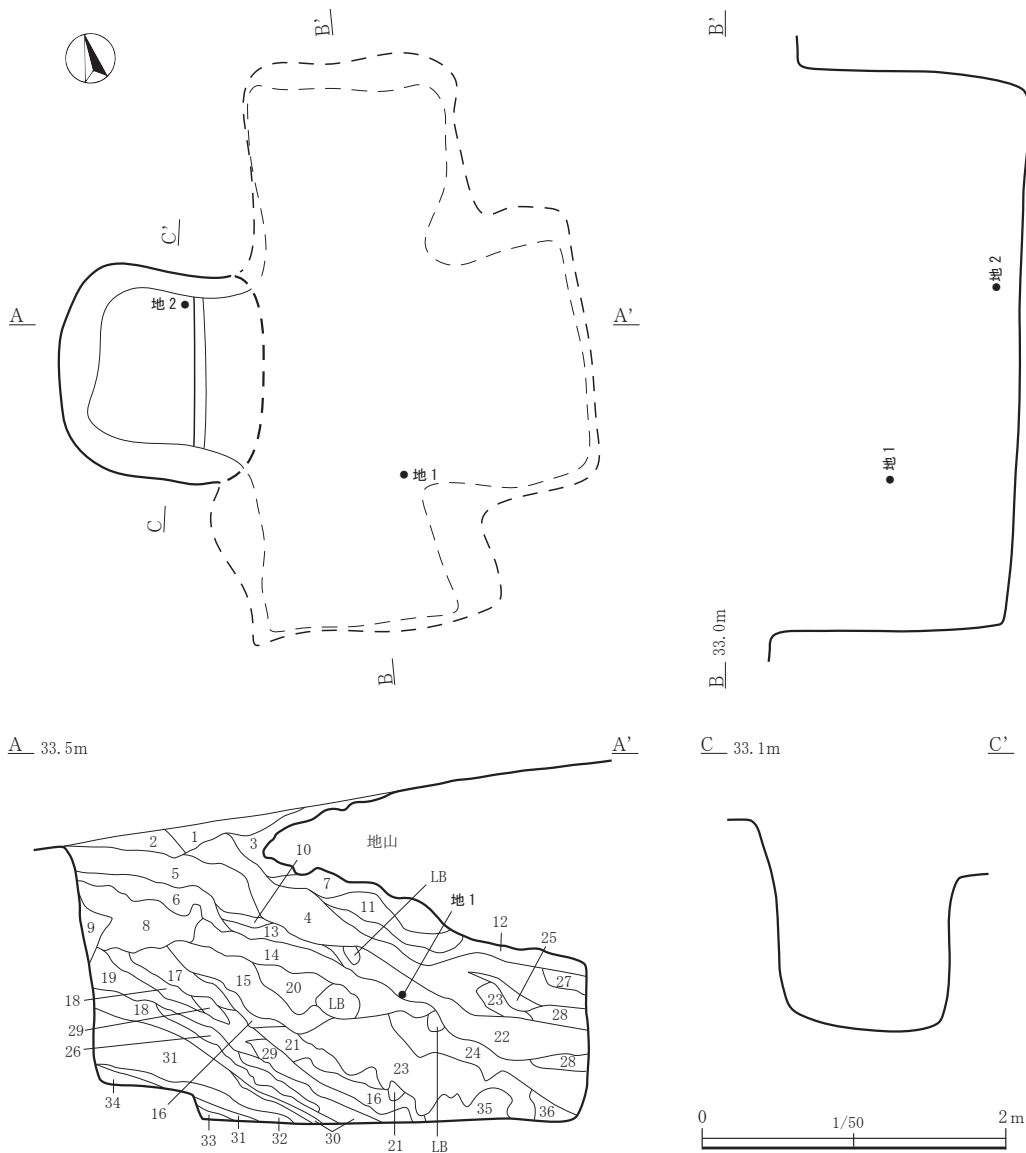
3 中世

(1) 地下式坑

第13号地下式坑 (第15・19図、第10・16表、写真図版3・8)

位置 A4グリッドに位置する。 **重複関係** 重複していない。 **規模と形状** 竪坑部を西、室部を東に設け、全体の平面形は十字形、室部は凸字形である。主軸方向はN-100°-Eを示す。室部は天井部が遺存していたが、安全対策の為此を除去して調査を行った。竪坑部は南北1.35m、東西推定1.30mの隅丸方形と推定される。深さ1.60m程で底面に至る。底面は南北1.00m、東西0.60mの長方形で、室部底面より0.15~0.20m程高い。竪坑部から室部に至る入り口部は遺存せず不明である。室部底面は確認面からの深さ2.00~2.35mにあり、ほぼ平坦であった。平面形は南北3.50m、東西1.10~1.30mの長方形の東(奥)側に南北1.00m、東西1.10m程の張り出しが設けられており凸字形を示す。壁は室部東端で高さ1.00m、ほぼ直立し、天井部と接する。残存する天井部は室部中央で高さ1.45m、竪坑部側で1.75mであるが、中央から西(竪坑部)側は天井部が崩落したことによるものと考えられる。 **覆土** 36層に分層され、竪坑部からの流入土

と天井部の崩落土が堆積していた。出土遺物 炆器（捏鉢）、土師質土器（内耳土鍋）が出土した。所見 遺構形状及び出土遺物から中世の地下式坑と考えられ、帰属時期は15世紀後半代と推測される。



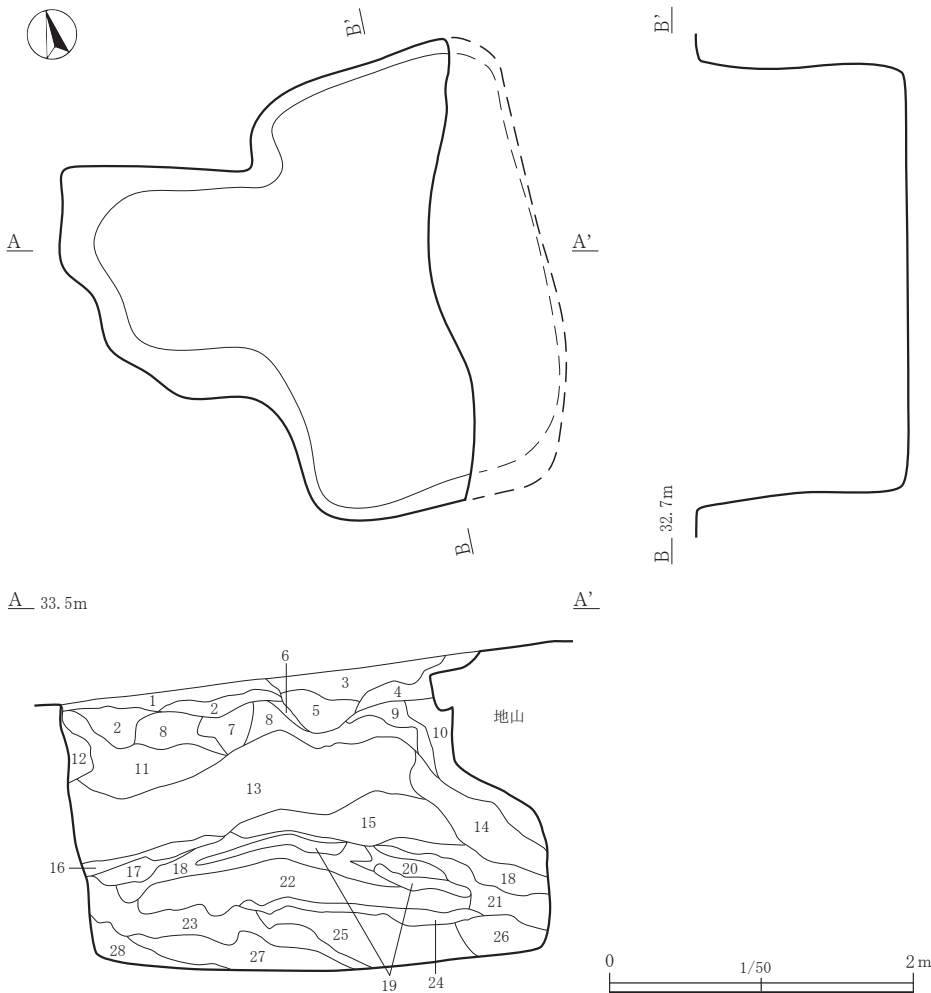
第13号地下式坑

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。暗褐色土粒 (1mm以下) 1～2% 含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。暗褐色土粒 (1mm以下) 1～2%、鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (100mm塊状) 1% 以下含む。
5. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。暗褐色土粒 (1mm以下) 1～2%、ローム塊 (5～10mm) 1% 以下含む。
6. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。暗褐色土粒 (1mm以下) 5～10%、鹿沼軽石粒 (300mm塊状) 1% 以下含む。
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
8. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (10～50mm) 5～10%、ローム粒 (1mm以下) 1～2%、黒褐色土粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
9. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり・粘性ややあり。
10. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。暗褐色土粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
11. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。
12. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1～2%、ローム塊 (1～3mm) 1% 以下含む。
13. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。
14. 黒色土 (10YR2/1) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 15～25% 含む。
15. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (1～10mm) 1% 以下含む。
16. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (30～50mm) 15～25% 含む。
17. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (10mm塊状) 1% 以下含む。
18. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 15～25% 含む。
19. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 3% 含む。
20. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 1～2% 含む。
21. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (1～10mm) 1% 以下含む。
22. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (100～150mm) 31～50%、黒色土粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
23. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%、黒色土粒 (1mm以下) 1～2% 含む。
24. 黒色土 (10YR2/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3% 含む。
25. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
26. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
27. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 5～10% 含む。
28. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
29. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まり・粘性ややあり。暗褐色土粒・鹿沼軽石粒 (1mm以下) 各 1～2% 含む。
30. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
31. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
32. 黒色土 (10YR2/1) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下)、炭化物塊 (1mm) 各 1% 以下含む。
33. 黒色土 (10YR2/1) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1% 以下含む。
34. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まりあり、粘性ややあり。
35. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。黒色粒 (1mm以下) 3% 含む。
36. 褐灰色土 (10YR4/1) 締まりなし、粘性ややあり。

第15図 第13号地下式坑

第14号地下式坑（第16・19図、第10・16表、写真図版3・8）

位置 A3・4グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 竪坑部を西、室部を東に設け、竪坑部はやや北に寄るが全体の平面形はT字形である。主軸方向はN-101°-Eを示す。室部は天井部が部分的に遺存していたが、安全対策の為これを除去して調査を行った。竪坑部は上面が南北1.20～1.50m、東西推定1.15～1.30mの不整形と推定される。深さ1.70mで底面に至る。底面は上面とほぼ同



第14号地下式坑

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
2. 褐色土 (10YR4/6) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%含む。
3. 黒色土 (10YR2/1) 締まりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%、鹿沼軽石粒 (100mm塊状) 1%以下含む。
5. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
6. 黄褐色土 (10YR5/6) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%、黒褐色土粒 (1mm以下) 3%含む。
7. 黄褐色土 (10YR5/6) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、黒褐色土粒 (1mm以下) 5～10%含む。
8. 明黄褐色土 (10YR6/8) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%、ローム塊 (10～20mm) 1%以下含む。
9. 褐色土 (10YR4/6) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%、ローム塊 (10～20mm) 1～2%含む。
10. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、ローム塊 (20mm) 各1%以下含む。
11. 明黄褐色土 (10YR6/8) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%、ローム塊 (10～300mm) 3%含む。
12. ローム塊
13. 明黄褐色土 (10YR6/8) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%、ローム塊 (10～20mm) 5～10%含む。
14. 褐色土 (10YR4/6) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%含む。
15. 明黄褐色土 (10YR6/8) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%、ローム塊 (10～20mm) 15～25%含む。
16. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (10～100mm) 15～25%、ローム粒 (1mm以下) 1～2%含む。
17. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1～2%含む。
18. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりなし、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%、ローム塊 (10～20mm) 1～2%含む。
19. 黄褐色土 (10YR5/8) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、鹿沼軽石粒 (1mm以下) 5～10%含む。
20. 黄褐色土 (10YR5/8) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%、鹿沼軽石粒 (10～20mm塊状) 1～2%、ローム塊 (100mm) 1%以下含む。
21. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりなし、粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下)、ローム塊 (10～20mm) 各1～2%含む。
22. 明黄褐色土 (10YR6/8) 締まりなし、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%、ローム塊 (5～10mm) 3%含む。
23. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 15～25%含む。
24. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 3%含む。
25. 暗褐色土 (10YR3/4) 締まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50%、鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1%以下含む。
26. 黒褐色土 (10YR2/3) 締まりなし、粘性ややあり。
27. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (50～100mm塊状) 5～10%含む。
28. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりあり、粘性ややあり。

第16図 第14号地下式坑

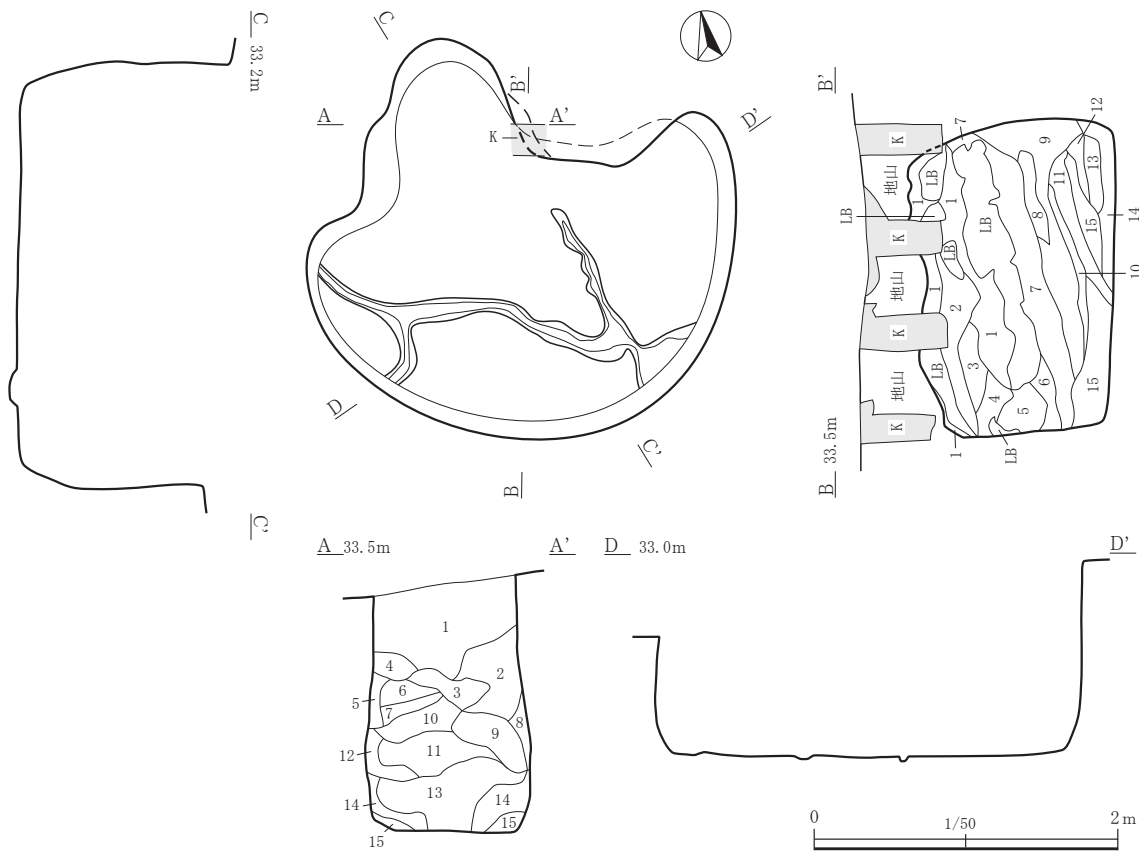
形で、南北0.95～1.15m、東西推定0.90～1.10mである。堅坑部から室部に至る入り口部は遺存せず不明である。室部底面は遺構確認面からの深さ1.90～2.00mでほぼ平坦であった。平面形は南北2.70m、東西1.50～1.70mの隅丸長方形である。壁は室部東側で高さ0.85m、ほぼ直立し、天井部と接する。天井部はドーム状で、東側壁より0.50m内側で高さ1.25mである。 **覆土** 28層に分層され、天井部の崩落土より下層も平らな堆積状態であり、人為的埋没と考えられる。 **出土遺物** 土師質土器（内耳土鍋）が出土した。 **所見** 遺構形状及び出土遺物から中世の地下式坑と考えられ、帰属時期は15世紀後半と推測される。

第19号地下式坑（第17・19図、第10・16表、写真図版3・8）

位置 A3・4グリッドに位置する。 **重複関係** 重複していないが、攪乱に切られていた。 **規模と形状** 堅坑部を北、室部を南に設け、堅坑部が西に寄るが、全体の平面形は扇形である。主軸方向はN-175°-Eを示す。室部は天井部が遺存していたが、安全対策の為これを除去して調査を行った。堅坑部は上面が東西0.70～1.00m、南北推定0.95mの円形と推定される。深さ1.40mで底面に至る。底面は東西0.90m、南北推定0.80mのU字形で、室部底面と同じ高さである。堅坑部から室部に至る入り口部は遺存せず不明である。室部は東西2.70m、南北1.70mで、南（奥）側が弧状になる半円形である。室部底面には幅0.08～0.16m、深さ0.05m程の不規則な溝跡が認められたが、その性格は不明である。壁は南東側が高さ1.00mでほぼ直立し、天井部と接するが、北側では高さ1.30mで内湾ぎみに立ち上がり天井部と接する。入り口側から奥に向かって緩やかに下降する天井部であったと推定される。 **覆土** 15層に分層され、入り口側から奥に向かって下降する堆積土であり、やや自然堆積の後天井部の崩落があったと推察される。 **出土遺物** 土師質土器（内耳土鍋）が出土した。 **所見** 遺構形状及び出土遺物から中世の地下式坑と考えられ、帰属時期は15世紀後半と推測される。

第51号地下式坑（第18・19図、第10・16表、写真図版4・8）

位置 A4グリッドに位置し、西側の一部は調査区外となる。 **重複関係** 攪乱に切れ、ピット28と接しているが、重複はしていない。 **規模と形状** 堅坑部を北、室部を南に設け、堅坑部は東に寄るが、全体の平面形はT字形である。主軸方向はN-171°-Eを示す。室部は天井部が遺存していたが、安全対策の為これを除去して調査を行った。堅坑部は上面が東西1.00m、南北推定0.80mの楕円形と推定される。深さ1.20mで底面に至る。底面は東西0.75m、南北推定0.50mの半円形で、室部底面より僅かに高い。堅坑部から室部に至る入り口部は遺存せず不明である。室部は南北0.90～1.15m、東西現存2.10mの丸味を帯びた長方形である。底面はほぼ平坦であった。壁は室部中程では高さ0.80～0.85mでほぼ直立し、天井部と接するが、西端では高さ0.70mでやや内湾ぎみに立ち上がり天井部と接する。天井部は中央で高さ0.80m、西端で0.70mであった。 **覆土** 堅坑部で7層、室部は中央が7層、西端が13層に分層され、人為的埋没と考えられる。 **出土遺物** 土師質土器（小皿、内耳土鍋）が出土した。 **所見** 遺構形状及び出土遺物から中世の地下式坑と考えられ、帰属時期は15世紀後半と推測される。



第 19 号地下式坑

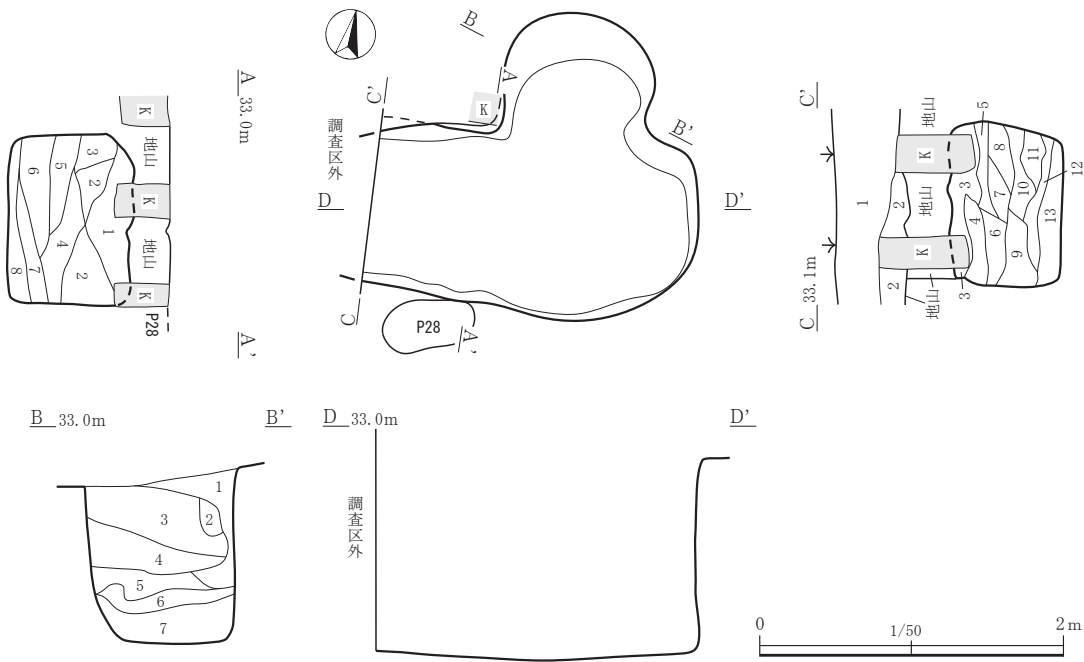
A-A'

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒・黒色土粒 (1mm以下)、ローム塊 (1~2mm) 各 1%以下含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性ややあり。ローム塊 (1~10mm) 1~2%、ローム粒・黒色土粒 (1mm以下) 各 1%以下含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1~2mm) 5~10%、ローム粒・黒色土粒 (1mm以下) 各 1~2%含む。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、ローム塊 (1~5mm) 各 1%以下含む。
5. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
6. 黄褐色土 (10YR5/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%、ローム塊 (1~5mm) 1%以下含む。
7. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、ローム塊 (1~3mm)、焼土塊 (1~2mm) 各 1%以下含む。
8. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%含む。
9. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性ややあり。ローム粒・黒色土粒 (1mm以下) 各 1%以下含む。
10. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒・黒色土粒 (1mm以下)、ローム塊 (1~2mm) 各 1%以下含む。
11. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 15~25%、ローム粒 (1mm以下)、ローム塊 (1~2mm) 各 1~2%含む。
12. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 1~2%含む。
13. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%、黒色土粒 (1mm以下) 5~10%、ローム塊 (1~10mm) 3%含む。
14. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 3%、ローム粒 (1mm以下) 1~2%、ローム塊 (1~2mm) 1%以下含む。
15. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1~3mm) 1%以下含む。

B-B'

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性あり。鹿沼軽石粒・ローム粒・黒色土粒 (1mm以下) 各 1%以下含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性あり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%、鹿沼軽石粒・黒色土粒 (1mm以下) 各 1%以下含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性あり。ローム粒・黒色土粒 (1mm以下) 各 1%以下含む。
4. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりなし、粘性ややあり。鹿沼軽石粒・黒色土粒 (1mm以下) 各 1%以下含む。
5. 黄褐色土 (10YR5/6) 縮まりなし、粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 3%、ローム塊 (5~10mm) 1%以下含む。
6. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 15~25%、ローム塊 (1~5mm) 5~10%含む。
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 5~10%、ローム塊 (1~3mm) 1~2%、ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
8. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%、ローム塊 (1~2mm) 3%、黒色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
9. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒・黒色土粒 (1mm以下) 各 1%以下含む。
10. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1~20mm) 15~25%、ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
11. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
12. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1~2%、黒褐色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
13. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。
14. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1~3mm) 1%以下含む。
15. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。黒色土粒・ローム粒 (1mm以下) 各 5~10%含む。

第 17 図 第 19 号地下式坑



第 51 号地下式坑

A-A'

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1 ~ 50 mm) 3%、ローム粒 (1 mm以下) 1 ~ 2% 含む。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒・黒褐色土粒 (1 mm以下) 各 1% 以下含む。
3. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒・黒褐色土粒 (1 mm以下) 各 1 ~ 2% 含む。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1 ~ 20 mm) 1% 以下含む。
5. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒・黒褐色土粒 (1 mm以下) 各 1% 以下含む。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 3% 含む。
7. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。
8. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 1% 以下含む。

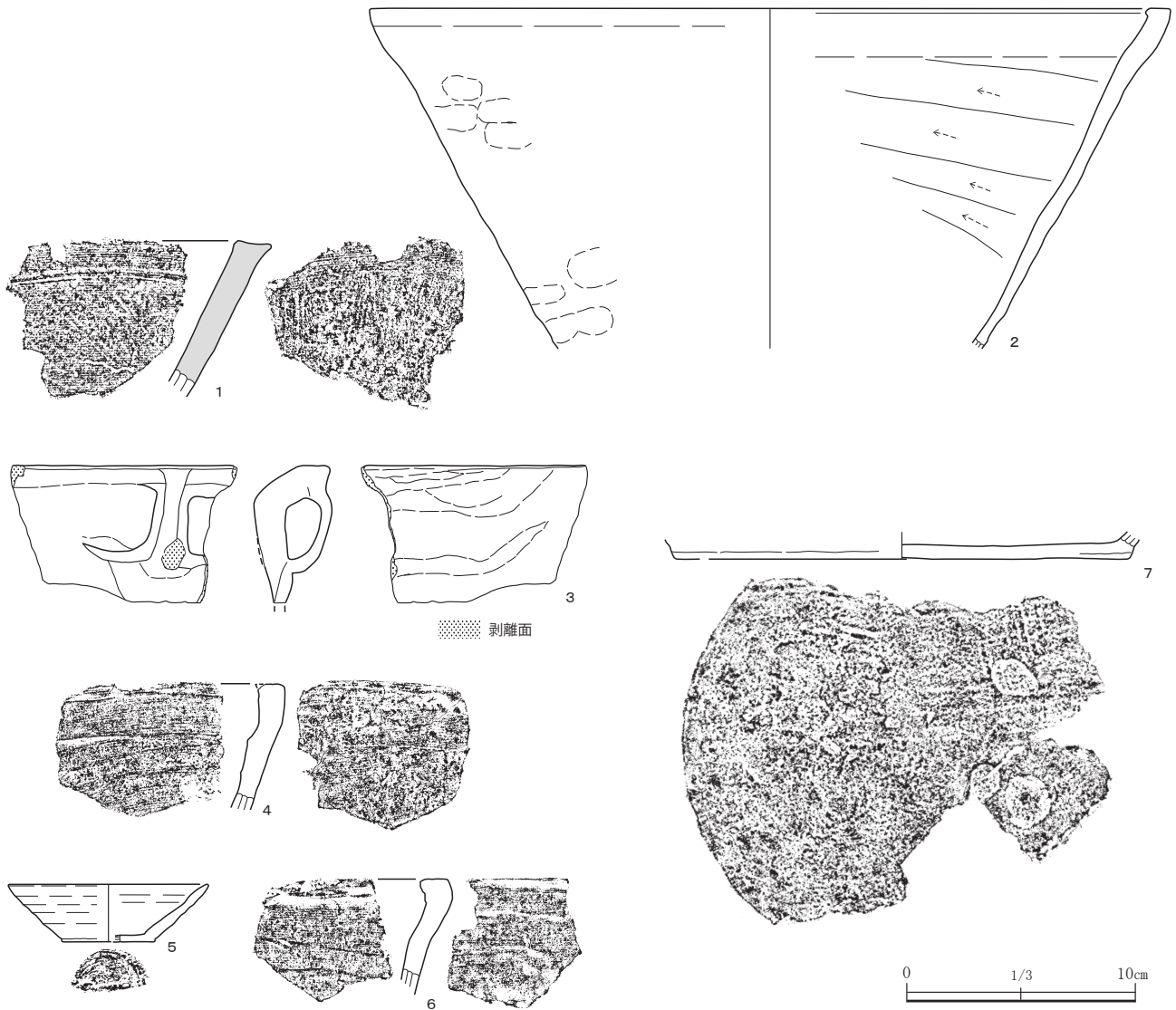
B-B'

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 1 ~ 2%、鹿沼軽石粒 (1 mm以下) 1% 以下含む。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 3%、ローム塊 (1 ~ 10 mm) 1% 以下含む。
3. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 15 ~ 25%、ローム塊 (1 ~ 10 mm) 1 ~ 2%、黒褐色土粒 (1 mm以下) 1% 以下含む。
4. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 5 ~ 10%、ローム塊 (1 ~ 10 mm)、黒褐色土粒 (1 mm以下) 各 3% 含む。
5. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 3% 含む。
6. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 5 ~ 10%、ローム塊 (5 ~ 30 mm) 1 ~ 2% 含む。
7. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。暗褐色土粒 (1 mm以下) 15 ~ 25%、ローム粒 (1 mm以下) 3% 含む。

C-C'

1. 表土
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 15 ~ 25% 含む。(盛土?)
3. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1 mm以下) 5 ~ 10%、焼土塊 (1 ~ 2 mm) 1 ~ 2% 含む。
4. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1 mm以下) 1 ~ 2% 含む。
5. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。
6. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1 mm以下) 1% 以下含む。
7. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (10 ~ 30 mm) 1% 以下含む。
8. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1 mm以下) 1% 以下含む。
9. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1 mm以下)、ローム塊 (1 ~ 10 mm) 各 1% 以下含む。
10. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1 ~ 10 mm) 5 ~ 10% 含む。
11. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。鹿沼軽石塊 (1 ~ 2 mm) 1% 以下含む。
12. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1 mm以下) 1 ~ 2% 含む。
13. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。

第 18 図 第 51 号地下式坑



第 19 図 地下式坑出土遺物

第 10 表 地下式坑出土遺物観察表

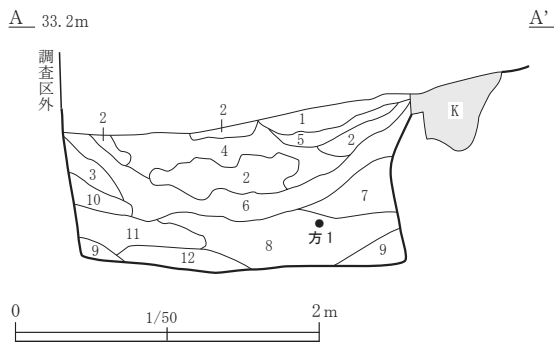
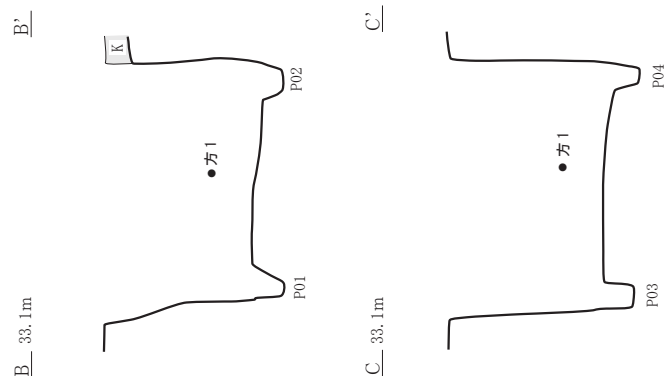
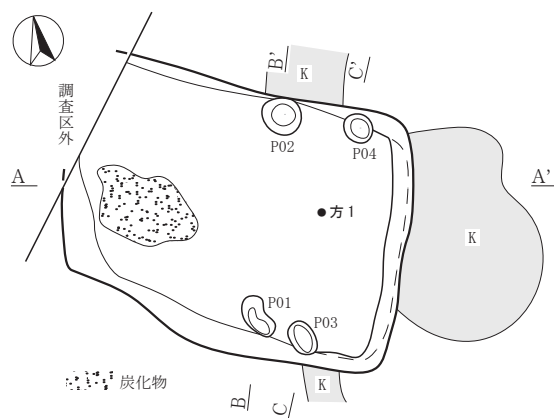
単位 cm () 推定値 [] 現存値

番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	炆器 捏鉢	—	—	—	長石、石英、小 礫(3mm)	内外:にぶい赤褐色 (2.5YR4/3)、灰赤色 (2.5YR4/2)	良好	ロクロ整形、口縁部上端内外面 横のナデ仕上げ、体部内面斜め のヘラナデ	SK13-No.1	割れ口に煤付 着 東海産
2	土師質土器 内耳土鍋	(35.0)	[14.9]	—	長石、石英、雲 母、赤褐色粒	内:橙色(5YR6/6) 外:黒色(10YR1.7/1)、にぶい 橙色(7.5YR6/4)	良好	輪積み成形、口縁と内面全体横 ナデ仕上げ、体部外面粗いナ デ、指頭圧痕	SK13-No.2、覆 土、表探	口縁～体部外 面煤付着
3	土師質土器 内耳土鍋	—	[6.0]	—	長石、石英、雲 母、赤褐色粒	内:橙色(5YR6/6) 外:黒色(10YR1.7/1)	良好	輪積み成形、口縁～口縁部内面 横ナデ仕上げ、同外面粗いナ デ、口縁部内面に粘土紐による 耳を貼り付ける	SK14-覆土下 層	口縁部外面煤 付着
4	土師質土器 内耳土鍋	—	—	—	長石、石英、雲 母	内:橙色(5YR6/6) 外:黒褐色(5YR2/1)	良好	口縁部内面横ナデ仕上げ、同外 面粗いナデ	SK19-覆土Bセ ク付近	
5	土師質土器 小皿	(8.6)	2.6	(4.0)	長石、石英	内:にぶい橙色(7.5YR7/4) 外:にぶい橙色(7.5YR6/4)	良好	ロクロ整形、底部糸切り	SK51-覆土上・ 中層	
6	土師質土器 内耳土鍋	—	—	—	長石、石英、雲 母	内:橙色(5YR6/6) 外:黒褐色(5YR2/1)	良好	口縁部内面横のナデ仕上げ、同 外面粗いナデ	SK51-覆土上・ 中層	
7	土師質土器 内耳土鍋	—	[1.2]	(20.0)	長石、石英、小 礫(2～3mm)	内:橙色(5YR6/6) 外:黒褐色(5YR2/1)	良好 (二次被熱)	底部内面ナデ、同外面乾燥時の 敷物の圧痕、体部外面下端、底 部外縁ヘラナデ	SK51-覆土上・ 中層	底部内外面器 面荒れる、外面 全体に煤付着

(2) 方形竪穴

第15号方形竪穴 (第20・23図、第11・16表、写真図版4・7)

位置 A3グリッドに位置し、北西隅は調査区外となる。**重複関係** 重複していないが、攪乱に切られていた。**規模と形状** 上面は長軸2.15～2.30m以上、短軸1.46～1.72mの不整長方形。長軸方向はN-66°-Wを示す。壁は現存高1.00～1.10mで、ほぼ直立し、南東側は内傾して立ち上がり、後外傾する。底面は長軸1.85～2.20m以上、短軸1.35～1.45m以上の不整長方形で、概ね平坦であったが、北東部がやや低い。西隅の床面直上に長径0.80m、短径0.50m程の不整楕円形に炭化物が認められた。火を焚いた痕跡ではなく、有機質の敷物状のものの痕跡と推察される。長辺側の壁下にピット (P01～P04) が確認された。径0.15～0.25mの円形もしくは楕円形で、深さ0.14～0.26m。ともに2基づつが南東寄りに設けられていた。出入り口に伴う施設は確認されなかった。**覆土** 12層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 土師質土器 (小皿) が出土した。**所見** 遺構形状及び出土遺物から中世の方形竪穴と考えられ、帰属時期は15世紀末から16世紀前半と推測される。



第15号方形竪穴

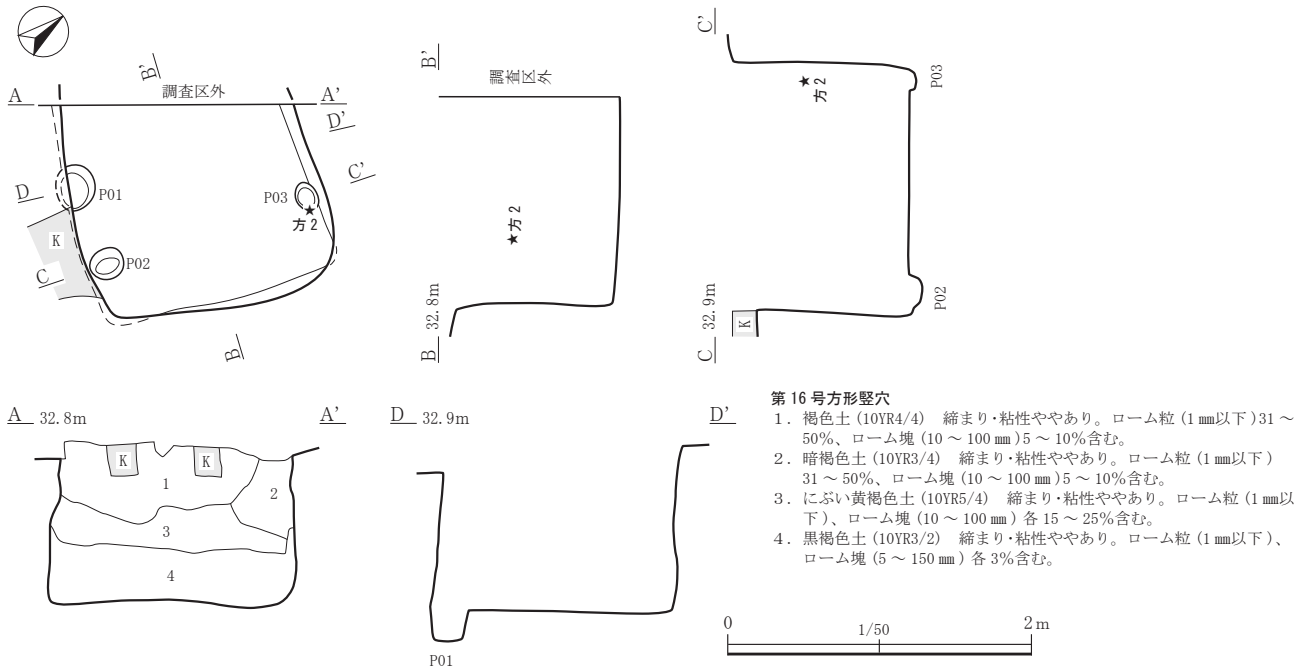
1. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 1～2%以下含む。
2. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、ローム塊 (10～200mm) 5～10%含む。
3. 褐色土 (10YR4/6) 締まり・粘性ややあり。ローム粒・暗褐色土粒 (1mm以下) 各3%含む。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (1～10mm) 3%含む。
5. 暗褐色土 (10YR3/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
6. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (1～100mm) 1%以下含む。
7. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。
8. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%、ローム塊 (1～50mm) 3%含む。
9. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。
10. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (150mm) 1%以下含む。
11. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%含む。
12. 黒褐色土 (10YR2/3) 締まり・粘性ややあり。

第20図 第15号方形竪穴

第16号方形竪穴 (第21・23図、第11・16表、写真図版4・7)

位置 A3グリッドに位置し、北西部は調査区外となる。**重複関係** 重複していないが、攪乱に切られていた。**規模と形状** 上面は長軸現存1.95m、短軸1.50～1.65mの長方形と推定される。長軸方向はN-62°-Wを示す。壁は現存高0.90～1.10mで、北東・南東側はほぼ直立し、南西側と東隅がやや内傾していた。底面は長軸1.50m以上、短軸1.45～1.60mの長方形と推定され、ほぼ平坦であった。長軸側の壁下にピット (P01～P03) が確認された。径0.15～0.28mの楕円形で、深さ0.05～0.20m。**覆土** 4層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 銭貨 (天禧通宝) が出土した。**所見** 遺構形状及び

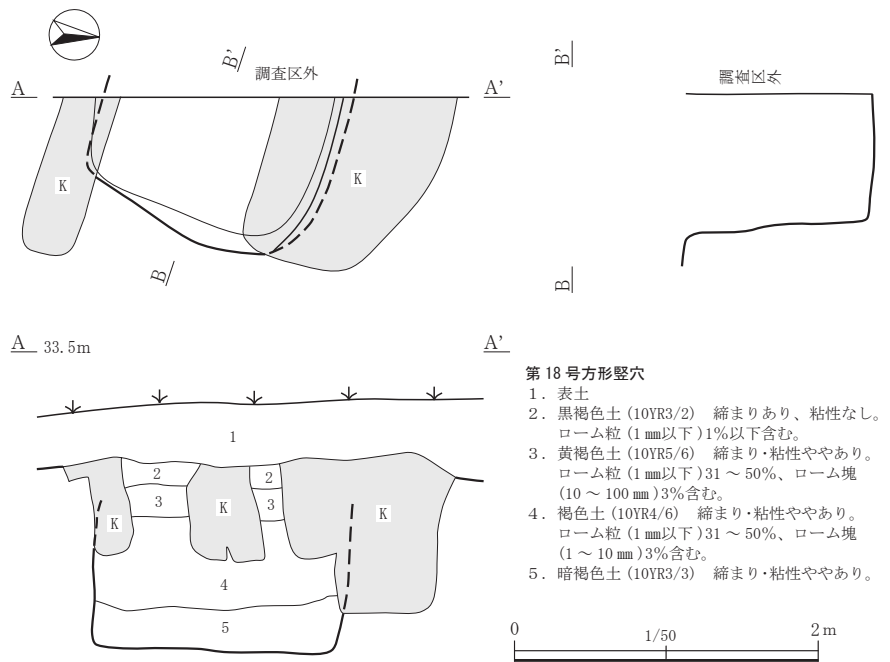
出土遺物から中世の方形堅穴と考えられ、帰属時期は、出土遺物からは明確にし難いが、隣接する遺構との関係から15世紀末から16世紀前半と推測される。



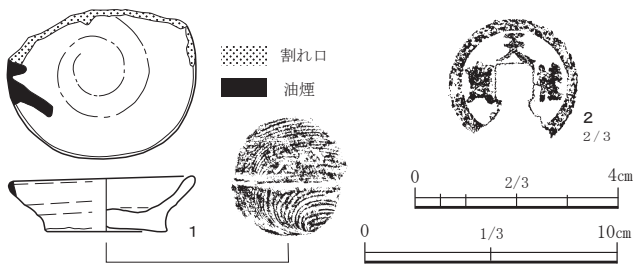
第21図 第16号方形堅穴

第18号方形堅穴 (第22図、写真図版4)

位置 A3グリッドに位置し、西側は調査区外となる。**重複関係** 重複していないが、複数の攪乱に切られていた。**規模と形状** 上面は長軸現存1.15m、短軸推定1.60mの丸味を帯びた長方形と推定される。長軸方向はN-76°-Wと推定される。壁は現存高0.60～1.20mで、南側は僅かに内傾し、他は直立すると思われるが、攪乱により切られた部分が多く判然としない。底面はほぼ平坦であった。**覆土** 4層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 遺構形状から中世の方形堅穴と考えられる。出土遺物がなく帰属時期は明確にし難いが、近隣の遺構の状況から15世紀後半から16世紀前半と推測される。



第22図 第18号方形堅穴



第 23 図 方形竪穴出土遺物

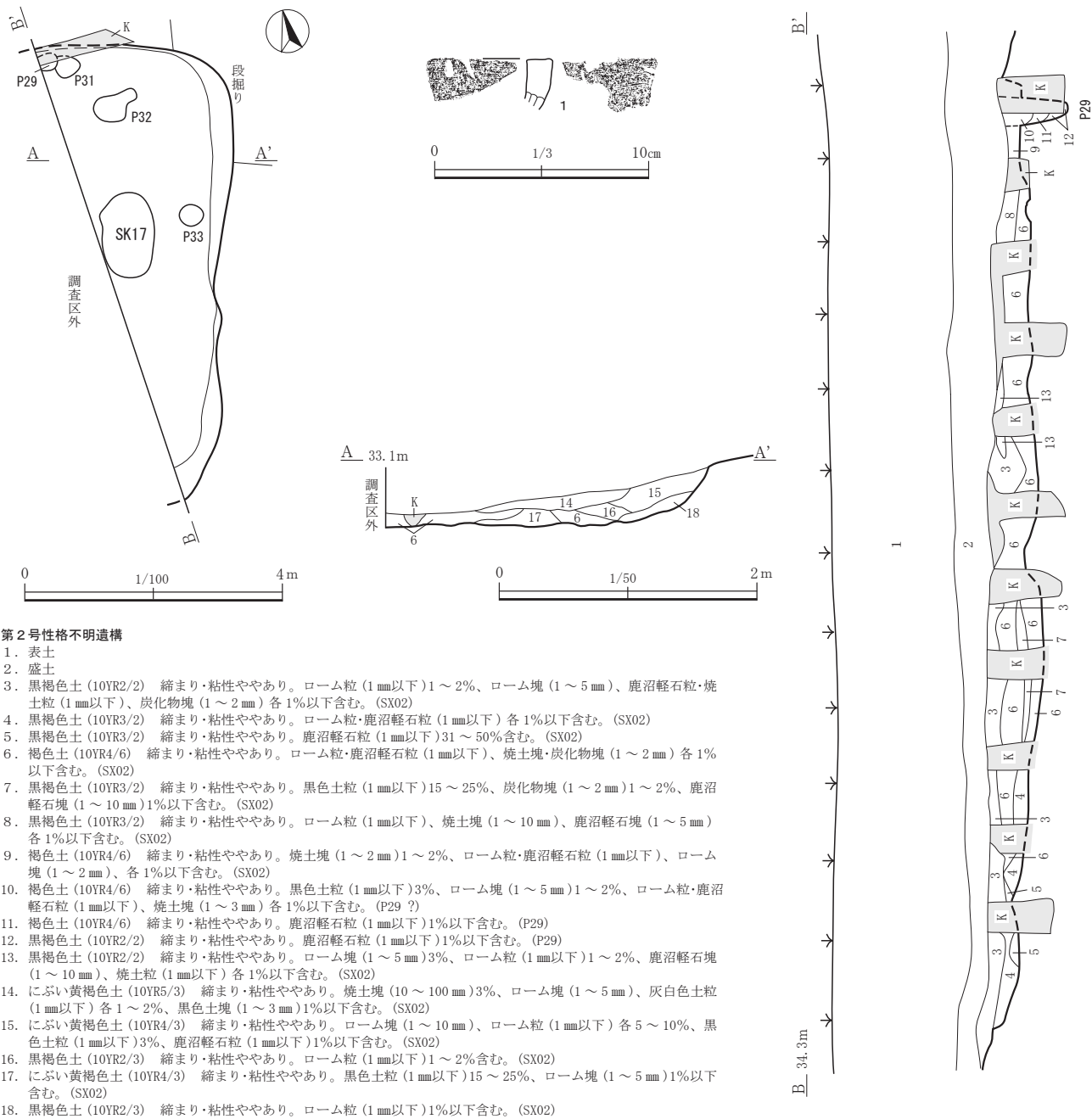
第 11 表 方形竪穴出土遺物観察表

										単位 cm
番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	土師質土器 小皿	—	2.2	4.9	長石、石英、雲母	内外: 橙色(5YR6/6)、褐灰色(5YR5/1)	良好	ロクロ整形、底部外面糸切り、中央にヘラの圧痕	SK15-No.1	口縁部内外面油煙付着、灯芯の痕跡
										単位 mm・g [] 現存値
番号	種別 銭名	外径	内径	厚さ	重量	素 材	初鑄年	特 徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
2	銭貨 天禧通宝	25.4	6.0	1.0	[2.2]	銅	1017	「通」字部分欠損	SK16-No.1	北宋銭

(3) 性格不明遺構

第 2 号性格不明遺構 (第24図、第12・16表、写真図版4・7)

位置 A 4・5 グリッドに位置し、西側の大部分が調査区外となる。**重複関係** ピット29、攪乱に切られていた。第17号土坑及びピット31～33との新旧関係は不明。**規模と形状** 上面が長軸現存6.80m、短軸現存3.00mで、平面形は方形もしくは長方形と推定される。壁は現存高0.50mで、外傾し、底面は概ね平坦であった。前述の通り土坑・ピットと重複するが、新旧関係は不明であり、本跡に伴う施設の可能性も全は否めない。**覆土** 表土及び盛土を除き16層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 土師質土器(内耳土鍋・鉢?)が出土した。**所見** 性格を明確にするような遺構・遺物は確認されなかったが、近隣に地下式坑・方形竪穴群が存在することから所謂「台地整形区画」の可能性が考えられる。帰属時期は、近隣の遺構との関係から15世紀後半以降と推測される。



第24図 第2号性格不明遺構・出土遺物

第12表 第2号性格不明遺構出土遺物観察表

番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	土師質土器 内耳土鍋・鉢?	—	—	—	長石、石英、赤褐色粒	内外: 褐灰色 (7.5YR4/1)	良好	ロクロ整形、口縁部内外面横ナデ仕上げ	トレンチ	

4 時期不明

(1) 土坑

第1号土坑 (第25図、写真図版5)

位置 B2グリッドに位置する。**重複関係** 第2号溝跡と重複し、これに切られていた。**規模と形状** 上面は長径現存1.40～1.94m、短径現存0.65～0.75mで、平面形は不整の方形もしくは長方形と推定される。深さ0.04～0.06mで、壁は外傾する。底面は上面と同形で、南から北に向かって緩やかに下降する。**覆土** 単層で、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 第2号溝跡より旧いが、性格・帰属時期ともに不明である。

第2号土坑 (第25図、第16表、写真図版5)

位置 C3グリッドに位置する。**重複関係** ピット8と重複するが、新旧関係は不明。**規模と形状** 上面は長径1.33m、短径0.90～1.16mの不整楕円形。長軸方向はN-7°-Eを示す。深さ0.20mで、壁はやや外傾する。底面は上面とほぼ同形で、中央が0.15m程凹む。**覆土** 2層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 細片の未掲載。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第3号土坑 (第25図、写真図版5)

位置 C・D3グリッドに位置し、東側は調査区外となる。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径1.10m、短径0.65～0.70m以上、東辺北寄りか東に突出する不整円形。長軸方向はN-31°-Eを示す。深さ0.15mで、壁は外傾する。底面は上面とほぼ同形で、概ね平坦であった。**覆土** 5層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第5号土坑 (第25図)

位置 B2グリッドに位置する。**重複関係** 重複していないが、攪乱に切られていた。**規模と形状** 上面は長径現存1.06m、短径1.05～1.15mの不整楕円形。長軸方向はN-5°-Eを示す。深さ0.06～0.10mで、壁はやや外傾する。底面は上面とほぼ同形で、東から西に向かって緩やかに下降する。**覆土** 3層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第6号土坑 (第25図、写真図版5)

位置 C3グリッドに位置する。**重複関係** 第12号土坑と接しているが、重複していない。**規模と形状** 上面は長径0.92m、短径0.70mの不整楕円形。長軸方向はN-79°-Wを示す。深さ0.10～0.22mで、壁は外傾する。底面は不整形で、ほぼ平坦であった。**覆土** 単層で、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

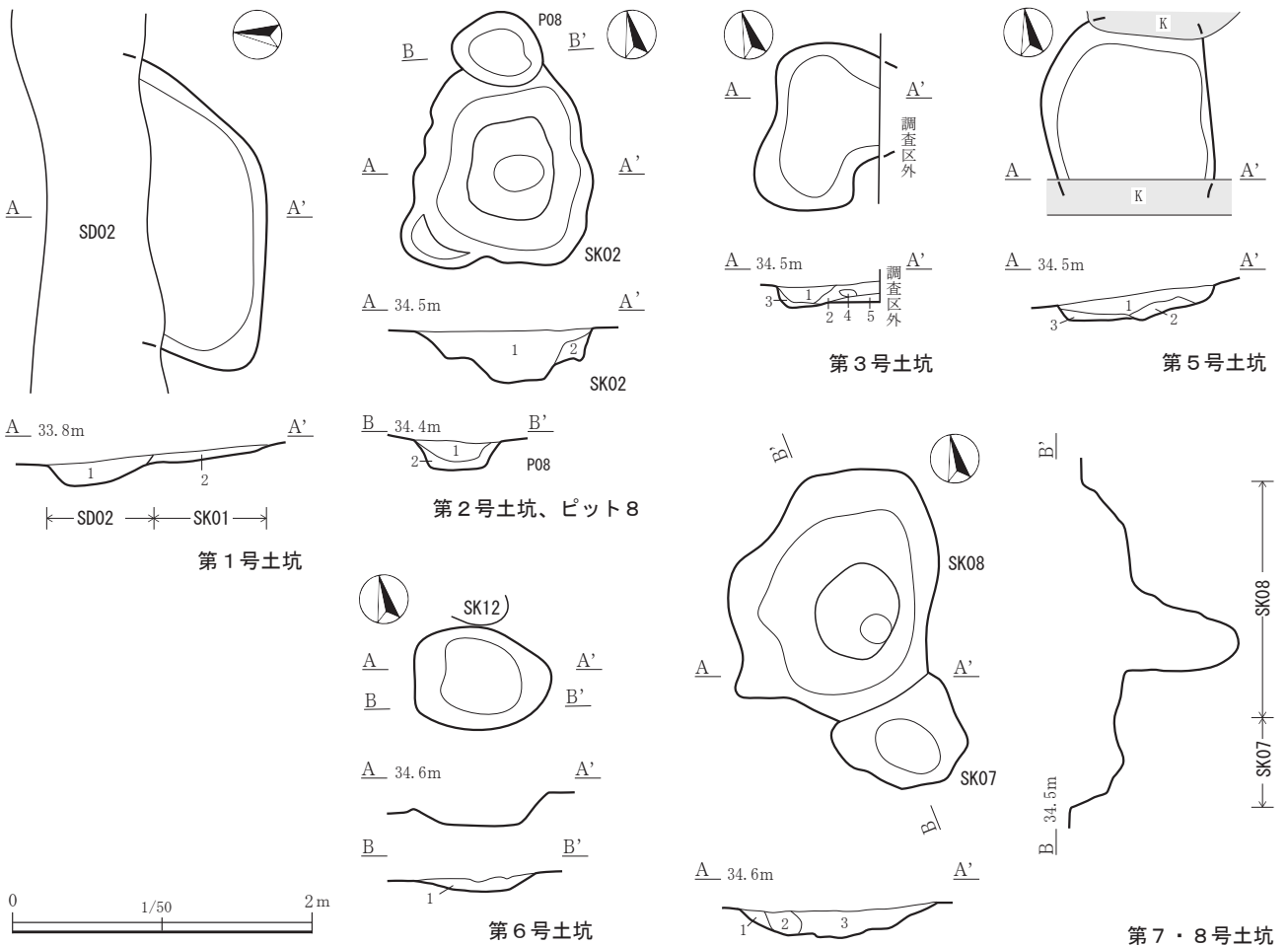
第7号土坑 (第25図、写真図版5)

位置 C3グリッドに位置する。**重複関係** 第8号土坑と重複するが、新旧関係は不明。**規模と形状** 上面は長径0.80m以上、短径0.80mの不整楕円形。深さ0.35～0.40mで、壁は外傾する。底面は楕円形で、

中央に向かって凹む。覆土 不明 出土遺物 出土していない。所見 性格・帰属時期ともに不明である。

第8号土坑 (第25図、第16表、写真図版5)

位置 C3グリッドに位置する。**重複関係** 第7号土坑と重複するが、新旧関係は不明。**規模と形状** 上面は長径1.70m、短径1.10～1.50mの不整楕円形。長軸方向はN-39°-Eを示す。深さ0.20～0.30mで、壁は外傾する。底面は上面とほぼ同形で、中央に径0.65×0.50m、深さ0.70mのピット状の掘り込みが見られた。**覆土** 南寄りでは3層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 細片の未掲載。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。



第1号土坑

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 縮まり・粘性ややあり。褐色土塊 (1～2mm) 1%以下含む。(SD02)
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 5～10%含む。SK01

第2号土坑、ピット8
A-A' (SK02)

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%、黒色土塊 (1～2mm) 1～2%含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%含む。

B-B' (ピット8)

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1～2%含む。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒・黒褐色土粒 (1mm以下) 各3%含む。

第3号土坑

1. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まりややあり、粘性あり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、炭化物塊 (1～2mm) 1%以下含む。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりややあり、粘性あり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%含む。
3. ローム土
4. 黄褐色土 (10YR5/6) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%含む。
5. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%含む。

第5号土坑

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、黒色土塊 (1～3mm) 1～2%含む。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりややあり、粘性あり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、黒色土粒 (1mm以下) 3%含む。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1～2%含む。

第6号土坑

1. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりあり、粘性なし。黒色土粒 (1mm以下) 3%含む。

第8号土坑

1. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1～2%含む。
3. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒・黒色土粒・暗褐色土 (1mm以下) 各5～10%含む。

第25図 第1～3・5～8号土坑、ピット8

第9号土坑（第26図、写真図版5）

位置 A3グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径2.20m、短径0.90～1.04mの楕円形。長軸方向はN-14°-Eを示す。深さ0.23mで、壁は外傾する。底面は上面と同形で、概ね平坦であった。**覆土** 単層で、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第11号土坑（第9図）

位置 C3グリッドに位置する。**重複関係** 第1号竪穴建物跡と重複し、これを切っていた。**規模と形状** 上面は長径1.70m、短径0.55～0.85mの楕円形。長軸方向はN-79°-Eを示す。深さ0.16mで、壁は外傾する。底面は上面とほぼ同形で、概ね平坦であった。**覆土** 単層で、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 第1号竪穴建物跡より新しいが、性格・帰属時期ともに不明である。

第12号土坑（第26図、第16表、写真図版5）

位置 C3グリッドに位置する。**重複関係** 第6号土坑と接しているが、重複していない。**規模と形状** 上面が長径1.04m、短径0.60m程の不整楕円形。長軸方向はN-51°-Wを示す。深さ0.08～0.12mで、壁は外傾する。底面は上面とほぼ同形で、概ね平坦であった。**覆土** 単層で、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 細片の為未掲載。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第17号土坑（第26図、第16表、写真図版5）

位置 A4グリッドに位置する。**重複関係** 第2号性格不明遺構と重複するが、新旧関係は不明。**規模と形状** 上面は長径1.32m、短径0.75mの楕円形。長軸方向はN-9°-Eを示す。深さ0.38mで、壁はやや外傾する。底面は上面とほぼ同形で、概ね平坦であった。**覆土** 3層に分層され、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 細片の為未掲載。**所見** 性格・帰属時期ともに不明であるが、第2号性格不明遺構に伴う可能性も全は否めない。

第20号土坑（第26図、写真図版5）

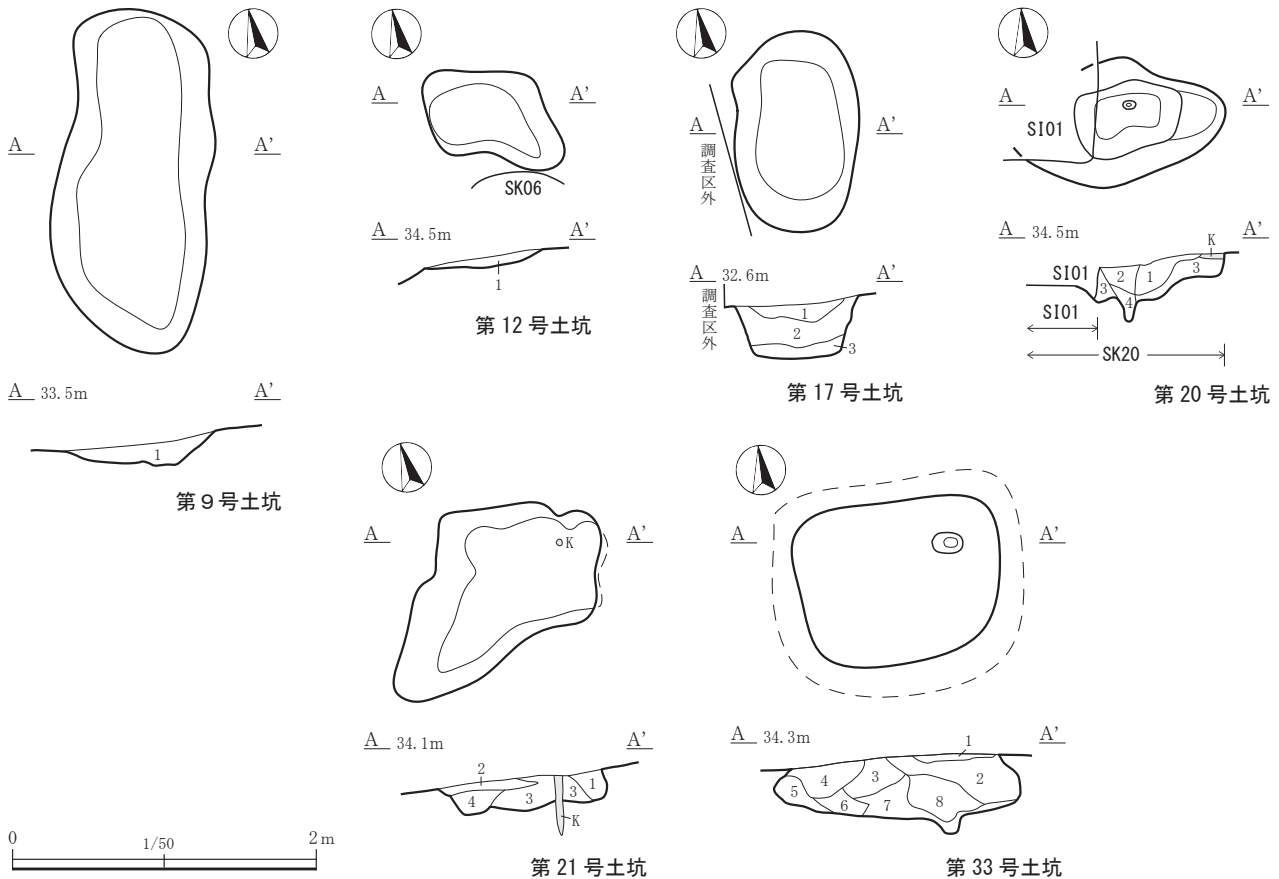
位置 C3グリッドに位置する。**重複関係** 第1号竪穴建物跡と重複し、これに切られていた。**規模と形状** 上面は長径現存1.30m、短径0.84mで、楕円形と推定される。長軸方向はN-86°-Wを示す。深さ0.15mで、壁は外傾する。底面は上面とほぼ同形で、中程に径0.70×0.45m、深さ0.10mの長方形の掘り込みが見られた。**覆土** 4層に分層され、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 第1号竪穴建物跡より旧いが、性格・帰属時期ともに不明である。

第21号土坑（第26図、写真図版5）

位置 B4グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径1.74m、短径1.15mの不整形。長軸方向はN-61°-Eを示す。深さ0.20mで、東側が内湾し、他はいずれも外傾する。底面は上面とほぼ同形で、多少の凹凸は見られるものの概ね平坦であった。**覆土** 4層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第33号土坑（第26図、第16表、写真図版5）

位置 B2・3グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径1.35m、短径1.05mの丸味を帯びた長方形。長軸方向はN-89°-Eを示す。深さ0.20～0.40mで、壁は内湾する。底面は上面とほぼ同形で、中央に向かって緩やかに下降する。北東部に径0.20×0.14m、深さ0.10mの楕円形の掘り込みが見られた。**覆土** 8層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 細片の未掲載。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。



第9号土坑

1. 褐色土 (7.5YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、ローム塊 (5～10mm) 各1%以下含む。

第12号土坑

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、黒色土粒 (1mm以下) 5～10%、黒色土塊 (1～2mm) 1～2%含む。

第17号土坑

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まりややあり、粘性あり。ローム粒 (1mm以下) 3%、ローム塊 (5～15mm) 1～2%、黒色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、焼土塊 (1～2mm) 各1%以下含む。

第20号土坑

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 3%含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1～2%、焼土塊 (1mm以下) 1%以下含む。
3. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
4. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1～2%含む。

第21号土坑

1. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。炭化物塊 (1～2mm) 1%以下含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 縮まりなし、粘性ややあり。ローム塊 (3～5mm)、ローム粒 (1mm以下) 各1%以下含む。
3. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。暗褐色土粒 (1mm以下) 15～25%、ローム粒 (1mm以下) 1～2%、黒色土塊 (1～2mm) 1%以下含む。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、黒色土塊 (1～2mm) 1%以下含む。

第33号土坑

1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1～3mm) 1%以下含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊・黒色土塊 (1～2mm) 各1%以下含む。
3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1～2mm) 1～2%、黒色土塊 (1～2mm) 1%以下含む。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、黒色土塊 (1～2mm) 各1%以下含む。
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、ローム塊・黒色土塊 (1～2mm) 各1%以下含む。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。
7. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1～2%、黒色土塊 (1～2mm) 1%以下含む。
8. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 5～10%、ローム塊 (1～30mm)、黒色土塊 (1～2mm) 各1%以下含む。

第26図 第9・12・17・20・21・33号土坑

第38号土坑（第27図、写真図版5）

位置 A5グリッドに位置し、西側は調査区外となる。**重複関係** 重複していないが、攪乱に切られていた。**規模と形状** 長径現存0.90m、短径現存0.55mの円形もしくは楕円形と推定される。深さ0.12mで、壁は外傾する。底面は上面とほぼ同形で、概ね平坦であった。**覆土** 単層で、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第42号土坑（第27図、写真図版5）

位置 A5グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径1.20m、短径0.95mの丸味を帯びた長方形。長軸方向はN-2°-Eを示す。深さ0.08mで、壁は外傾する。底面は上面と同形で、ほぼ平坦であった。**覆土** 単層で、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第46号土坑（第27図、写真図版5）

位置 B3グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径0.87m、短径0.50～0.65mの不整長方形。長軸方向はN-13°-Eを示す。深さ0.05～0.16mで、壁は外傾する。底面は上面と同形で、東から西に向かって下降する。**覆土** 単層で、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第47号土坑（第27図、写真図版5）

位置 A5・6グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径0.70m、短径0.52mの不整楕円形。長軸方向はN-44°-Wを示す。深さ0.05～0.20mで、壁は外傾する。底面は上面とほぼ同形で、中央に向かって下降する。**覆土** 2層に分層され、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第48号土坑（第27図）

位置 A7グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径0.67m、短径0.46mの楕円形。長軸方向はN-14°-Eを示す。深さ0.08mで、壁は外傾する。底面は上面と同形で、平坦であった。**覆土** 3層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

第49号土坑（第27図）

位置 A6グリッドに位置し、北東側は調査区外となる。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上面は長径0.74m、短径現存0.45mで楕円形と推定される。長軸方向はN-40°-Eを示す。深さ0.08～0.10mで、壁は外傾する。底面は上面と同形で、ほぼ平坦だが中央が僅かに凹む。**覆土** 3層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。

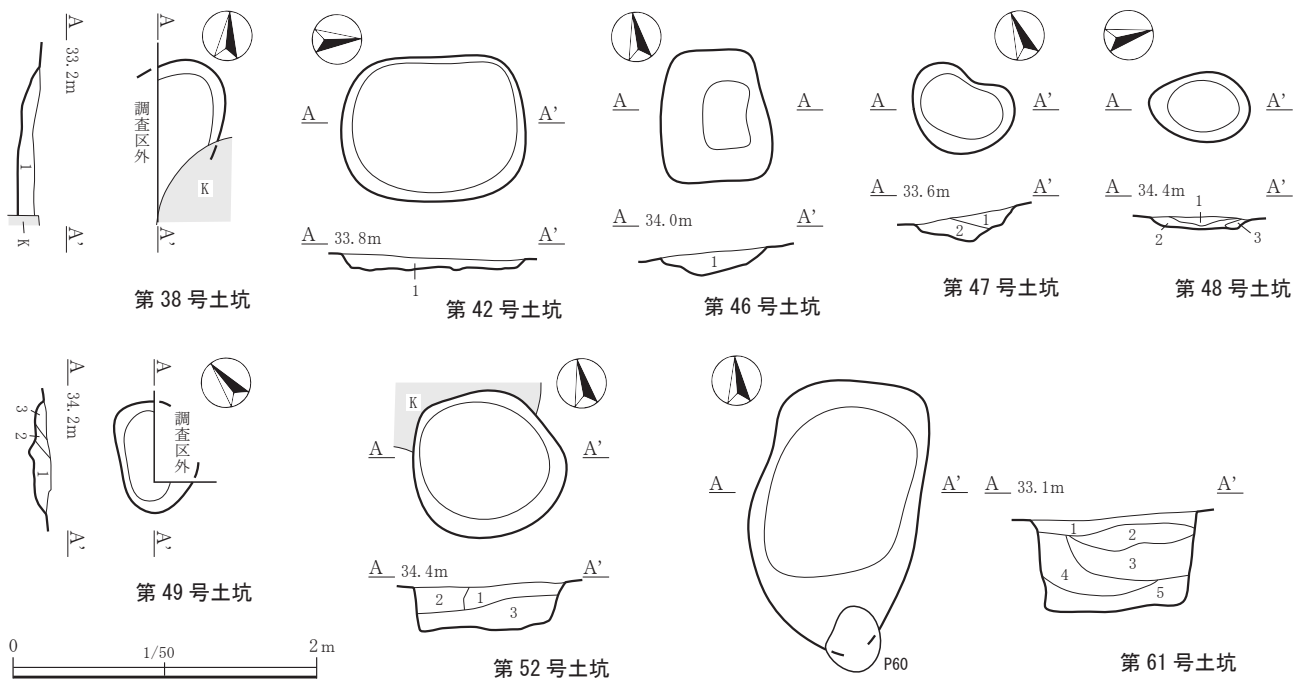
第52号土坑（第27図、第16表、写真図版5）

位置 C2グリッドに位置する。**重複関係** 重複していないが、攪乱に切られていた。**規模と形状** 上

面は長径1.00m、短径0.98mのほぼ円形。深さ0.28mで、壁の北西は直立ぎみで、他は外傾する。底面は上面と同形で、概ね平坦であった。覆土 3層に分層され、自然堆積と考えられる。出土遺物 細片の為未掲載。所見 性格・帰属時期ともに不明である。

第61号土坑 (第27図、第16表、写真図版5)

位置 A2・3グリッドに位置する。**重複関係** ピット60と重複するが新旧関係は不明。**規模と形状** 上面は長径現存1.76m、短径1.10mの不整楕円形。長軸方向はN-16°-Eを示す。深さ0.62mで、壁は東西が直立し、南北は外傾する。底面は楕円形で、ほぼ平坦であった。**覆土** 5層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 細片の為未掲載。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。



第38号土坑

- 1. ぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 3%含む。

第42号土坑

- 1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。

第46号土坑

- 1. 黒色土 (10YR2/1) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1~10mm) 1~2%含む。

第47号土坑

- 1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。
- 2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 3%含む。

第48号土坑

- 1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
- 2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%含む。
- 3. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒・黒色土粒 (1mm以下) 各5~10%含む。

第49号土坑

- 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
- 2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%含む。
- 3. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 15~25%含む。

第52号土坑

- 1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
- 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
- 3. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (10~20mm) 3%含む。

第61号土坑

- 1. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 3%含む。
- 2. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
- 3. 黄褐色土 (10YR5/6) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 3%含む。
- 4. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
- 5. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (10~15mm) 3%含む。

第27図 第38・42・46~49・52・61号土坑

(2) 溝跡

第1号溝跡（第28図、第16表、写真図版6）

位置 B1グリッドに位置し、東・西側は調査区外となる。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上幅0.75m、長さ4.30mを確認した。中軸方向はN-72°-Eを示す。深さ0.10～0.15mで、壁は外傾する。下幅0.21～0.55mで、底面は東から西に向かって下降する。

覆土 2層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 細片の為未掲載。

所見 性格・帰属時期ともに不明である。

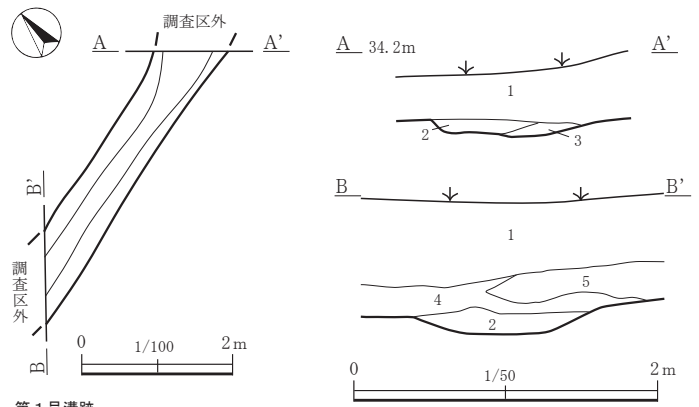
第2号溝跡（第29図、第16表、写真図版6）

位置 B1・2、C1・2グリッドに位置し、東・西側は調査区外となる。**重複関係** 第1号土坑と重複し、これを切る。**規模と形状** 上幅0.95～1.20mで東端は南に向かって膨らみ、幅1.50mとなる。現存長9.90mを確認した。中軸方向はN-85°-Eを示す。深さ0.25mで、壁は外傾する。下幅0.45～0.55mで、底面は東から西に向かって下降する。

覆土 1～2層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 本跡に伴う遺物は出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。第1次調査の第2号溝の延長と推測される。

第3号溝跡（第30・35図、第13・16表、写真図版6・8）

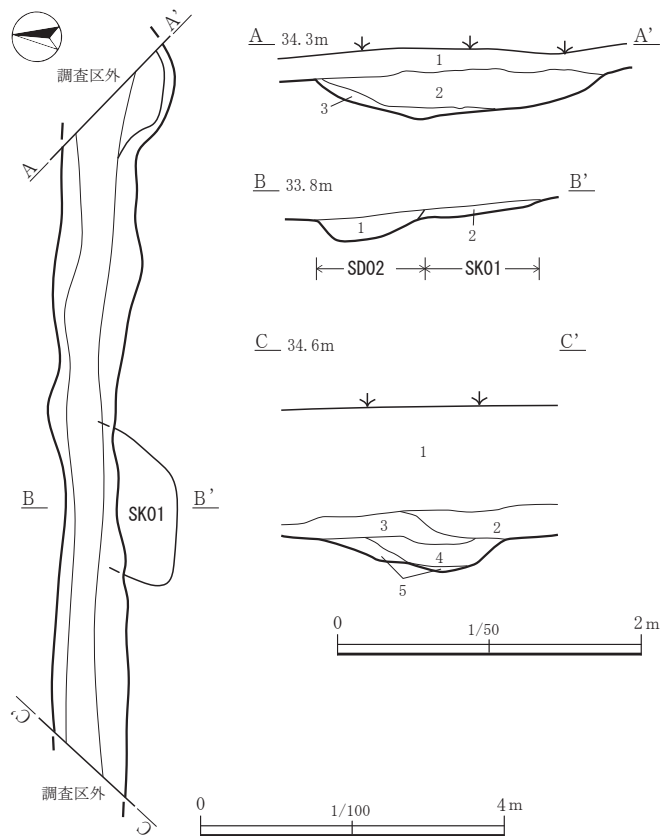
位置 C2グリッドに位置する。**重複関係** 重複していないが、攪乱に切られていた。**規模と形状** 上幅0.30～0.60m、長さ4.90mを確認した。中



第1号溝跡

1. 表土
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下)、ローム塊 (1～2mm) 各1%以下含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/4) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、ローム塊 (1～2mm) 1～2%含む。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、ローム塊 (1～2mm) 5～10%含む。(盛土?)
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりあり、粘性なし。ローム塊 (1～15mm) 3%含む。(盛土?)

第28図 第1号溝跡



第2号溝跡

A-A'

1. 表土
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりあり、粘性なし。ローム塊 (1～15mm) 5～10%含む。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、ローム塊 (1～15mm) 5～10%含む。

B-B'

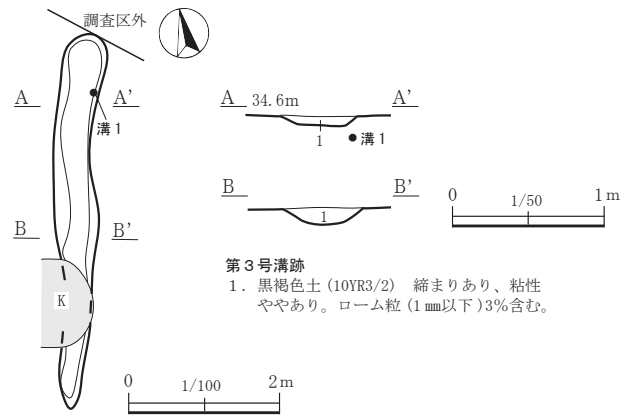
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 締まり・粘性ややあり。褐色土塊 (1～2mm) 1%以下含む。(SD02)
2. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 5～10%含む。(SK01)

C-C'

1. 表土
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、ローム塊 (1～15mm) 5～10%含む。(盛土?)
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。(盛土?)
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりあり、粘性なし。ローム塊 (1～15mm) 5～10%含む。
5. 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下) 15～25%、ローム塊 (1～5mm) 5～10%含む。

第29図 第2号溝跡

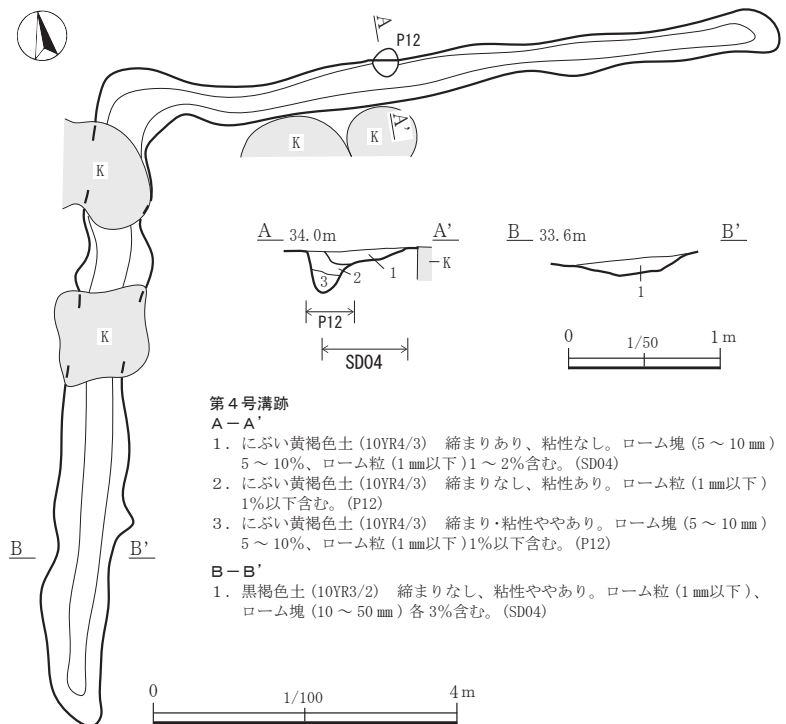
軸方向はN-15°-Eを示す。深さ0.07～0.10mで、壁は外傾する。下幅0.20～0.43mで、底面は北から南に向かって緩やかに下降する。**覆土** 単層で、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 土師質土器（内耳土鍋）が出土した。**所見** 中世の遺物が出土したが、小片で本跡に伴うとは断定できず、帰属時期は、中世以降と考えられ、性格は不明である。



第30図 第3号溝跡

第4号溝跡（第31図、第16表、写真図版6）

位置 B2・3、C2グリッドに位置する。**重複関係** ピット12と重複し、これを切る。また、攪乱に切られていた。**規模と形状** 上幅0.40～0.90mで、9.00m西進の後、やや鈍角に折れて南進し、8.70mで止まる。南北の中軸方向はN-15°-Eを示す。深さ0.06～0.10mで、壁は外傾する。下幅0.20～0.50mで、底面は東から南に向かって下降する。**覆土** 単層で、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 細片の為未掲載。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。



第31図 第4号溝跡

第5号溝跡（第32・35図、第13・16表、写真図版6・8）

位置 A6・7、B6・7グリッドに位置し、西・南側は調査区外となる。**重複関係** 重複していないが、攪乱に切られていた。**規模と形状** 上幅0.80～1.70mで、調査区西端から7.30m東進し、南に折れて6.10m程で調査区外となる。南北部分の中軸方向はN-17°-Eを示す。深さ0.25～0.35mで、壁は外傾する。東西部分は段掘り状に掘り込まれていた。下幅0.60～1.00mで、底面は東から西、北から南へと下降する。**覆土** 2～3層に分層され、人為的埋没と考えられる。**出土遺物** 土師質土器（内耳土鍋）が出土した。**所見** 中世の遺物が出土したが、小片で本跡に伴うとは断定し難く、帰属時期は、中世以降と思われ、性格は不明である。第1次調査の第1号溝の延長と推定される。

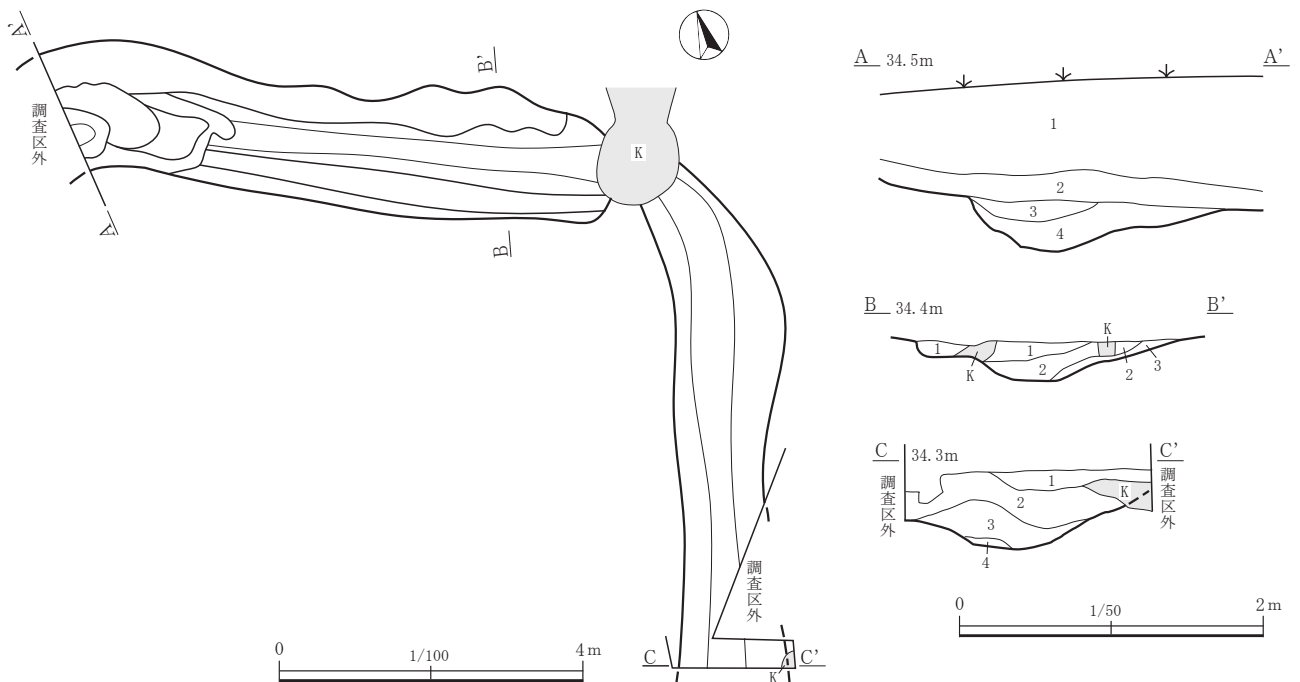
第6号溝跡（第33図、写真図版6）

位置 B5グリッドに位置し、南側は調査区外となる。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上幅

0.30～0.65m以上で、長さ2.90mを確認した。中軸方向はN-15°-Eを示す。深さ0.10mで、壁はやや外傾する。下幅0.13～0.50mで、凹凸が目立つ。覆土 単層で、人為的埋没と考えられる。出土遺物 出土していない。所見 性格・帰属時期ともに不明である。

第8号溝跡 (第34図、写真図版6)

位置 C3・4グリッドに位置する。**重複関係** 重複していない。**規模と形状** 上幅0.20～0.40m、長さ4.50mを確認した。中軸方向はN-16°-Eを示す。深さ0.05mで、壁は外傾する。下幅0.08～0.17mで、底面は北から南へ向かって僅かに下降する。**覆土** 単層で、自然堆積と考えられる。**出土遺物** 出土していない。**所見** 性格・帰属時期ともに不明である。中軸方向は他の遺構と近似するが覆土の締まりが強い点を特徴とする。



第5号溝跡

A-A'

1. 表土
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。ローム塊 (1～2mm) 5～10%含む。(盛土?)
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%含む。
4. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。

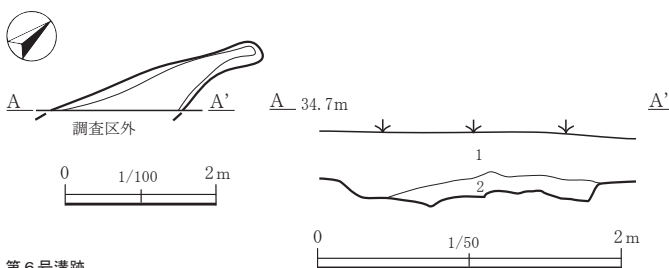
B-B'

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%含む。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
3. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%含む。

C-C'

1. 褐色土 (10YR4/4) 締まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。(盛土?)
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 3%、ローム粒 (1mm以下) 1～2%含む。
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。

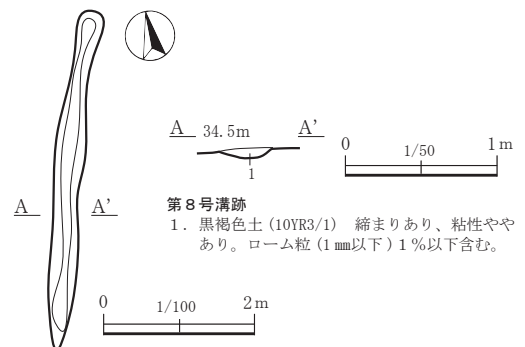
第32図 第5号溝跡



第6号溝跡

1. 表土
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%、黒色土粒 (1mm以下) 1～2%含む。

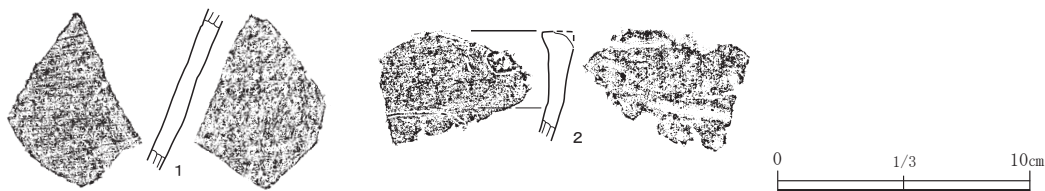
第33図 第6号溝跡



第8号溝跡

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。

第34図 第8号溝跡



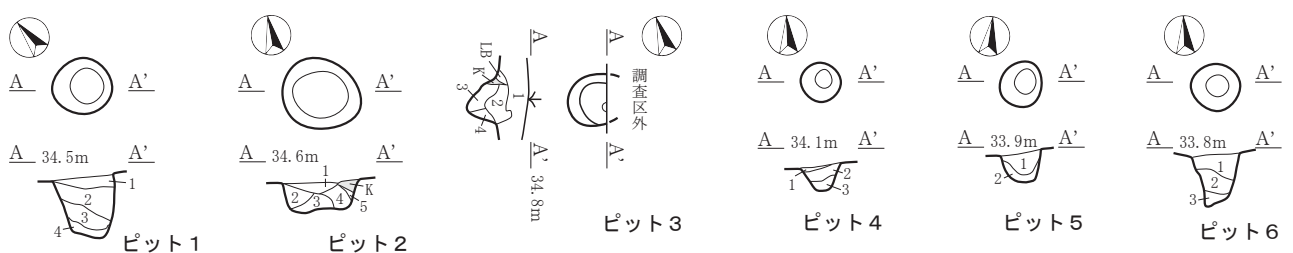
第 35 図 溝跡出土遺物

第 13 表 溝跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	土師質土器 内耳土鍋	—	—	—	長石、石英、雲 母	内: 橙色 (5YR6/6) 外: 黒褐色 (5YR2/1)	良好	体部内面横ナデ仕上げ、同外面 粗いナデ	SD03-No.1	
2	土師質土器 内耳土鍋	—	—	—	長石、石英、雲 母、小礫 (5mm)	内: 橙色 (5YR6/6) 外: 黒褐色 (5YR2/1)	良好	口縁部内面横のナデ仕上げ、同 外面粗いナデ	SD05-覆土	耳部欠損

(3) ピット (第36~39図、第14・16表)

時期不明のピットはA区61基、B区1基の計62基である。長径0.16～0.78m、深さ0.05～0.72mと様々で、平面形も円形、不整円形、楕円形、不整楕円形等が見られる。各ピットの位置、平面形、計測値等を第14表に示した。調査区全体に分布し、目立った特徴を示さない。遺物が出土したのはピット2・11の2基のみである。他の遺構と重複していたのは、ピット8が第2号土坑、ピット12が第4号溝跡、ピット29・31～33が第2号性格不明遺構、ピット60が第61号土坑、ピット同士ではピット29と31である。これらのほとんどは建物跡やピット列としての組み合わせを想定できなかった。唯一、A5・6グリッドで確認されたピット35～38の4基が柱列として想定し得る。長さ5.80mで柱間は北から1.90+2.00+1.90mとなる。長径0.35～0.46m、短径0.31～0.36mの円形もしくは楕円形で、深さ0.15～0.23mと全体に浅い。地山面が西側に向かって下降していることから、これらに対応するピット列が消失した可能性もある。また、中軸線がN-15°-Eを示し、等高線と合致する為か、第2号性格不明遺構、第3・4・6号溝跡を始め複数の遺構の中軸方向と合致している点が留意される。



ピット 1

1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%含む。
2. 黒褐色土 (7.5YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5～10%含む。
3. 黒褐色土 (7.5YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
4. 黄褐色土 (10YR5/8) 縮まり・粘性ややあり。暗褐色土粒 (1mm以下) 1～2%含む。

ピット 2

1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 縮まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下) 1～2%含む。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 縮まりややあり、粘性あり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
3. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31～50mm、ローム塊 (1～3mm) 1～2%含む。
5. 黄褐色土 (10YR5/8) 縮まり・粘性ややあり。

ピット 3

1. 表土
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりややあり、粘性あり。黒褐色土粒 (1mm以下) 3%含む。
3. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりあり、粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 1～2%含む。
4. 黄褐色土 (10YR5/6) 縮まりあり、粘性ややあり。

ピット 4

1. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりあり、粘性ややあり。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15～25%含む。
3. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。

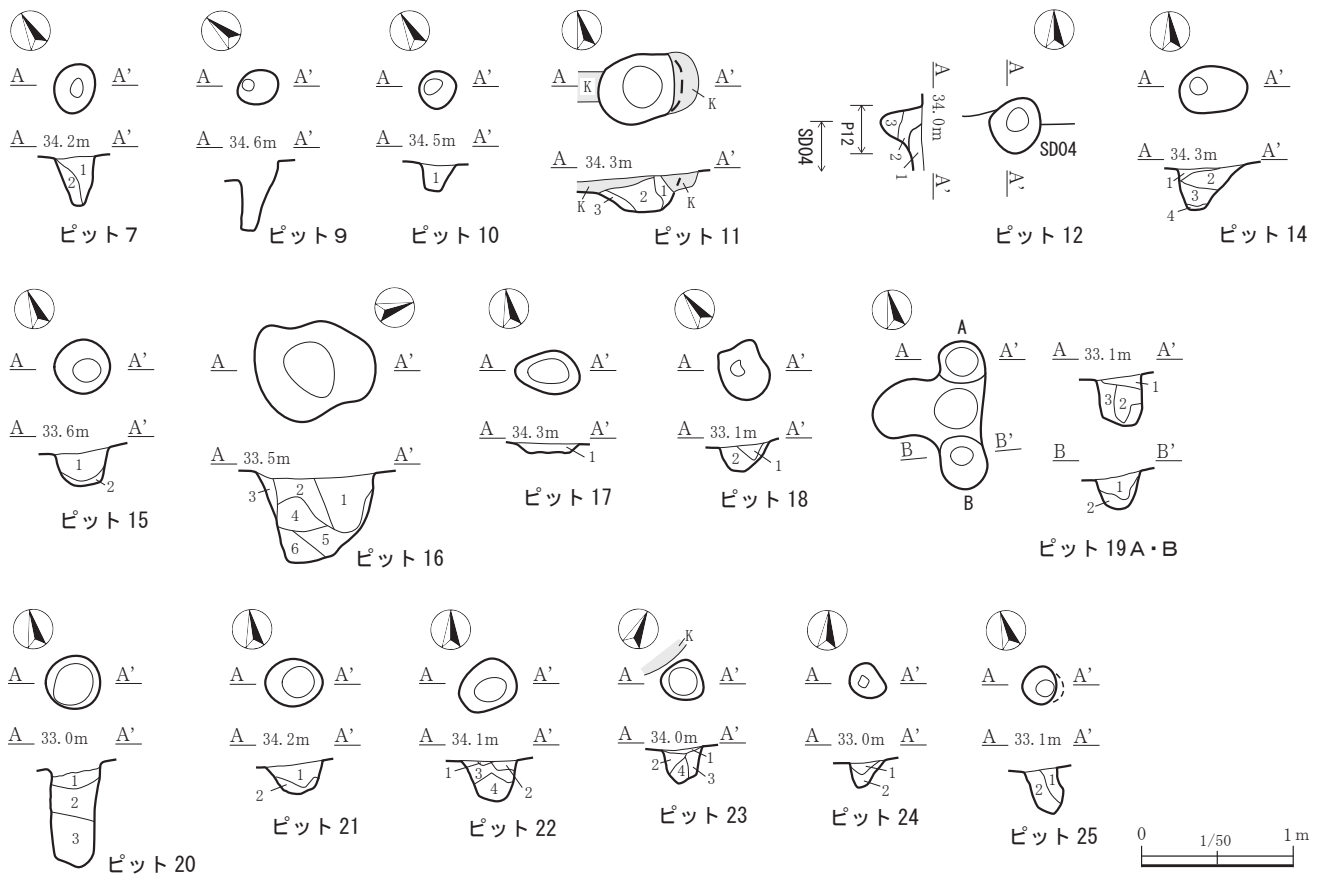
ピット 5

1. 黄褐色土 (10YR5/6) 縮まりなし、粘性あり。黒褐色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まりややあり、粘性あり。

ピット 6

1. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まり・粘性ややあり。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、ローム塊 (1～5mm) 各 5～10%含む。
3. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1～3mm) 15～25mm、ローム粒 (1mm以下) 5～10%含む。

第 36 図 ピット 1～6



ピット7

1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。焼土塊 (1~3mm) 1~2%、ローム塊 (1~3mm) 1%以下含む。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 縮まりややあり、粘性あり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%、ローム塊 (1~3mm) 1%以下含む。

ピット10

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まりなし、粘性あり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。

ピット11

1. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%含む。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%、焼土塊 (1~2mm) 1%以下含む。
3. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%含む。

ピット12

1. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%含む。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%、焼土塊 (1~2mm) 1%以下含む。
3. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%含む。

ピット14

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まりややあり、粘性あり。黒色土粒 (1mm以下) 3%含む。
2. 褐色土 (10YR4/6) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%、黒色土粒 (1mm以下) 3%含む。
3. 褐色土 (10YR4/6) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%、黒色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。

ピット15

1. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まりあり、粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 15~25%含む。

ピット16

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1~2mm) 1%以下含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 15~25%、ローム塊 (1~5mm) 5~10%含む。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 5~10%含む。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 5~10%、ローム塊 (5~10mm) 1~2%含む。
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 15~25%、ローム塊 (5~10mm) 3%含む。
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。

ピット17

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%含む。

ピット18

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりあり、粘性ややあり。

ピット19A・B

A-A' (P19A)

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム塊 (1~3mm) 5~10%、ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%含む。
3. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。

B-B' (P19B)

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まりなし、粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 15~25%含む。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりなし、粘性ややあり。黒色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。

ピット20

1. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%、炭化物塊 (1~3mm) 1%以下含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/4) 縮まり・粘性ややあり。

ピット21

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。

ピット22

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まりあり、粘性なし。ローム粒 (1mm以下)、焼土塊 (1~2mm) 各1%以下含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%含む。
3. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31~50%、黒褐色土粒 (1mm以下) 5~10%含む。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。

ピット23

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
2. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%含む。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
4. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 31~50%含む。

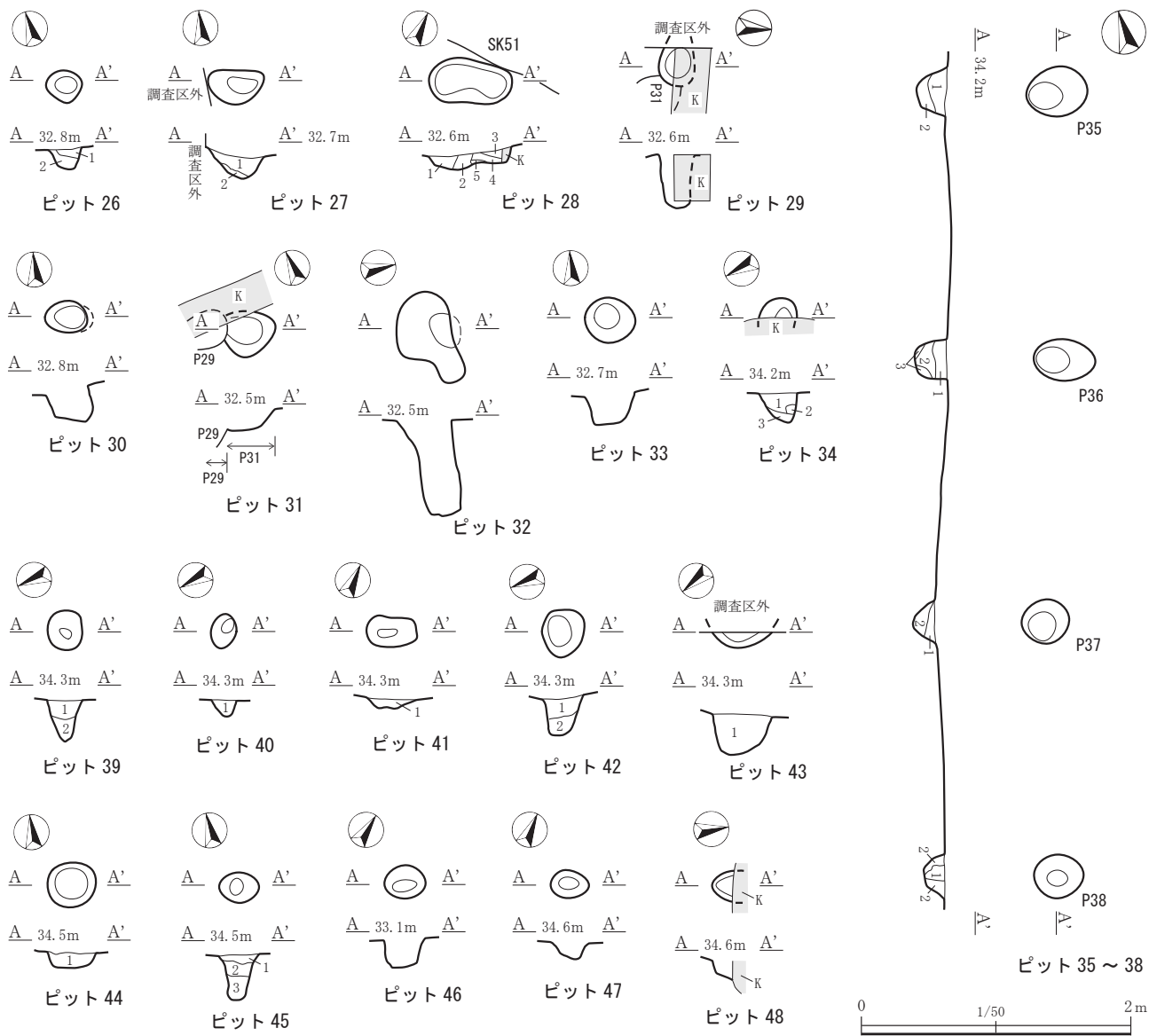
ピット24

1. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%含む。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。

ピット25

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1~2%含む。
2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1~10mm塊状) 1~2%含む。

第37図 ピット7・9~12・14~25



- ピット 26**
 1. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
 2. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。

- ピット 27**
 1. 暗褐色土 (10YR3/4) 締まりあり、粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%、焼土塊 (1~2mm) 1%以下含む。
 2. 褐色土 (10YR4/6) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1~2%含む。

- ピット 28**
 1. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1%以下含む。
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒・鹿沼軽石粒 (1mm以下) 各 1%以下含む。
 3. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%、鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1%以下含む。
 4. 暗褐色土 (10YR3/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%、鹿沼軽石粒 (1mm以下) 1%以下含む。
 5. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%含む。

- ピット 34**
 1. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1~2%含む。
 2. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 15~25%含む。
 3. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。

- ピット 35**
 1. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下)、ローム塊 (5~10mm) 各 1~2%含む。
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%、黒褐色土粒 (1mm以下) 5~10%含む。

- ピット 36**
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
 2. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
 3. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%、黒褐色土粒 (1mm以下) 3%含む。

- ピット 37**
 1. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1~2%、ローム塊 (1~3mm) 1%以下含む。
 2. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1~2%含む。

- ピット 38**
 1. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 1%以下含む。
 2. 褐色土 (10YR4/4) 締まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1mm以下) 1~2%含む。

- ピット 39**
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1mm以下) 3%含む。

- ピット 40**
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 1%以下含む。
- ピット 41**
 1. 褐色土 (10YR4/6) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%、黒褐色土粒 (1mm以下) 5~10%含む。

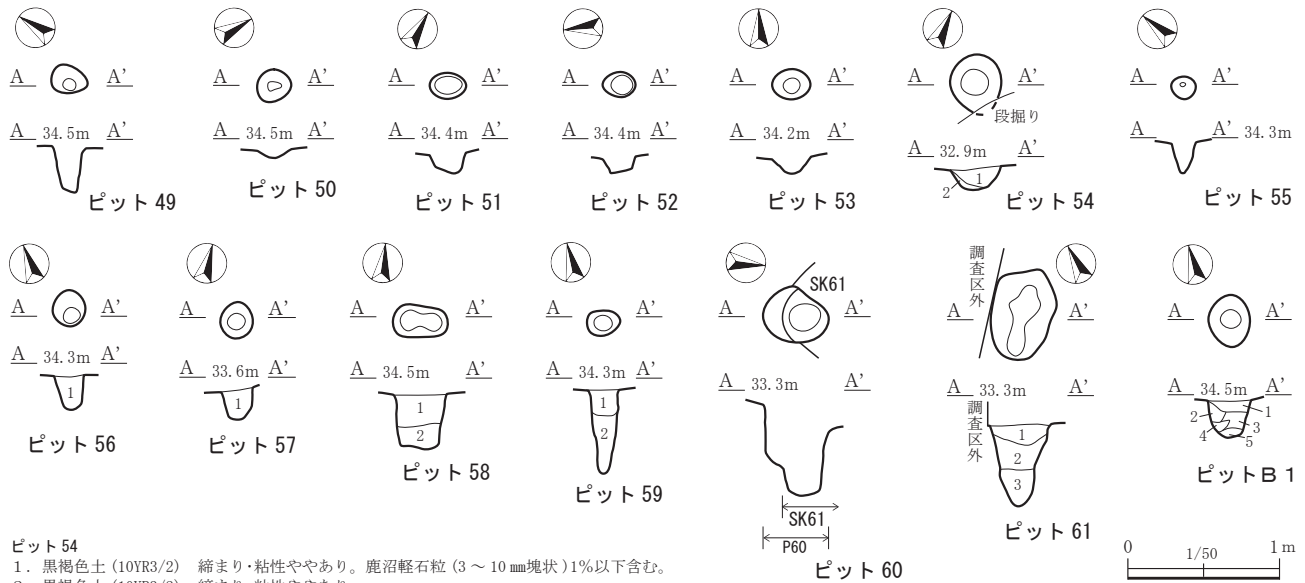
- ピット 42**
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。
 2. 黒褐色土 (10YR2/3) 締まり・粘性ややあり。

- ピット 43**
 1. 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%含む。

- ピット 44**
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 15~25%含む。

- ピット 45**
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 3%含む。
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり・粘性ややあり。ローム粒 (1mm以下) 5~10%含む。
 3. 黒褐色土 (10YR2/3) 締まり・粘性ややあり。

第 38 図 ピット 26 ~ 48



ピット 54
 1. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。鹿沼軽石粒 (3 ~ 10 mm塊状) 1%以下含む。
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 縮まり・粘性ややあり。

ピット 56
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 1%以下含む。

ピット 57
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 1%以下含む。

ピット 58
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。
 2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。

ピット 59
 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。褐色土粒 (1 mm以下) 5 ~ 10%含む。
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 縮まり・粘性ややあり。

ピット 61
 1. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 3%、黒褐色土粒 (1 mm以下) 1 ~ 2%含む。
 2. 褐色土 (10YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒褐色土粒 (1 mm以下) 1 ~ 2%含む。
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) 縮まり・粘性ややあり。

ピット B 1
 1. 褐色土 (7.5YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。黒色土塊 (1 ~ 2 mm) 1%以下含む。
 2. 褐色土 (7.5YR4/4) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 15 ~ 25%、黒色土塊 (1 ~ 2 mm) 1%以下含む。
 3. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 31 ~ 50%、黒色土粒 (1 mm以下) 5 ~ 10%含む。
 4. 褐色土 (10YR4/6) 縮まり・粘性ややあり。ローム粒 (1 mm以下) 31 ~ 50%含む。
 5. 褐色土 (10YR4/4) 縮まりあり、粘性なし。

第 39 図 ピット 49 ~ 61・B 1

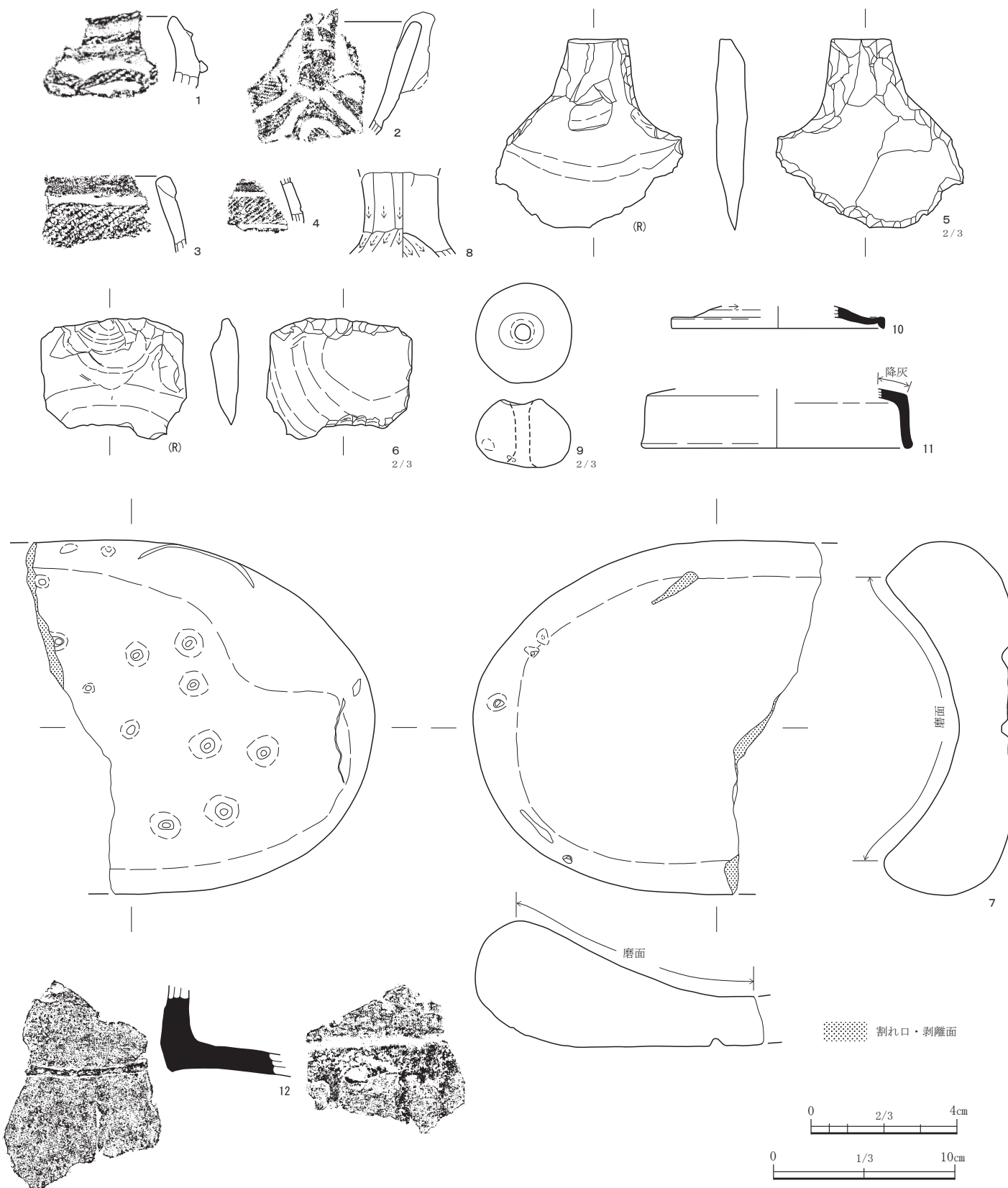
第 14 表 ピット計測表

旧→新 新旧不明≡ 単位 m ()推定・推定値 []現存値

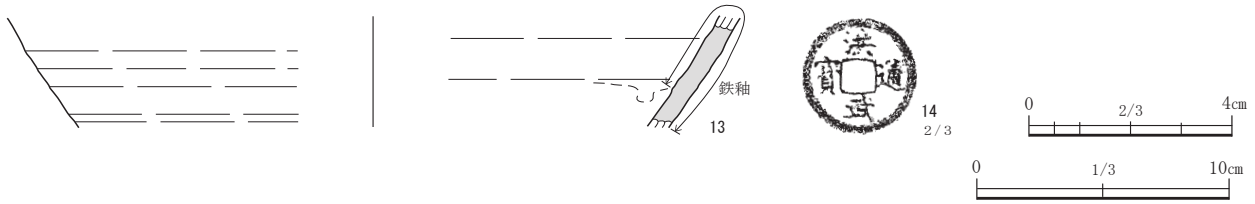
No.	位置	平面形	長径	短径	深さ	備考	No.	位置	平面形	長径	短径	深さ	備考
1	A区C2	円形	0.40	0.37	0.41		32	A区A4	不整楕円形	0.71	0.43	0.72	P32≒SX02
2	A区C2	楕円形	0.54	0.44	0.20	土師器(坏・埴、甕)、須恵器(壺)	33	A区A4	楕円形	0.37	0.34	0.23	P33≒SX02
3	A区D2	(楕円形)	[0.26]	0.33	0.22		34	A区B5	不明	[0.14]	0.27	0.22	
4	A区B2	円形	0.26	0.26	0.18		35	A区A5	楕円形	0.46	0.36	0.23	
5	A区B2	円形	0.30	0.27	0.22		36	A区A5	楕円形	0.46	0.31	0.23	
6	A区B2	円形	0.32	0.31	0.36		37	A区A6	円形	0.35	0.32	0.18	
7	A区B3	楕円形	0.34	0.26	0.33		38	A区A6	楕円形	0.37	0.33	0.15	
8	A区C3	楕円形	0.60	0.49	0.19	P08≒SK02	39	A区A7	楕円形	0.29	0.25	0.30	
9	A区C3	楕円形	0.28	0.22	0.46		40	A区A7	楕円形	0.25	0.19	0.12	
10	A区C3	円形	0.25	0.23	0.20		41	A区B6	楕円形	0.37	0.23	0.07	
11	A区C2	楕円形	(0.56)	0.44	0.25	土師器(甕)、須恵器(坏)	42	A区B6	不整円形	0.35	0.32	0.28	
12	A区B2	不整楕円形	0.36	0.33	0.26	P12→SD04	43	A区A・B6	不明	[0.45]	[0.11]	0.30	
13	A区C3	円形	0.57	0.48	0.34	SI01≒P13、土師器(甕)	44	A区C3	円形	0.36	0.33	0.12	
14	A区B3	楕円形	0.45	0.30	0.29		45	A区C4	楕円形	0.29	0.23	0.33	
15	A区B2	円形	0.36	0.36	0.25		46	A区A5	楕円形	0.30	0.25	0.21	
16	A区B2	不整楕円形	0.78	0.64	0.60		47	A区A5	楕円形	0.28	0.21	0.12	
17	A区C3	楕円形	0.42	0.28	0.06		48	A区D2	(楕円形)	[0.15]	0.23	0.13	
18	A区A3	不整楕円形	0.36	0.32	0.20		49	A区C2	楕円形	0.23	0.18	0.30	
19A	A区A3	楕円形	0.32	0.27	0.33		50	A区C4	円形	0.23	0.21	0.05	
19B	A区A3	楕円形	0.35	0.30	0.21		51	A区B4	楕円形	0.23	0.17	0.13	
20	A区A3	円形	0.36	0.35	0.70		52	A区B3・4	楕円形	0.22	0.17	0.10	
21	A区A5	楕円形	0.38	0.31	0.23		53	A区B3	楕円形	0.25	0.20	0.11	
22	A区A5	楕円形	0.37	0.31	0.26		54	A区A3	(楕円形)	[0.34]	0.34	0.14	
23	A区A5	不整円形	0.27	0.26	0.25		55	A区B4	円形	0.16	0.14	0.20	
24	A区A3	不整楕円形	0.25	0.22	0.16		56	A区B5	円形	0.24	0.22	0.23	
25	A区A3	不整円形	0.25	0.22	0.30		57	A区A5	円形	0.24	0.21	0.19	
26	A区A3	不整円形	0.27	0.24	0.15		58	A区A・B6	楕円形	0.36	0.22	0.36	
27	A区A4	不整楕円形	0.42	0.26	0.24		59	A区B6	楕円形	0.26	0.16	0.55	
28	A区A4	楕円形	0.62	0.33	0.13		60	A区A3	不整楕円形	0.43	0.37	0.60	P60≒SK61
29	A区A4	(楕円形)	[0.29]	(0.27)	0.40	SX02・P31→P29	61	A区A2	不整楕円形	0.62	0.42	0.54	
30	A区A4	楕円形	0.31	0.23	0.27		B1	B区B9	楕円形	0.34	0.27	0.24	
31	A区A4	不整楕円形	0.42	(0.34)	0.16	P31≒SX02、P31→P29							古代のピット13を含む

5 遺構外出土遺物（第40・41図、第15・16表、写真図版8）

本遺跡における土地利用の変遷を示す資料として、特徴ある遺物を掲載した。縄文時代中・後期、古代、中世の遺物がある。遺構の帰属時期と合致しないものも遺構外遺物とした。



第40図 遺構外出土遺物（1）



第41図 遺構外出土遺物(2)

第15表 遺構外出土遺物観察表

単位 cm・g ()推定値 []現存値

番号	種別 器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
1	縄文土器 深鉢	—	—	—	長石、石英、雲母、小礫(2mm)	内:にぶい橙色(7.5YR7/3) 外:灰黄褐色(10YR6/2)	良好	口縁部に横位の波状隆帯がみられ、縄文施文	SK02-No.1	加曾利E I
2	縄文土器 深鉢	—	—	—	長石、石英	内:浅黄褐色(10YR8/4) 外:黒褐色(10YR3/1)	良好	波状口縁の頂部に豚鼻状の瘤が貼付され、横位の帯縄文が巡る	C2Gr-攪乱	安行 I・II式
3	縄文土器 深鉢	—	—	—	長石、石英	内:浅黄褐色(7.5YR8/3) 外:灰褐色(7.5YR5/2)	良好	口縁部に沈線による区画、その中に縄文を充填	SI01-No.12	加曾利EIII?
4	縄文土器 深鉢	—	—	—	長石、石英	内外:黒褐色(10YR3/1)、浅黄褐色(10YR8/4)	良好	体部外面に平行沈線、区画内の一部に縄文を充填	P13-覆土	後期
8	土師器 高杯	—	[4.8]	—	長石、石英、小礫(3mm)	内外:にぶい橙色(5YR6/4)	良好	棒状の脚部(中実)外面縦のヘラナデ、裾部内面縦のナデ	SK13-No.3	6世紀後半
10	須恵器 蓋	(11.8)	—	—	長石、石英	内外:にぶい褐色(7.5YR5/3)	良好	ロクロ整形、甲の内側回転ヘラ削り	SK19-覆土Bセク付近	8世紀後半
11	須恵器 壺蓋	(14.8)	[3.3]	—	長石、石英、小礫(4mm)	内:灰黄褐色(10YR6/2) 外:褐灰色(10YR5/1)、灰黄褐色(10YR4/2)	良好	ロクロ整形、甲に厚く降灰	SD02-No.2	9世紀前半
12	須恵器 甕	—	—	—	長石、石英、小礫(2~7mm)	内外:褐灰色(10YR6/1) 釉:灰オリーブ色(7.5Y4/2)	良好	輪積み、ロクロ整形、肩部外面降灰による自然釉	SK19-No.1	割れ口を砥石の代用とする8世紀代
13	陶器 瓶	—	—	—	精良	胎:浅黄褐色(7.5YR8/4) 釉:黒褐色(7.5YR3/2)	良好	ロクロ成形、内面下位露胎、体部内外面鉄釉施釉	C4Gr-トレンチャー内	瀬戸・美濃産16・17世紀

番号	種別 器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	特 徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
5	石器 石匙	5.2	5.2	0.1~0.8	22.3	硬砂岩	刃部は片面加工、柄部は両面加工	B・C2Gr-攪乱	
6	石器 刃器	3.3	4.0	0.1~0.8	12.6	チャート	長辺の中央部を刃部とし、片面加工	SK19-覆土Bセク付近	

番号	種別 器種	長さ	幅	器高	重量	石 質	特 徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
7	石器 石皿	[19.1]	[19.3]	6.8~6.9	[2,980]	砂岩	表面に数個、裏面に多数の凹あり	SK13-No.7	

番号	種別 器種	径	長さ	重量	胎土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
9	土製品 土玉	2.5~2.7	1.9	12.8	長石、石英	外:橙色(7.5YR6/6)、灰褐色(7.5YR5/2)	良好	径4mm程の棒を芯に手捏ね、外面ナデ仕上げ	SK51-覆土上・中層	古代

単位 mm・g

番号	種別 銭名	外径	内径	厚さ	重量	素 材	初鑄年	特 徴	出土位置・ 取り上げ番号	備考
14	銭貨 洪武通宝	23.0	6.5	1.1	2.6	銅	1368	—	表採	明銭

第4章 総括

第1節 土地利用の変遷

今次調査区は、遺跡全体の西側縁辺部に位置すると思われ、確認された遺構も帰属時期が判明するものは極一部であり、土坑・溝跡・ピットなど多くは時期不明である。また、耕作痕に伴う攪乱が著しく、遺構の遺存状態が不良であった。今次調査の成果に第1次調査及び近隣遺跡の調査成果を援用して当地の土地利用の変遷を概観する。

旧石器時代 該期の遺構・遺物とも確認されなかつた。近隣の既往の調査においても未だ確認されていないが、基本層序の観察から今後大貫台地でも確認される可能性は高いと思われる。

縄文時代 中期中葉から後・晩期の遺物が出土している。遺構としては、土坑1基、焼土ピット1基、性格不明遺構1基のみである。第4号土坑は径1.40mの円形で、深さ0.51m、壁は内湾し、所謂袋状を呈するものである。遺構の形状から貯蔵穴のなものであると思われ、帰属時期は、出土遺物から後期の加曾利B式期と考えられる。焼土ピット1は攪乱に切られていて全様は不明であるが、径0.80×0.48mの楕円形と推定され、焼土及び焼土混じりの土が充満していた。周囲が複数の攪乱によって削平されていて判然としないが、屋外炉的なものと推察される。帰属時期は、出土遺物から晩期の安行3a～b式期と推測される。

第1号性格不明遺構は、精査の結果、人為的な遺構と判定されず、後・晩期の遺物包含層と想定された。しかし、後世に削平され為か遺物を包含する土層は僅かに0.05～0.15mであり、該期の出土遺物は10点程であったことから、性格不明遺構として報告した。後期加曾利B式期、晩期安行3c～d式期の遺物が混在する。これらの時期の堅穴建物跡などは確認されていないが、後世の土地利用により消失した可能性も否めない。いずれにせよ、近隣の遺跡では該期の集落跡や貝塚などが確認されており、当地も何等かの目的で土地利用がなされていたことが知られる。

遺物は土器類のほかに少量ながら石器（剥片、石匙、刃器、石皿）も出土している。

古墳時代・古代 今次調査では古墳時代の遺構は確認されなかつたが、第1次調査区では7世紀後葉から8世紀初葉の堅穴建物跡が1軒確認されており、飛城遺跡における古代集落の嚆矢となる。その後も第1次調査区では8世紀第1四半期1軒、同第2四半期1軒、同第3から4四半期1軒と続き、8世紀第4四半期から9世紀第1四半期には3軒と最盛期を迎え、その後再び9世紀第2から第3四半期に1軒、9世紀第4四半期1軒で、最終が今次調査区の第1号堅穴建物跡で10世紀前半頃と考えられる。地形的には北・東側の地域に集落の展開が推測されるものの、集落の南西部の盛衰が読みとれる。堅穴建物跡以外ではA・B区の第1次調査区寄りに土坑が各1基確認されている程度である。

第2次調査区の第1号堅穴建物跡は、長軸3.86m、短軸2.70～3.10mの不整長方形で面積が11㎡と小振りである。また、カマドが西向きに構築されており、第1次調査区及び近隣遺跡の例を見ても北西向きはあるものの他に例が見られない。この時期の特徴として、土師器、須恵器の他に、灰釉陶器や緑釉陶器、墨書土器、鉄製品なども出土している。なお、本跡の西辺北寄りに確認された第1号堅穴建物跡第1号土坑は堅穴外という位置から重複関係を想定し調査を進めたが、出土遺物に接合関係が見られることから、同時併存＝付属施設との判断に至った。用途は判然としないが、何らかの事情で堅穴外に土坑を設けたと思われる。さらに、床面にも特徴が見られ、硬化面が堅穴の中央部に幅約1.00m程で東西に帯状に認められ、この部分がその南・北側の床面より0.10m程凹むように構築されていたが、その目的は明確にし難い。

遺物は土師器（坏、埴、高台付埴、高坏、鉢、小形甕、甕、甑）、須恵器（坏、高台付坏、蓋、瓶、長頸壺、

壺蓋、甕)、灰釉陶器(碗)、緑釉陶器(蓋)、鉄製品(釘)、土製品(土玉)などが出土した。

中世 該期の遺構はA区中央西寄りに集中して確認され、地下式坑4基、方形堅穴3基、性格不明遺構1基が確認された。小支谷を隔てた西に隣接する登城遺跡・登城館跡では堀跡、土塁によって区画された複数の郭が確認され、掘立柱建物跡、地下式坑、堅穴状遺構、井戸跡、墓壇(粘土貼り土坑)などが調査されている。15世紀後半から16世紀前半を中心とする時代に機能したと推測されている。今次調査区では堀・土塁などの区画施設は確認されておらず、城館跡とは判断し難い。しかし、「飛城」の地名からは城館跡関連の施設が想起される。また、「飛」文字を冠する地名は「飛ぶ火」=「狼」との関連が推定されている(宇都宮市教育委員会 1996)。隣県の栃木の例は中世城郭跡から古代の「飛ぶ火」の遺構が確認されたものであるが、古代・中世のいずれにせよ伝達手段の一つとして、その可能性を全くは否めないであろう。既往の調査で「狼」関連の遺構は確認されていないものの、未調査の地区に「飛ぶ火」の痕跡が残されている可能性もある。しかし、地面を深く掘り込む遺構でなければ消失したかもしれない。

今回確認された地下式坑は4基が近接して認められ、方形堅穴(堅穴状遺構)も隣接して構築されていた。さらに、第2号性格不明遺構も接近して確認されたが、大部分が調査区外となる為詳細は判然としない。調査し得た部分の状況からは、該期の台地整形区画と推測される。区画内からは土坑1基、ピット4基が確認され、ピット29は本跡を切っているが、そのほかの遺構との新旧関係は不明で、同時併存の可能性もある。これらの遺構群は葬送に伴う施設と推測されるが、確認された土坑群に墓壇と思われるものはなかった。

遺物は炆器(捏鉢、甕)、土師質土器(小皿、内耳土鍋)、陶器(天目茶碗、瓶)、銭貨(北宋銭、明銭)などが出土し、帰属時期は15世紀後半から16世紀前半頃と考えられる。

近世以降 時期不明とした土坑、溝跡、ピットなどの中には、古代、中世のものが含まれている可能性もあるが、多くは該期に帰属すると思われる。

遺物は陶器(碗、菊皿、皿、瓶)、磁器(小坏、皿)などが出土した。

第2節 特徴ある遺構について

中世遺構群 前述の通りA区の中央西寄りで、地下式坑、方形堅穴、台地整形区画等の遺構群が南北20.0m、東西8.00mの範囲に集中して構築されていた。地下式坑は4基であるが、主軸方向が東西のものは第13・14号地下式坑、南北のものは第19・51号地下式坑と2基づつに分かれる。第13号は室部が奥に向かって突出する凸状で全体は十字形である。第14号は堅坑部が室部の長軸に直交せず斜めに設けられた変形T字形である。第19号は丸味を帯びる堅坑部で室部は半円形で全体が扇形となる。第51号は丸味を帯びた堅坑部が室部の中央より片寄って設けられた変形T字形である。堅坑部の深さは第51号が1.20mで最も浅く、他の3基は1.40～1.70mで、第13・51号は室部底面より0.10～0.20m高く、第13号は明確な段をもつ。ほかの2基は室部底面とほぼ同じ高さであった。いずれも室部の天井部が全体もしくは一部が遺存していた。壁及び天井部の形状は次の通りである。第13号は室部の壁がほぼ直立し、奥壁は高さ1.00mで天井部に接し、堅坑部側へ0.80mでの天井部の高さは1.25m程である。これより堅坑部側は天井部内面が剥落していた。第14号は室部の壁がほぼ直立し、奥壁は高さ0.85mで天井部に接し、堅坑部側に0.60m付近での高さは1.25m程である。第19号は室部の壁が丸味をもって立ち上がり、奥壁は高さ1.05mで天井部に接し、室部中程での高さは1.30mである。第13・14・19号は中央で天井部の高さが1.25～1.30mであるが、第51号は0.80mで内部での移動は窮屈な状態であった。平面形から堅坑部より室部に至る部分に特別な出入口の施設を設けず、堅坑から直接室部に入る構造と推測される。第19号の室部底面に不規則に走る浅い溝跡が設けられていたが、性格は

不明である。

方形竪穴は3基確認され、第15・16号方形竪穴は2基が並んで所在し、第18号方形竪穴は1.50m程南に所在する。いずれも北西部もしくは西側が調査区外となり、第15号は長軸2.15～2.30m以上、短軸1.46～1.72mの不整長方形で、他もほぼ同規模と推測される。深さはいずれも1.00m内外で、壁は直立もしくは若干内傾していた。これらのうち第15・16号では長辺側の壁下にピットが設けられていた。第15号は4基、第16号は3基で、ともに南東寄りに認められた。一般的な方形竪穴では短辺側の壁下に棟持用の柱穴が見られ、これらとは明らかに上屋の構造が異なるものと推測される。また、第18号はピットが確認されず、これらとも異なる構造と思われる。第15・16号の場合は一方の小口側に寄っていることから部分的な上屋であったことも推測される。ピットが内傾せず垂直に穿たれていることから、丸太等の支柱を立ててその上に丸太を渡して強固な上屋を構築した地下式坑の代用的な用途も推測される。また、ピットが確認されていない第18号の場合、未調査部分にピットが所在するのか、上屋を設けない構造であった可能性もある。これらの遺構に加え台地整形区画と考えられる第2号性格不明遺構も所在しており、葬送に関連する明確な遺物は出土していないが、遺構の構成がその可能性を高くする。

これらの遺構群は地下式坑の入り口部の構造及び出土遺物から、15世紀後半代から16世紀前半の葬送の場であったと考えられる。

なお、本遺跡の西に隣接する登城館跡においても地下式坑（壙）が確認されている。こちらは約15,500㎡の調査で僅かに2基の確認に止る。第3号竪穴状遺構は東と西に2つの室部があり平面形はH字形でその中央に竪坑部が設けられていた。底面の深さは1.95mである。第13号竪穴状遺構は南西に竪坑部、北東に室部が設けられ全体の平面形はT字形で、室部は竪坑部側がやや広い台形であった。室部底面の深さは2.10mである。両者は第Ⅰ郭と第Ⅱ郭で確認され、100m程離れて所在する。本遺跡と同時期に機能していたと推定されるが、分布密度が大きく異なる。

また、方形竪穴と同種の遺構として竪穴状遺構が12基確認されている。平面形は基本方形もしくは長方形で、ピットをもたないもの、両短辺の中央にピットをもつもの、竪穴の隅にピットをもつものがあり、竪穴の隅にピットをもつものの割合は20%程度である。この中で、第12号竪穴状遺構は南側に出入り口施設の張り出しが設けられ、竪穴は南側を除く3方が2段に掘り込まれていた。そして、上段面の隅にピットが設けられており上屋の存在が推測される。他の遺構のピットは竪穴の底面に設けられており、上屋の構造の違いが推察される。これらの竪穴状遺構は第Ⅰ郭と第Ⅱ郭にまとまって確認され、周辺には墓坑（壙）と考えられる粘土貼り土坑も確認されている。

したがって、登城館跡におけるこの種の遺構群も本遺跡と同様に葬送に関連するものと考えられるが、谷を挟んで約70m程の距離で館の内外に分離して所在する両者の関係は興味深い。

[引用・参考文献]

- 井上義安 1973 『茨城県大洗町長峯遺跡』 大洗町教育委員会
- 熊川英子編 1973 『大洗町遺跡分布調査報告書』 大洗町教育委員会・大洗町遺跡分布調査団
- 井上義安・宮田 毅・杉浦 隆・福田義彦 1975・1976 『ひいがま I・II』 ひいがま遺跡発掘調査団事務所
- 井上義安 1977 『大洗町ひいがま遺跡 昭和51年度発掘調査略報』 鹿島線遺跡調査髭釜班
- 井上義安 1980 『髭釜』 大洗地区遺跡発掘調査会
- 井上義安・植田友次・松橋英二 1980～1982 「千天遺跡における縄文時代土壌の調査 I～III」『潤沼手帳』 4～6
- 村田健二編 1980 『千天・鹿島線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』 大洗地区遺跡発掘調査会
- 中根 誠 1986 「守山藩の成立」『大洗町史(通史編)』 大洗町
- 藤本 武 1991 「大洗町髭釜貝塚」『藤本弥城先史資料整理調査報告書V』 勝田市教育委員会
- 宇都宮市教育委員会 1996 『シンポジウム古代国家とのろし』
- 井上義安・宮田 毅 1999 「髭釜遺跡(大洗町)」『茨城県における弥生時代研究の到達点』 茨城県考古学協会・十王町教育委員会
- 井上義安・金子浩昌 2000a 『大貫落神北貝塚』 大貫台地埋蔵文化財発掘調査会
- 井上義安・金子浩昌 2000b 『大貫落神北貝塚』 大貫台地埋蔵文化財発掘調査会
- 井上義安編 2000 『飛城・常福寺遺跡』 大貫台地埋蔵文化財発掘調査会
- 井上義安 2001 『落神遺跡』 大貫台地埋蔵文化財発掘調査会
- 井上義安・蓼沼香未由 2001 『登城遺跡』 大貫台地埋蔵文化財発掘調査会
- 古代の土器研究会編 2003 『古代の土器研究 平安時代の緑釉陶器一生産地の様相を中心に一』 古代の土器研究会
- 愛知県史編さん委員会 2007 『愛知県史 別冊窯業2』 愛知県
- 茨城県考古学協会中世シンポジウム実行委員会編 2011 『茨城の中世考古学の最前線』 茨城県考古学協会
- 栃木県教育委員会・栃木県立なす風土記の丘資料館 2011 『那須と白河一接圏の地 東山道、そして関』
- 佐々木義則 2013 「木葉下窯跡群産須恵器有台杯・有台杯蓋・有台盤の編年」『婆良岐考古』第35号 婆良岐考古同人会
- 大賀 健 2015 『登城館跡(第1次)』 大洗町都市建設課
- 大洗町教育委員会編 2023 『史跡磯浜古墳群保存活用計画』 大洗町教育委員会
- 大洗町教育委員会生涯学習課・株式会社勾玉工房 2024 『飛城遺跡発掘調査現地説明会配布資料』



A. A・B区全景（垂直、上が東）



B. 遺跡全景（北西から）



C. A区全景（垂直、上が北西）



D. A区基本層序（南西から）



E. B区基本層序（北西から）

写真図版 2



A. 第4号土坑完掘 (南西から)



B. 焼土ピット1土層断面B-B' (南西から)



C. 第1号性格不明遺構完掘 (南西から)



D. 第1号竪穴建物跡完掘 (東から)



E. 第1号竪穴建物跡遺物出土状況 (南から)



F. 第1号竪穴建物跡カマド完掘 (東から)



G. 第1号竪穴建物跡カマド確認状況 (東から)



H. 第1号竪穴建物跡第1号土坑完掘 (東から)



A. 第10号土坑完掘（南西から）



B. 第B1号土坑完掘（南西から）



C. 第13号地下式坑完掘（南東から）



D. 第13号地下式坑完掘（南西から）



E. 第14号地下式坑完掘（西から）



F. 第14号地下式坑完掘（東から）



G. 第19号地下式坑完掘（南から）



H. 第19号地下式坑完掘（北から）

写真図版 4



A. 第 51 号地下式坑完掘 (東から)



B. 第 51 号地下式坑完掘 (北から)



C. 第 15 号方形竪穴完掘 (南東から)



D. 第 15 号方形竪穴ピット 1~4 完掘 (北西から)



E. 第 16 号方形竪穴完掘・土層断面 (南東から)



F. 第 18 号方形竪穴完掘・土層断面 (東から)



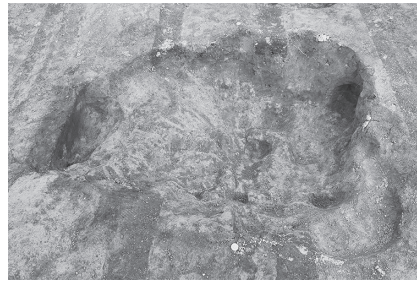
G. 地下式坑群完掘 (北から)



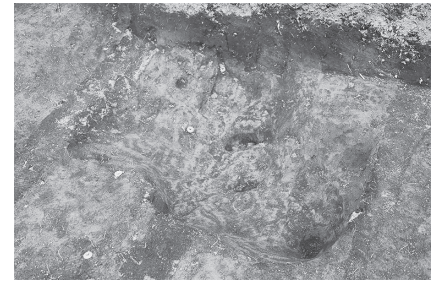
H. 第 2 号性格不明遺構完掘 (北から)



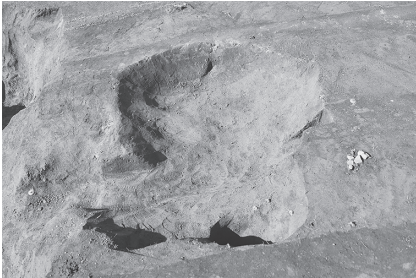
A. 第1号土坑完掘（西から）



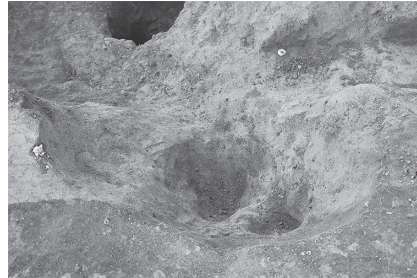
B. 第2号土坑完掘（北西から）



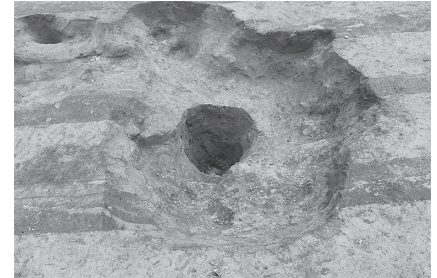
C. 第3号土坑完掘（西から）



D. 第6号土坑完掘（南から）



E. 第7号土坑完掘（南から）



F. 第8号土坑完掘（北から）



G. 第9号土坑完掘（南西から）



H. 第12号土坑完掘（北から）



I. 第17号土坑完掘（南東から）



J. 第20号土坑完掘（西から）



K. 第21号土坑完掘（南西から）



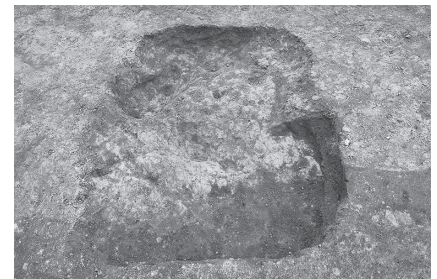
L. 第33号土坑完掘（南から）



M. 第38号土坑完掘・土層断面（東から）



N. 第42号土坑完掘（南から）



O. 第46号土坑完掘（南から）



P. 第47号土坑完掘（南西から）



Q. 第52号土坑完掘（南から）

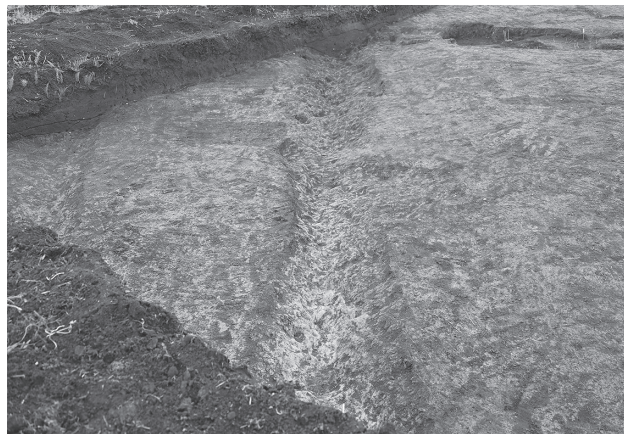


R. 第61号土坑完掘（南から）

写真図版 6



A. 第1号溝跡完掘（東から）



B. 第2号溝跡完掘（西から）



C. 第3号溝跡完掘（南西から）



D. 第4号溝跡東側完掘（東から）



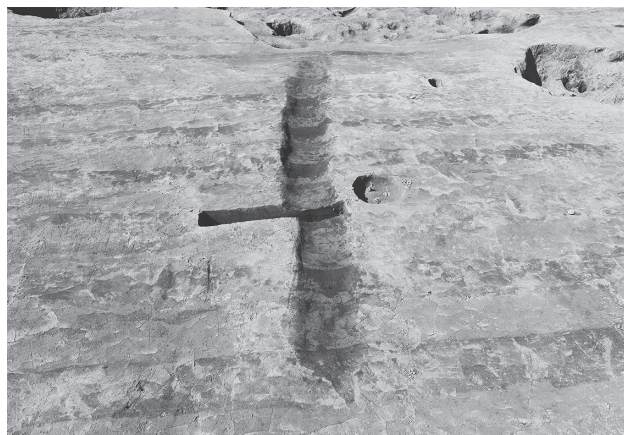
E. 第4号溝跡西側完掘（南から）



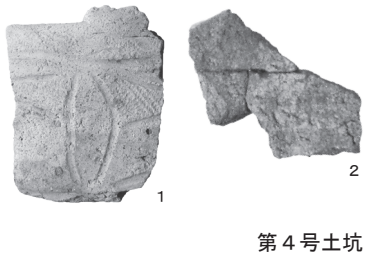
F. 第5号溝跡完掘（北東から）



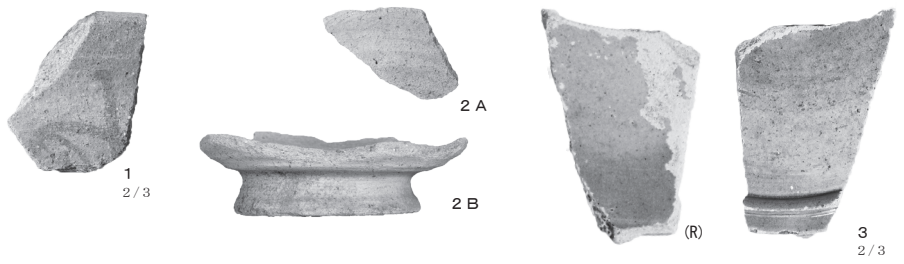
G. 第6号溝跡完掘（西から）



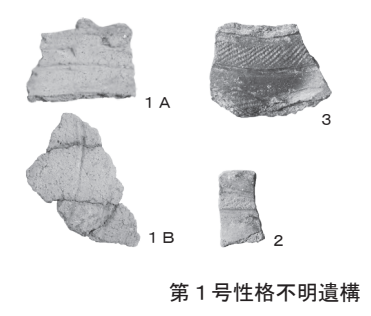
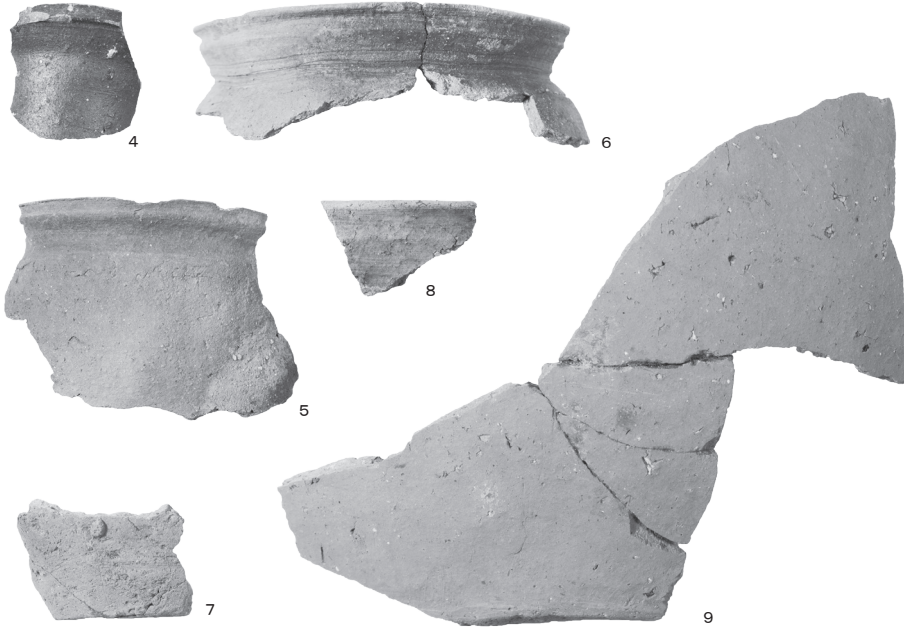
H. 第8号溝跡完掘（南から）



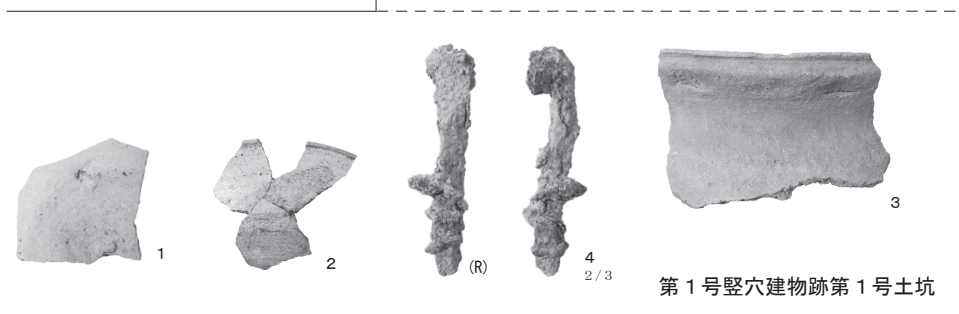
第4号土坑



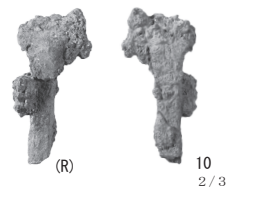
焼土ピット1



第1号性格不明遺構



第1号竖穴建物跡第1号土坑



第1号竖穴建物跡



第10号土坑



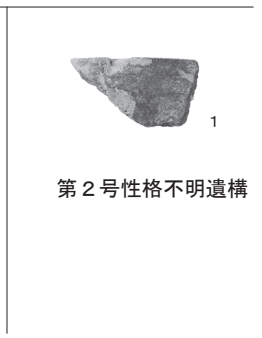
第B1号土坑



ピット13

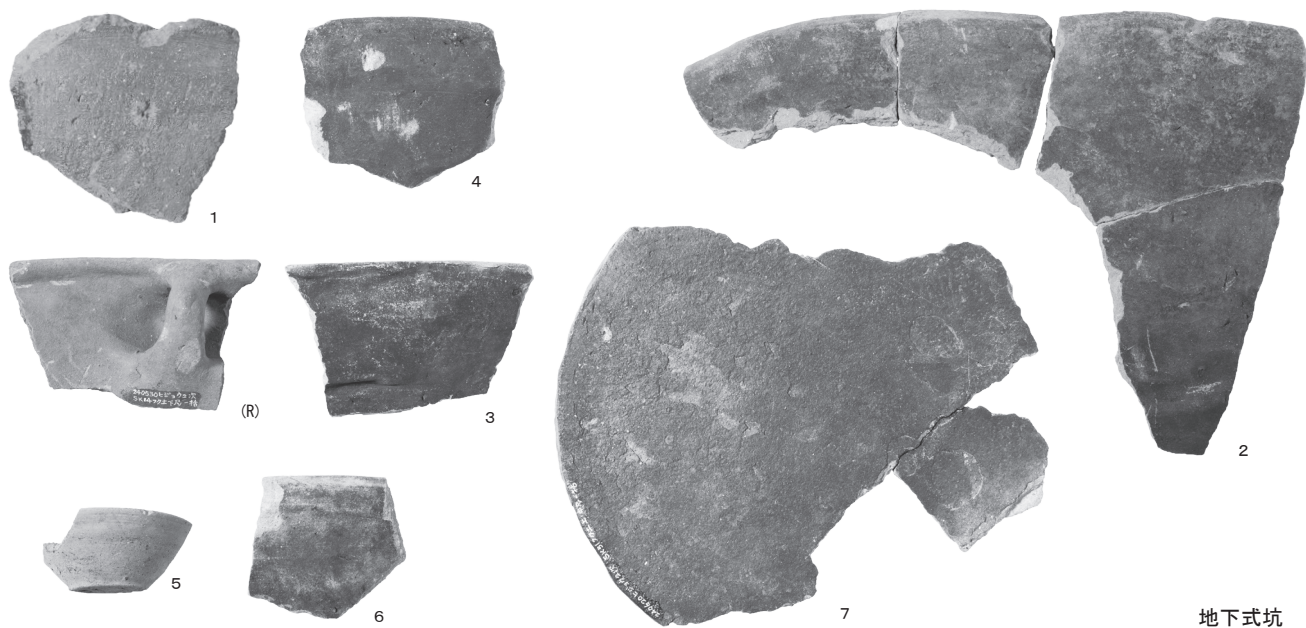


方形竖穴

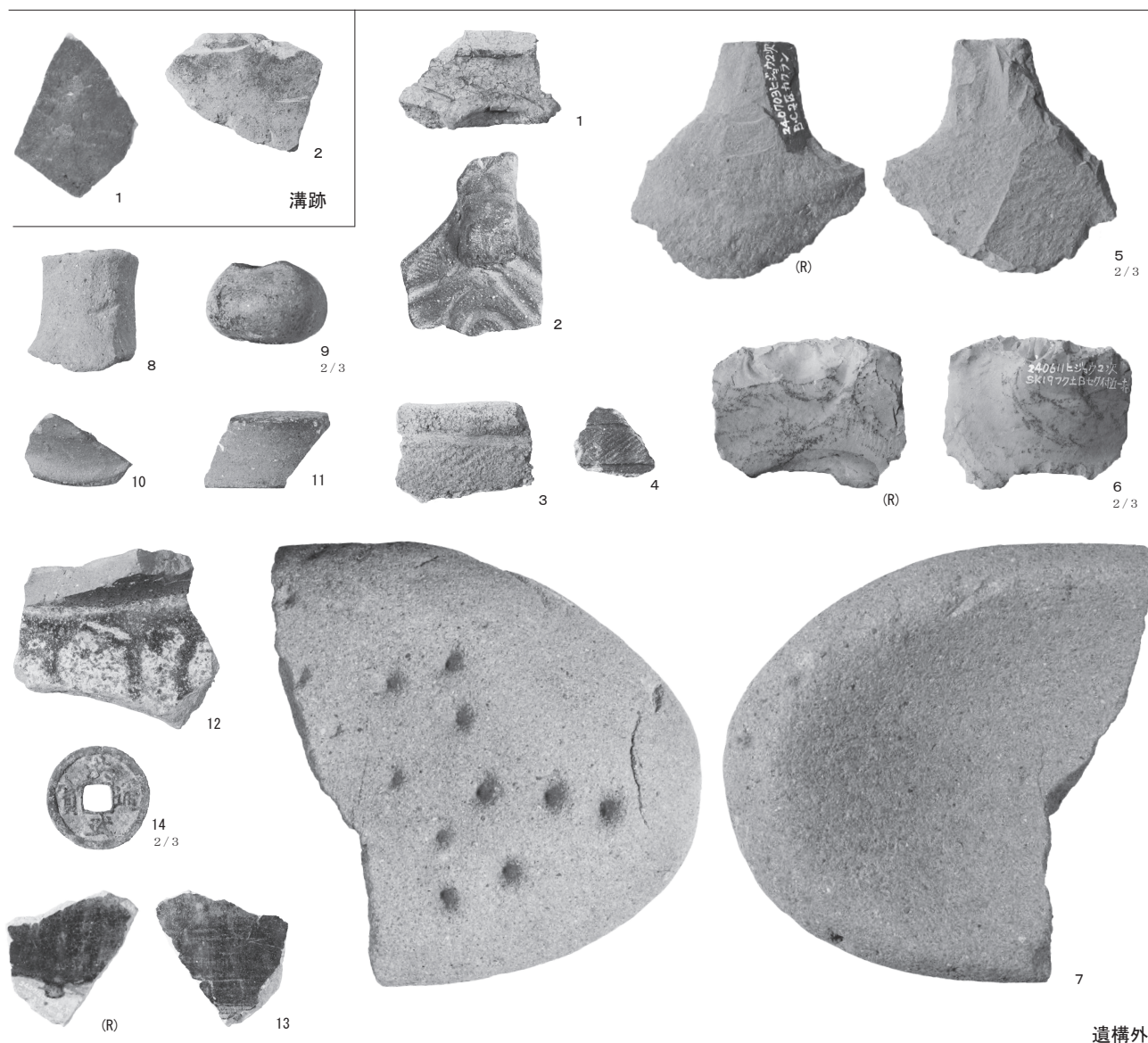


第2号性格不明遺構

写真図版 8



地下式坑



遺構外

報 告 書 抄 録

ふりがな	いばらきけんひがしいばらきぐんおおあらいまちひじょういせき（だいにじ）							
書名	茨城県東茨城郡大洗町飛城遺跡（第2次）							
副書名	大洗町消防本部改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	大洗町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第30集							
編著者名	蓼沼香未由 山室 敦 水野順敏 新井 潔							
編集機関	株式会社 日本窯業史研究所							
所在地	〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂 3112 TEL 0287-93-0711							
発行機関	大洗町教育委員会							
所在地	〒311-1301 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町 6881-88 TEL 029-267-023							
発行年月日	西暦 2025（令和7）年 10月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひじょういせき 飛城遺跡	いばらきけんひがしいばらきぐんおおあらいまちおお 茨城県東茨城郡大洗町大 ぬきちようあざひじょう ばんほかち ない 貫町字飛城1441番外地内	08309	049	36° 18' 15"	140° 33' 41"	20240325 ） 20240805	1,060 m ²	消防本部 改築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
飛城遺跡 （第2次）	集落跡	縄文時代	土坑 焼土ピット 性格不明遺構	1基 1基 1基	縄文土器（浅鉢、深鉢、 注口土器）、石器（石匙、 刃器、石皿）		中世遺構の検出	
		古代	竪穴建物跡 土坑 ピット	1軒 2基 1基	土師器（坏、埴、高台付 埴、高坏、鉢、小形甕、 甕、甑）、須恵器（坏、高 台付坏、蓋、瓶、長頸壺、 壺蓋、甕）、灰釉陶器（碗）、 緑釉陶器（蓋）、鉄製品 （釘）、土製品（土玉）			
		中世	地下式坑 方形竪穴 性格不明遺構	4基 3基 1基	炆器（捏鉢、甕）、土師質 土器（小皿、内耳土鍋）、 陶器（天目茶碗、瓶）、銭 貨（北宋銭、明銭）			
		時期不明 （近世以降含 む）	土坑 溝跡 ピット	22基 7条 62基	陶器（碗、菊皿、皿、瓶）、 磁器（小坏、皿）			
要約	第1次調査の成果から古代の集落跡の広がりが見込まれたが、該期の竪穴建物跡は僅かに1軒であった。しかし、台地縁辺部にあたる調査区（A区）西寄り、中世の地下式坑及び方形竪穴がまとまって確認されたほか、台地整形区画と思われる遺構も認められた。							

大洗町文化財調査報告書 第30集

茨城県東茨城郡大洗町

飛城遺跡（第2次）

大洗町消防本部改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

発行年月日 2025（令和7）年10月31日

編集 株式会社 日本窯業史研究所
〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂3112
TEL 0287-93-0711

発行 大洗町教育委員会
〒311-1301 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町6881-88
TEL 029-267-0230

印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷